令和４年度　老人保健事業推進費等補助金　老人保健健康増進等事業

# 生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究事業

# 報告書

令和５（２０２３）年３月

一般社団法人　全国食支援活動協力会

# 目次

目次・・・

第３章　研修会「食のちからで地域を豊かに事例から考える『食』のアクションプラン」の開催
・・・・・・・・・・・・３４
1　研修会の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
2　開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
3　プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３４
4　参加者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
第４章「『食でつながる』活動ガイドブック 事例から考えるアセット活用アイデア」
・・・・・・・・・・・・４７
1　作成の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
2　内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
【資料集】
1　研修会チラシ（香川会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料－１
2　研修会チラシ（石川会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料－３
3　研修会チラシ（全国会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料－４
4　研修会テキスト（香川会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料－６
5　研修会テキスト（石川会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料－２４
6　研修会テキスト（全国会場）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料－３４

# 第１章

# 調査研究事業の概要

## １　事業の目的

地域食堂等の住民主体による「食」関連の生活支援サービスは、世代や属性を問わずニーズが高く、取り組みたいという住民も多い。その一方で、こうした「食」関連の居場所活動においては、場所・物資の確保や衛生管理・感染症対策、担い手の確保、利用者への広報、資金の調達といった活動を立ち上げる際の準備、そして活動を持続させるための方策など様々な課題がある。　そこで、先行して取り組んでいる住民主体による多様な「食」関連の活動を調査し、地域の生活支援サービス創出の支援や関係者の調整を行うことが求められる生活支援コーディネーターに対し、住民主体の「食」関連生活支援サービスの立上げから発展への支援方策と活動を持続可能にするための支援方策を示す。

## ２　事業の内容

### １）研究委員会、ワーキング部会の開催

自治体、社会福祉協議会、生活支援コーディネーター、有識者、食関連の生活支援サービス提供団体からなる研究委員会を設置する。研究事業全体の方針・計画の確定、調査の企画・方針の策定、収集資料の検討とモデル形成、および報告書内容の検討について５回の会議を行った。

また、ワーキング部会を設置し、６回の会議を通して調査項目内容の検討・実施・分析、事例収集や研修会の検討、手引書・事例集の開発を行った。

#### （１）研究委員会・委員

第１回研究委員会
日時：7 月 13 日（水）16：00～17：30
場所：NATULUCK 飯田橋東口店　4 階大会議室 B（東京都千代田区）、Zoom
内容：・事業のねらい・概要、実施スケジュール
・調査対象活動類型
・調査対象活動について

第２回研究委員会
日時：8 月 23 日（火）14：00～15：00
場所：Zoom

内容：・訪問調査の報告
・ヒアリング内容の検討
・事例の選定について

第３回研究委員会
日時：9 月 27 日（火）14：00～15：00
場所：Zoom
内容：・調査の進捗、報告・分析
・訪問先事例の検討
・研修会企画案の検討

第４回研究委員会
日時：12 月 12 日（火）16：00～17：30
場所：Zoom
内容：・調査の報告・分析
・研修会の進捗報告
・ガイドブック構成の検討

第５回研究委員会
日時：3 月 27 日（月）18：00～19：30
場所：Zoom
内容：・調査の報告・分析
・研修会の進捗報告
・ガイドブック構成の検討

＜研究委員会委員＞

| | | |
|---|---|---|
| ◎委員長 | 内藤 佳津雄 | 日本大学文理学部 教授（法人理事） |
| 委　員 | 秋山 由美子 | 特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 理事（外部委員） |
| 委　員 | 荒井 崇宏 | 稲城市福祉部高齢福祉課高齢福祉係 係長（外部委員） |
| 委　員 | 石田 惇子 | 一般社団法人全国食支援活動協力会 代表理事 |
| 委　員 | 石橋 智昭 | 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 主席研究員（外部委員） |
| 委　員 | 日下 直和 | 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 事務局長（外部委員） |
| 委　員 | 近藤 博子 | 一般社団法人ともしび at だんだん 代表理事（外部委員） |
| 委　員 | 清水 洋行 | 千葉大学大学院人文科学研究院 教授（法人理事） |
| 委　員 | 隅田 耕史 | 特定非営利活動法人フェリスモンテ 事務局長（法人理事） |
| 委　員 | 高橋 良太 | 社会福祉法人全国社会福祉協議会地域福祉部 部長（外部委員） |
| 委　員 | 田中 将太 | 琉球大学人文社会学部 専任講師（法人理事） |
| 委　員 | 中島 智人 | 産業能率大学経営学部　教授（法人監事） |
| 委　員 | 原田 晃樹 | 立教大学コミュニティ福祉学部 教授（外部委員） |
| 委　員 | 村田 明日香 | 社会福祉法人 石川県社会福祉協議会 地域福祉課（外部委員） |

委　員　　室田 信一　　東京都立大学人文社会学部 准教授（外部委員）
委　員　　目﨑 智恵子　高崎市第１層生活支援コーディネーター（外部委員）
　　主管課：高崎市福祉部長寿社会課
委　員　　平野 覚治　　一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事

（２）ワーキング部会・ワーキング部会委員

第１回ワーキング部会
日時：7月29日（火）16：00～17：30
場所：Zoom
内容：・ヒアリング方針について
　　・成果物イメージについて

第２回ワーキング部会
日時：8月18日（木）16：00～17：30
場所：Zoom
内容：・ヒアリング方針について
　　・事例の類型化について
　　・今後のヒアリング事例候補について

第３回ワーキング部会
日時：9月16日（金）16：00～17：30
場所：Zoom
内容：・事例の情報整理について
　　・今後のヒアリング候補について
　　・研修会企画について

第４回ワーキング部会
日時：1月11日（水）15：30～17：00
場所：Zoom
内容：・ガイドブックＱＡ部分について

第５回ワーキング部会
日時：2月17日（金）15：00～16：30
場所：Zoom
内容：・ガイドブック内容について

第６回ワーキング部会
日時：3月8日（水）15：00～16：30
場所：Zoom

内容：・ガイドブック内容について

＜ワーキング部会委員＞

| | | |
|---|---|---|
| ○部会長 | 平野 覚治 | 一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事 |
| 委　員 | 清水 洋行 | 千葉大学大学院人文科学研究院 教授（法人理事） |
| 委　員 | 中島 智人 | 産業能率大学経営学部 教授（法人監事） |
| 委　員 | 原田 晃樹 | 立教大学コミュニティ福祉学部 教授（外部委員） |
| 委　員 | 目﨑 智恵子 | 高崎市第１層生活支援コーディネーター（外部委員） |
| | | 主管課：高崎市福祉部長寿社会課 |

## ２）事例収集（ヒアリング調査）（第２章）

### （１）ヒアリング事例の選定

住民主体による「食」関連の生活支援サービスを提供している団体とその活動団体を取り巻く環境として、団体への支援や連携を行っている生活支援コーディネーター・市区町村・NPO 支援センター・社会福祉協議会・地域包括支援センター等の担当者等を対象としたヒアリングを実施した。多様な事例を収集するため、活動場所の地域特性（都市部、郊外、農山村地域）、活動の目的（介護予防、孤独孤立解消、食育、雇用・出番、世代間交流等）、支援対象となる「食」行動（食べ物を買う、人と食べる、伝統料理の伝承等）、活動内容（多世代型地域食堂・サロン、食品販売、移動販売、キッチンカー、伝統料理の販売等）に注目し事例の選定を行い 11 事例にヒアリングを行った。

### （２）ヒアリングの概要

生活支援コーディネーターが「食」関連の生活支援サービスに対する支援をする際に参照するためのガイドブックに掲載することを想定し、ヒアリング対象の活動内容・手法、立上げ経緯と展開、活用している地域アセット、生活支援コーディネーターとの関わり等を中心に聞き取り調査を行った。調査結果は第２章に記載した。

①調査実施地域

福島県本宮市、神奈川県横浜市（栄区庄戸・栄区公田町）、千葉県柏市、香川県三豊市、鹿児島県鹿屋市、高知県高岡郡四万十町、大阪府富田林市、石川県白山市、石川県金沢市、香川県善通寺市

②調査対象

・「食」関連の生活支援サービスを運営する団体
・団体への支援や連携を行っている生活支援コーディネーター・市区町村・NPO 支援センター・社会福祉協議会・地域包括支援センター・企業等の担当者
・自治体、社会福祉協議会の職員等

③調査項目

・活動団体に対しては、主に活動の立上げ時の動機や課題、どのように資源を巻き込み活動につな

げていったか、運営や食支援のノウハウについて聞き取りを行った。
・活動団体を支援する組織の担当者に対しては、主に支援団体との関係性、支援の取組内容、支援団体をつなぐ先について聞き取りを行った。

④訪問調査地・日時・応対者等

［1］福島県本宮市：「こども食堂コスモス」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>8 月 11 日 | コスモスグループ | 浦井カツ子氏<br>（同席：<br>ふくしま NPO ネットワーク<br>センター 野地理恵子氏、<br>本宮市社会福祉協議会地域福祉課長 宇山利弘氏） | 清水委員<br>中島委員<br>目﨑委員<br>伊藤<br>小泉<br>岩﨑 |
| | ふくしまこども食堂ネットワーク | 宮川淳氏 | 宮地 |
| 2022 年<br>9 月 5 日<br>オンライン | 本宮市子ども福祉課 | 武藤洋子氏 | 清水委員<br>中島委員<br>平野委員<br>伊藤<br>小泉<br>岩﨑<br>宮地 |

［2］石川県金沢市：「足軽子ども食堂」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>11 月 17 日 | 足軽こども食堂 | 新谷寿久氏<br>上島氏 | 伊藤<br>小泉 |
| | 菊川社会福祉協議会 | 中谷みさ子氏 | |

［3］鹿児島県鹿屋市：「サロンで調理ボランティア」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>10 月 18 日 | 社会福祉法人隣の会 | 齋藤鈴子氏 | 目﨑委員 |
| | 鹿屋市包括支援センター | 松元真由美氏<br>森ゆかり氏<br>川内みより氏 | 田中委員<br>伊藤<br>小泉<br>岩﨑<br>宮地 |

［4］神奈川県横浜市：「UR 公田町団地「いこい」」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>8 月 29 日 | NPO 法人お互いさまねっと公田町団地 | 有友フユミ氏 | 清水委員 |
| | 横浜市桂台地域ケアプラザ | 矢澤美穂氏<br>勝呂朋子氏 | 平野委員<br>伊藤<br>小泉<br>岩嵜<br>宮地 |

［5］香川県善通寺市：「ここめし／ここめし女子会」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>9 月 26 日 | 善通寺市地域支えあいセンター | 大藤千津氏<br>村井美保氏<br>古田房子氏 | 目﨑委員<br>平野委員<br>小泉<br>岩嵜 |

［6］香川県三豊市：「下小モーニング」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>9 月 26 日 | 下小モーニング/みの元気塾 | 関博氏 | 目﨑委員<br>平野委員<br>小泉<br>岩嵜 |
| 2022 年<br>9 月 8 日 | 三豊市社会福祉協議会 地域福祉推進課 | 上村早紀子氏 | 原田委員<br>平野委員<br>小泉 |

［7］石川県白山市：「介護予防サロン福蝶とキッズカフェ」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>10 月 29 日 | 蝶聴キッズダイニング | 五郎川外美江氏 | 小泉<br>岩嵜 |
| 2022 年<br>11 月 7 日<br>オンライン | 白山市こども子育て課/白山市社会福祉協議会 | 中川亜由美氏<br>河奥氏 | 伊藤<br>小泉<br>岩嵜 |

［8］神奈川県横浜市：「上郷東連合町会 移動販売車」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>9 月 13 日 | 横浜市栄区社会福祉協議会 | 若尾ちづる氏 | 清水委員<br>中島委員<br>伊藤<br>小泉<br>岩嵜 |
| | 上郷東連合自治会 | 芦川弘氏 | |

［9］千葉県柏市：「キッチンカーde あおぞらカフェ」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>9 月 22 日 | NPO 法人 ワーカーズコレクティブ<br>ういず | 北田恵子氏 | 清水委員<br>小泉<br>宮地 |
| 2022 年<br>9 月 30 日<br>オンライン | ちばの WA 地域づくり基金 | 志村はるみ氏 | 清水委員<br>伊藤<br>小泉<br>宮地 |

［１０］高知県高岡郡四万十町：「十和おかみさん市」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>10 月 27 日 | 株式会社おかみさん市 | 居長原信子氏 | 原田委員<br>平野委員<br>伊藤 |
| | 株式会社四万十ドラマ | 畦地履正氏 | |
| 2022 年<br>10 月 28 日 | 一般社団法人 いなかパイプ | 佐々倉玲於氏 | 原田委員<br>平野委員<br>伊藤 |
| | 四万十町役場十和地域振興局 | 上川優氏 | |

［１１］大阪府富田林市：「わっく Café」

| 日時 | 団体 | 応対者 | 調査担当 |
|---|---|---|---|
| 2022 年<br>11 月 12 日 | 一般社団法人わっく金剛「わっくカフェ」 | 岡本聡子氏 | 隅田委員<br>伊藤<br>小泉<br>岩嵜 |
| 2022 年<br>11 月 14 日<br>オンライン | 富田林市産業まちづくり部 | 塚本隆之氏 | 隅田委員<br>伊藤<br>小泉<br>岩嵜 |

### 3）生活支援コーディネーター研修「食のちからで地域を豊かに事例から考える『食』のアクションプラン」の開催　（第３章）

主に生活支援コーディネーターを対象とした研修会を3日程で開催した。結果は第３章に記載した。

（1）目的

・全国で取り組まれている多様な食支援サービスとその立上げと活動継続の手法について学ぶ
・地域コミュニティ・地域福祉において食支援サービスがもたらす価値について知る
・食支援サービスの立上げ・継続に対して支援の計画を構想できる
・生活支援コーディネーター同士の交流と情報共有

（2）対象

生活支援コーディネーター、コミュニティソーシャルワーカー、自治体、社協・ボランティアセンター等の生活支援サービス提供団体を支援している組織・機関の職員やコーディネーターと協議体メンバー、住民　等

（3）開催地・日時

■香　川

日時：2022年12月6日　13:00～16:20
会場：ふらっと仏生山 高松市仏生山交流センター 2階／Zoomと併用
参加者：110名

■石　川

日時：2022年12月9日　13:30～16:00
会場：Zoomを利用したオンライン開催
参加者：28名

■全　国

日時：2023年1月20日　13:00～16:20
開催方法：Zoomを利用したオンライン開催
参加者：177名

（4）プログラム

以下の３部構成とした。

【講義】「多様な食支援サービスとその可能性」
多様な食支援サービスの活動種類とそのサービスがもたらす効果についてアセット重視という観点から説明した。

【事例】実践事例の共有　2～3事例の発表と事例の解説
活動概要、活動を始めたきっかけや当初の課題意識、活動が立ち上がり展開していったプロセス、活動を支えるアセット/地域資源、生活支援コーディネーターや中間支援組織との連携を中心に報告。

【演習】
香川・石川研修：「食のアクションプランを考える」
テーマに沿って事例発表者や有識者への質問・意見交換を行うグループディスカッションを実施した。ディスカッションテーマは事前アンケートをもとに関心の高いものを設定した。
（「食×出番づくり」「食×世代間交流」「食×孤立孤独／生活困窮」「食×地域資源をつなぐ」）
東京研修　　：質疑応答/意見交換
事例発表者への質疑応答/意見交換を通して食支援サービスの課題等について議論した。

### 4）「『食でつながる』活動ガイドブック 事例から考えるアセット活用アイデア」の作成（第4章）

ヒアリング結果から居場所支援のための事例やノウハウを整理し、自治体や社協が、生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーター等に研修を行う際に活用することを想定したガイドブックを作成した。アフターコロナを見据えた運営のノウハウについても提案した。
作成したガイドブックは関係者、研修会参加者、希望者に配布するとともに、当会ホームページにて電子版で公表する。カラー冊子は第4章に収載した。

# 第２章

# 事例収集（ヒアリング調査）

## １　調査の概要

### １）目的

地域の生活支援サービス創出の支援や関係者の調整を行うことが求められる生活支援コーディネーターに対し、住民主体の「食」関連生活支援サービスの立上げから発展への支援方策と活動を持続可能にするための支援方策を示すことを目的に、先行して取り組んでいる住民主体による多様な「食」関連の活動を調査する。

### ２）調査内容

「食」関連の生活支援サービスを運営する団体/団体への支援や連携を行っている生活支援コーディネーター・市区町村・NPO 支援センター・社会福祉協議会・地域包括支援センター・企業等の担当者や自治体、社会福祉協議会の職員等に対して下記の項目に関して聞き取りを行った。

| **Ⅰ　住民主体による「食」関連の生活支援サービス（配食、会食会、地域食堂、フードパントリー、買い物支援、食育活動等）活動団体の代表者等に向けた質問項目** |
|---|
| 1. 活動の始まり～活動の変化<br>・中心となっている人たちは誰か<br>・活動の動機<br>・活動が認識している課題<br>・活動で大切にしていること<br>・活動がめざしていること<br>・上記の変化があったか（変化のきっかけは何か。どのように変化したか。）<br><br>2. 活動の資源の巻き込み<br>（1）資源の種類とそのプロフィール<br>① 人的な資源<br>・活動者<br>・利用者<br>② 物的な資源<br>・場所<br>・用具 |

・資金
・食材

（2）上記の人や物的資源へのアクセス
・どのように知ったか
・どのようにアクセスしたか

3. 活動のノウハウ
（1）運営・活動関係
（2）食関係

4. 支援を受けた（受けている）中間支援、制度（どこから、何を、どのように）
5.今後の展望・課題、必要とする支援

**Ⅱ　団体を支援する生活支援コーディネーター・市区町村・NPO 支援センター・社会福祉協議会・地域包括支援センターの担当者等に向けた質問項目**

1. 支援対象団体との関係について
・ 支援対象団体とどのように出会うか
・ 支援対象団体への支援ニーズをどのように把握しているか
・ 支援対象団体の支援ニーズについて

2. 中間支援の取り組みの現状について
（1）資源の確保にかかわること
・ 人的な資源
・ 物的な資源
（2）運営・活動にかんすること
・ 団体運営の方法
・ 活動のやり方
（3）活動団体による利用者への支援にかんすること
（4）食にかんすること

3. 支援対象団体をつなぐ（ネットワークの）相手について
・ 食支援活動団体
・ 地域の団体・活動
（自治会、民生委員・児童委員、商店、企業、社会福祉施設、食支援以外の活動団体など）
・ 地域の中間支援（社協、ボランティアセンター、NPO 支援センターほか）
・ 活動分野にかかわる専門機関（保健所、地域包括、教育委員会、小中学校ほか）
・ 国や自治体（都道府県、市町村）の制度

4. 今後について
（1）活動団体（支援対象団体）の課題、活動団体が必要とする支援
（2）当団体（当職）の今後の展望について
・どのような中間支援組織になっていきたいか
・どのような取り組みをしていきたいか
・どのようなところ（専門機関、中間支援組織、企業等）とつながっていきたいか。

## 2　調査の結果

11事例を対象に行った聞き取り結果の概要を以下にまとめた。詳細についてはガイドブック（49頁に掲載）に掲載した。以下、ガイドブック事例紹介頁の情報を一部抜粋して掲載する。

事例１

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 福島県本宮市 |
| 取組の名称 | 「こども食堂コスモス」 |
| 掲載タイトル | 「百歳体操グループメンバーが担い手の「子ども食堂」」 |
| 取組の概要 | 18歳以下の子どもなら誰でも利用できる子ども食堂。高齢女性の体操グループが、得意な調理の腕を活かして高齢者と子どもの交流の場をつくっている。 |
| 運営の様子や特徴 | 主グループとして生まれ、同じメンバーが子ども食堂を運営しています。<br>百歳体操は毎週金曜日。朝から10名ほどが集まり、体操の後は手作りのサンドイッチやすいとんなどで早い昼ごはん。このごはんの時間が翌日の子ども食堂の打ち合せの場になります。子ども食堂のメニューを確認し、午後にはメンバーが運転する車でスーパーへ買い物に行き仕込みを行います。献立づくりや調理は代表の浦井さんの保育所の調理員時代の経験や、人が来れば手作りの食事でもてなしてきたメンバーたちの主婦の経験が生かされています。寄付で集まった食材での調理もお手のものです。１回の子ども食堂で60人前のお弁当を作ります（コロナ禍以降はお弁当配布に切り替え）。コロナ禍前は40人以上が集まって食事を共にしていました。モットーは「できることを、できるメンバーがする」。だれもがやりたいと思った時にできる、出番づくりを心がけています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］ 福島県本宮市本宮字下町36番地<br>［開催場所］（ お休み処コスモス）代表が所有する店舗物件<br>［運営団体］ コスモスグループ<br>［代　　表］ 浦井カツ子<br>［開設・営業開始］ 2019年12月<br>［活動概要］<br>・**子ども食堂**（現在は弁当配布） 土曜月２回 11:00-14:00<br>参加費 18歳以下無料・大人300円 |

| | |
|---|---|
| | 食　数 子ども用40食、その他20食、計60食を用意<br>**・いきいき百歳体操**<br>百歳体操 金曜月４回 10:00-10:30 体操、10:30-11:30<br>軽食とおしゃべり 参加費200円<br>おもりを使った約30分の筋力運動プログラムの自主活動。DVDを見ながら行う。<br>  <br>  <br>  |

事例２

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 石川県金沢市 |
| 取組の名称 | 「足軽子ども食堂」 |
| 掲載タイトル | 「江戸時代の登録文化財“足軽の家”で『シニア男性が運営する子ども食堂』」 |
| 取組の概要 | 調理から食後の遊びまでシニア男性だけで企画、運営している子ども食堂です。こども園や児童クラブともつながり地域で子どもの育ちを見守っています。 |
| 運営の様子や特徴 | 足軽子ども食堂は月1回木曜日の夜開催。事前登録した犀桜小学校児童クラブ2年生の14名が参加しています。ここは2年生だけが参加できる子ども食堂で、毎年参加者を回転させてなるべく多くの子どもに参加してもらいたいと考えていま |

| | |
|---|---|
| | す。食事+遊びのプログラムを運営するのは「クラブ足軽」のメンバー。60～80代のオール男性です。献立はカレーで固定しています。いつもカレーなのは、メニューを増やすと女性に手伝ってもらわなければならなくなるためだそう。カット野菜も活用して自分たちでできる範囲のことをすると決めています。8人のスタッフで、カレー・汁物・盛付け・配膳を分担して行います。材料費は1回5000円以内、米やカレールー等の寄付も活用しています。17時半前にスタッフが小学校内の児童クラブへ子どもたちをお迎えに。「今日は何して遊んだ？」等と話しながら帰ります。実施主体の善隣館は昔から地域にある福祉拠点で、こども園も運営していることから、安心して子どもを預けられます。終了は18時半で帰りは親に迎えに来てもらっています。立ち上げ当初は食事の前に「子ども論語塾」をしていましたが、低学年の子どもはなかなか集中できません。始めは理想もありましたが、やってみて子どもを自由にさせることが大切だと気付き、方向を変えました。そのかわりゲームの時間はしっかり準備して勝ち負けやルールも厳格にしています。おじいちゃんがやる子ども食堂なので、ダメダメ主義にはしたくありません。床の間がある広い座敷での夕食や大らかなおじいちゃんたちとのふれあいは、核家族家庭の子どもにとって非日常の楽しい場所になり、スタッフは子どもとふれあうことで元気をもらっています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］石川県金沢市菊川2-8-13<br>［開催場所］社会福祉法人永井善隣館「足軽の家」<br>［運営団体］クラブ足軽<br>［代　　表］新谷寿久<br>［開設・営業開始］2016年<br>［活動概要］<br>**・男性ボランティアによるこども食堂の運営**<br>開催日 毎月1回（木曜日）<br>17：00～18：30<br>17：00～17：45　食事<br>17：45～18：30　遊びの時間<br>参加者 犀桜小学校2年生15人前後<br>メニュー カレー、サラダ、スープ、デザート |

| | |
|---|---|
| |  <br>  <br>  |

事例３

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 鹿児島県鹿屋市 |
| 取組の名称 | 「サロンで調理ボランティア」 |
| 掲載タイトル | 「『調理ボランティアの派遣』活動を創出して、地域サロン応援」 |

| | |
|---|---|
| 取組の概要 | コロナがきっかけで始めた配食弁当の運営ノウハウを活かし、食の提供ができない市内のサロンへ調理ボランティアを派遣。 |
| 運営の様子や特徴 | 調理ボランティア派遣は始まったばかりで、試行錯誤しながらの取り組みです、と第2層SC松元さん。食事を通じた交流はみんなに喜ばれ効果も大きいですが、食事づくりの負担が大きく、またコロナの影響もあり、実施しているサロンはわずかです。そこで、高齢者向けの食事づくりや大量調理のノウハウがある隣の会と第2層SCが連携し、地域の高齢者サロンに隣の会の調理ボランティアを派遣するサービスを始めることになりました。一回目はサロン参加者が持ち寄った食材で隣の会ボランティアが料理を作り、サロンに届けました。隣の会とサロンのボランティアで盛付け、配膳を行いました。（メニュー：混ぜごはん・から揚げ・豚汁・酢の物）。二回目は調理ボランティアがサロンを訪問して調理を行いました。家庭では作らない中華料理のリクエストに応え、サロン代表者からは「参加者とゆっくり話ができたのがよかった」との感想をもらいました（メニュー：八宝菜・かき玉汁）。この取り組みがめざすのは、サロンが協力者と連携して食事提供のノウハウを積み重ねること。経験を積んだサロンが他のサロンをサポートする等、サロン同士が協力し合う土壌づくりをめざしています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］サロンで調理ボランティア<br>［開催場所］鹿児島県鹿屋市笠之原町7402-5<br>［運営団体］鹿屋市吾平地区内の高齢者サロン<br>［代　　表］社会福祉法人 隣の会<br>［開設・営業開始］理事長 斎藤鈴子<br>［活動概要］<br>**・ふれあいサロン川西**<br>（隣の会の事業。コロナ流行により休止し「お弁当の結」に移行）<br>2020年まで毎月第4木曜日に食事を提供して開催。参加費300円<br>・「**お弁当の結**」（隣の会の事業）<br>毎週火曜日に夕食弁当の配食（登録代100円、配食弁当500円、前払いチケット制）<br>1回あたりの配食数：30食<br>・「**サロンで調理ボランティア**」（隣の会とSCの連携による取組み）<br>吾平地区内の高齢者サロンに「お弁当の結」ボランティアを派遣して食事を提供する。 |

| | |
|---|---|
| |  <br>  <br>  |

事例４

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 神奈川県横浜市 |
| 取組の名称 | 「UR公田町団地「いこい」」 |
| 掲載タイトル | 「団地の空き店舗で『食品販売と日替わり定食提供』」 |
| 取組の概要 | 丘陵地の団地内の空き店舗を拠点にして、コミュニティレストランの運営や食品・日用品の販売をしながら見守り活動をしている。 |
| 運営の様子や特徴 | 「いこい」は急勾配の坂道が続く公田町団地の中心、バス停前にあります。ガラス張りの店舗は明るく、入り口には採りたての野菜が並び、緑豊かなテラス席もあります。店舗内には、トイレットペーパーや洗剤、インスタント食品・パン・お菓子・牛乳等の飲料や、スタッフの故郷から取り寄せた米や旬の果物が並びま |

| | |
|---|---|
| | す。週1回のあおぞら市では、近隣の農家の野菜や障害者施設の弁当のほか、地元スーパーから購入した肉や魚も扱います。商品にわずかなリベートをのせて販売しNPOの収益にしています。売れ残った場合はスタッフが買い取って回転させます。ランチの提供は週4回。日替わり定食・カレー・うどん・チャーハン等、すべて500円以内で食べられます。毎回30食程度を用意します。食事以外でもコーヒータイムや友人とのおしゃべりに施設を利用できます。拠点からは団地の通りが見渡せ、見守り活動に最適な環境です。「いこい」運営スタッフは来所した人への声かけや緊急対応をしています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］神奈川県横浜市栄区公田町団地1-740 番地１<br>［開催場所］URが管理する店舗<br>［運営団体］NPO 法人お互いさまねっと公田町団地<br>［代　　表］有友フユミ<br>［開設・営業開始］2010年3月<br>［活動概要］<br>・**あおぞら市**（2008年10月～） 毎週火曜日 10:00-15:00<br>・**買い物支援**（日用品販売 月・火・水・木・金）<br>・**ミニ食堂**（月・水・木・金の11:30-13:00）<br>麺類、定食等　350～500円<br>・**交流サロン**<br>気功、ヨガ、麻雀など（現在コロナのため休止中）<br>  |

| | |
|---|---|
| |  <br>  |

事例５

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 香川県善通寺市 |
| 取組の名称 | 「ここめし／ここめし女子会」 |
| 掲載タイトル | 「食を介してゆるやかなつながりを築く場所」 |
| 取組の概要 | 生活のしづらさを抱えた方や地域とのつながりの少ない方等が、ボランティアのつくる手作りの食事を介し地域の方々とゆるやかにつながり、自身の得意なことを生かしながら安心して過ごせる居場所。 |
| 運営の様子や特徴 | 「ここめし」「ここめし女子会」は地域支え合いセンター「ここ家（や）」で行われている取組のひとつ。ここめしは夕方の１時間半ほどで開かれている食を通じた居場所で、参加費は200円です。参加者は主に社協の相談に来られた方や関りのある方で、毎回１０～２０名程の参加があります。普段ひとりで食事をとられている方も、たまには誰かと食事をすることで嬉しい気持ちになれたり、社協での相談を一旦終えた方も案内や参加を通じて最近の様子を知ることができたりして、地域の中で継続したつながりが持てる場となっています。ここ家1階の「日替わりシェフの店なないろ」にシェフとアシスタントとして参加している2名がここめしでは調理ボランティアとして参加。地域の主任児童委員や民生・児童委 |

| | |
|---|---|
| | 員もボランティアとして参加し、配膳や盛り付けをします。参加者はボランティアや社協スタッフとの会話を楽しみながら手作りの料理をいただきます。小さな規模で開催しているため、大人数が苦手な人や声が聞き取りにくい人でも安心して参加できる環境です。ここめしの開催に向けて、スタッフ・ボランティアで打ち合わせの会を設け、その中で前回活動の振り返りや次回の打ち合わせなどを行っています。参加者の様子や配慮が必要なことなど丁寧に情報共有を行って、開催の日を迎えます。できたての温かい食事をだれかと食べること、そんな会食会の予定ができることが、参加者の生活の小さな楽しみになっているようです。また参加者が定期的にスタッフや地域のボランティアに会えることにより、ちょっとした困りごとでも話せる関係性が生まれます。比較的男性が多かったここめしに行きづらかった女性や性同一性障害の方のニーズを捉えここめし女子会を新たに始めました。こちらはサロンのような感じでお菓子やスイーツを囲み、お茶を飲みながら少人数でゆったりと過ごせる場になっています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］ここめし／ここめし女子会<br>［開催場所］香川県善通寺市生野本町二丁目15番31号<br>［運営団体］善通寺市地域支え合いセンターここ家の１階生きがい広場<br>［代　　表］善通寺市社会福祉協議会が運営<br>［開設・営業開始］2016年4月<br>［活動概要］<br>**・ここめし／ここめし女子会**<br>生活のしづらさを抱えた方、地域とのつながりが少ない方等が会食をしながら食を通じて地域の方々とつながるきっかけを作るとともに、安心して過ごせる居場所を実施。<br>**・日替わりシェフの店なないろ**<br>地域住民がシェフとなり日替わりでランチを作り、一般の方に提供するワンデイキッチンを運営。<br>  |

| | |
|---|---|
| |  <br>  |

事例 6

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 香川県三豊市 |
| 取組の名称 | 「下小モーニング」 |
| 掲載タイトル | 「地域のシニアボランティアが『朝食サービス』で子どもの育ちを応援」 |
| 取組の概要 | 地域で活動する高齢者メンバーが小学校で子どもに朝食を提供、食育と見守り、多世代交流を行っている。 |
| 運営の様子や特徴 | 月曜日の朝6時、地域の常設サロン「みの元気塾」の活動拠点である市保健センター内「太陽の家」キッチンで、朝食の準備が始まります。朝食づくりは「みの元気塾」のボランティア「PASボランティアみの」と、民生・児童委員、食生活改善推進員からなるグループが分担して行っています。スタッフは各グループ1回に6~8名です。朝食は7時前に下高瀬小学校の家庭科室に運ばれ、7時15分から「朝ごはんの会下小モーニング」が始まります。「友だちと一緒に食べると楽しいから」と毎回楽しみに登校してくる子、「嫌いだった野菜もここだと食べられる」と言う子もいます。最初は恥ずかしそうにしていた子も大きな声で挨拶ができるようになりました。全校約180名に対し担任の先生経由で申込書が配られて、40~50名の希望者が利用します。メニューはおにぎりかパン、汁物におかず1品。子どもが好きなもの、食べきれる量等の検討を重ね、子どもが自分で量を選べるようにしました。昼の給食とメニューがかぶらない工夫もしています。朝食 |

| | |
|---|---|
| | を食べると授業に集中する、体育を元気に受けることができる等の変化があり、学校側も朝食の時間を大切に考え、協力しあっています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］香川県三豊市三野町吉津乙2030保健センター内「太陽の家」<br>［開催場所］下高瀬小学校（三豊市三野町下高瀬760-1）<br>［運営団体］　下高瀬地区社会福祉協議会/みの元気塾<br>［代　　表］永井賢二（下高瀬地区社会福祉協議会会長）<br>［開設・営業開始］2022年９月<br>［活動概要］<br>**・下高瀬小児童を対象とした朝食の提供**<br>日時　月曜（月３回程度）　7:15-8:00<br>メニュー　おにぎりorパン＋汁物＋１品<br>参加費　無料<br>参加者　40～50人／回（全児童数184人）<br>スタッフ　6～8人（PAS・食改善推進委員会・民生委員）<br>  <br><br>  |

| | |
|---|---|
| |  |

事例 7

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 石川県白山市 |
| 取組の名称 | 「介護予防サロン福蝶とキッズカフェ」 |
| 掲載タイトル | 「赤ちゃんから高齢者まで、『世代間交流があるダイニングサロン』」 |
| 取組の概要 | 一軒家の居間で開かれる、楽しく会話ができる赤ちゃんから高齢者までの多世代サロン。みんなで昼ご飯を作り、食事をしながら交流している。 |
| 運営の様子や特徴 | 福留町エリアは、玄関先でも3人寄れば会話が生まれるという元々住民同士の地域交流が盛んな地域です。介護予防サロン福蝶は「デイサービスには行かない人」たちの認知症予防を目的としたつどいの場としてスタートしました。週1回の開催でアットホームな雰囲気の中おしゃべりを楽しみながら、習字や大正琴、筋トレ等のプログラムにも参加できます。昼食の提供もあります。調理は、ボランティアだけではなくサロン参加者も手伝います。この場所で行う「キッズカフェ」は、高齢者と子どもたちが一緒に調理をして一緒に食べる活動で、ボランティアも含めると4世代の交流の場になっています。参加するのは特別支援学校の児童や未就学児を連れたお母さん、サロンの高齢者等。コロナ禍中も感染対策をしてみんなで調理、みんなで会食を5年間継続しています。食に興味がある子どもと、料理上手の高齢者が相互に支えあいながら食事を作る微笑ましい光景が見られます。参加者は口コミのほか、ケアマネジャーや地域包括支援センター、公民館からの紹介でつながった人たちですが、要介護や認知症、障害等の個人的な事情はサロン内では一切言いません。子どもも高齢者も、認知症がある人もない人も、ボランティアも分け隔てなく、参加者全員が「自分ができることをすすんでやる」のがサロンのモットーです。 |
| 基本情報 | ［住　　所］石川県白山市福留南174<br>［開催場所］運営責任者である五郎川夫妻の自宅のたまたま空き家になった隣家<br>［運営団体］傾聴ボランティア聴蝶<br>［代　　表］五郎川 外美江<br>［開設・営業開始］2012年（介護予防サロン福蝶）／2017年（キッズカフェ）<br>［活動概要］ |

**・介護予防サロン福蝶**

開催日　毎週1回　水曜または土曜　10:00-15:00

参加費　100円／1日　習字や大正琴、体操など

食事代　350円

**・キッズカフェ**

開催日　不定期（チラシ等で事前告知）

開催時間　9：30-13：00頃

参加費　大人100円　子ども無料







事例８

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 神奈川県横浜市 |
| 取組の名称 | 「上郷東連合町会 移動販売車」 |
| 掲載タイトル | 「買い物困難地域の生活を支える『移動販売車』と地域交流」 |
| 取組の概要 | 買い物不便な住宅地の公園で、週1回行われる移動販売の取り組み。買い物支援に加え、見守りやコミュニティ創出の機会になっている。 |
| 運営の様子や特徴 | 移動販売車が来るのは毎週火曜日。販売開始の30分ほど前から、町会メンバーが庄戸第三北公園に集まり準備を始めます。時間になると「ダイエー港南台店」と「SELP・杜（就労継続支援B型事業所)」の移動販売の軽自動車が公園にやって、日用品や野菜のコンテナを並べてあっという間に販売所ができあがります。<br>ダイエーの取り扱いは、日用品・野菜や肉魚等の生鮮食品・加工食品・惣菜等、実店舗に遜色ない品揃え。スーパーの店内かごが用意され、車に装備されたレジではクレジットカードや電子マネーも使えます。SELP・杜は作業所で焼いた多種類のパンや豆腐・納豆、ジャム等の加工食品を扱っています。障害があるスタッフも接客します。手伝いの住民は毎回10名以上が参加。町会役員や民生・児童委員のほか、第２層SCも必ず参加しています。販売時間は30分程度と長くはないですが、三々五々集まってきた人々にSCたちが積極的に声をかけ、時には重い荷物は自宅まで運んだりしています。庄戸地域の人々にとって、移動販売はライフライン。地域のしくみとして持続させるためには、なるべく多くの人が利用し買い支えることが必要と、毎回売上金額と参加人数を共有し、必要な人へ声をかけるようにしています。毎回3～40名の買い物客でにぎわっています。買い物支援だけでなく、交流の場であり、ひとり暮らしの人や気になる人の情報を集めたり、伝える場になっています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］神奈川県横浜市栄区庄戸3-10<br>［開催場所］庄戸第三北公園<br>［運営団体］上郷東連合町会・社協・ダイエー<br>［代　　表］芦川 弘(上郷東連合町会会長)<br>［開設・営業開始］2019年<br>［活動概要］<br>・**移動販売** 毎週火曜　10:30-11:00<br>・**販売場所** 庄戸第三北公園<br>・**参加店舗** ダイエー港南台店(食品・日用品)・社会福祉法人ル・プリSELP社(作所・製パンなど)<br>商品の種類や値段：値段はダイエー港南台店と同一価格。<br>手数料は1点につき11円で、5点以上は一律55円。肉魚、野菜、日用品など多品目を扱う。リクエストにも応じ、次週に渡している。 |

| | |
|---|---|
| |  <br>  <br>  |

事例９

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 千葉県柏市 |
| 取組の名称 | 「キッチンカーdeあおぞらカフェ」 |
| 掲載タイトル | 「コロナがきっかけで生まれた『動く会食会・青空カフェ』」 |
| 取組の概要 | 活動が自粛されるコロナ禍、“キッチンカーでGO!”をキャッチフレーズに弁当配布を通して、地域のお困りごとを聞き出しサポートすることで、地域のつながり |

| | |
|---|---|
| | を継続している。 |
| 運営の様子や特徴 | 半円形の黄色い屋根がついたキッチンカーがまちにやって来ただけでも、楽しい雰囲気が広がります。このキッチンカーは、「うぃず」が運営する２つの居場所の駐車場や空きスペースにやってきて、お弁当を販売します。キッチンカー内での調理は、衛生管理のための設備投資が間に合わず、キッチンで調理したお弁当を積んでいます。お弁当を販売するだけでなく、そこで聞いた困りごと等の声を拾い上げ、地域包括支援センターやケア事業所と連携しながらサポートをしています。子どもたちの声を反映させて、鯉のぼりの工作やダンスイベントなども開催してきました。新たに学童へのお弁当提供を始めたことで、子育て中の若い保護者とのつながりも増え、facebookやLine、QRコード等のIT活用も進めています。また単身高齢者や生活困窮者を対象としたお弁当の配達をおこなっており、こちらでは24時間テレビ助成で購入した車両を使用。提供対象者の情報は地域包括支援センターと共有している。 |
| 基本情報 | ［住　　所］千葉県柏市松葉町2-12-3<br>［開催場所］民家ギャラリー結<br>［運営団体］ＮＰＯ法人 ワーカーズコレクティブうぃず<br>［代　　表］北田恵子<br>［開設・営業開始］2020年10月<br>［活動概要］<br>**・キッチンカーdeあおぞらカフェ**<br>移動式居場所づくり。停車時間は１時間程度、１回50食を低額（400円程度）で提供。民家ギャラリー結で飲食しながら、暮らしの相談等。<br>  |

| | |
|---|---|
| |  <br>  |

事例１０

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 高知県高岡郡四万十町 |
| 取組の名称 | 「十和おかみさん市」 |
| 掲載タイトル | 「『農家の女性たちがつくるふるさとの料理』で地域活性」 |
| 取組の概要 | 山あいの集落で農作物の生産、加工、販売を一緒に行ってきた女性グループが、郷土料理をつくり販売することで、地域の食をまかない、にぎわいをつくりだしている。 |
| 運営の様子や特徴 | 美味しそうなお惣菜がパックに詰められテーブルに並ぶお昼どき、十和おかみさん市直販所には次々と高齢者がシニアカーや軽トラックで買い物にやってきます。並んでいるのはお惣菜、お弁当のほか、自家製の野菜や米、梅干し・味噌などの加工品、花や野菜の苗もあります。1日でお弁当200食以上約10万円を売り上げる、地域の食を支える台所になっています。直販所の隣にあるキッチンでお惣菜づくりをしているのは、おかみさん市のメンバー。集落単位でグループを組み、現在6グループで担当しています。運営母体に売り上げの20%を入れる独立採算性で、決まりごとはほとんどないそうです。四万十川の鮎、郷土野菜のりゅうきゅう・山菜のいたどり等が入った野菜たっぷりのお弁当や、栗おこわ、竹の子寿司は人気があり、お惣菜を目当てに遠くから買いに来る人もいます。もう一つの拠点、道の駅「四万十とおわ」では週１回「おかみさん市バイキング」が人気で |

| | |
|---|---|
| | す。こちらはおかみさん市メンバーと、道の駅で働く若い従業員が一緒に調理を行っており、郷土料理の伝承の場にもなっています。自分で育てた野菜や手作りの加工品を20％の手数料で販売できるのもやりがいになっています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］高知県高岡郡四万十町十川203<br>［開催場所］十和おかみさん市直売所<br>［運営団体］ 株式会社十和おかみさん市<br>［代　　表］居長原 信子<br>［開設・営業開始］1999年<br>［活動概要］<br>・**おかみさん市直販所** 月～土曜 8:00-16:00<br>・**販売商品**：産直・手作り産品<br>弁当、惣菜、野菜、花苗、野菜苗、米、茶、梅干し、味噌、手作り雑貨、旅行者向け土産品など<br>**［株式会社おかみさん市の事業］**<br>野菜の直販・イベント販売／おもてなしツアー／おもてなし<br>バイキング／加工品の開発・販売／学校と連携した伝承野菜の取り組み／直販所における地域や生産者達とのつながり<br>  <br><br>  <br> |

| | |
|---|---|
| |  |

事例１１

| | |
|---|---|
| 活動地域 | 大阪府富田林市 |
| 取組の名称 | 「わっくCafé」 |
| 掲載タイトル | 「『日替わりカフェオーナー』の仕組みが作る新たな地域のつながり」 |
| 取組の概要 | 誰でもウエルカムの常設拠点を日替わりcaféオーナーで運営しながら、多世代の人が得意を活かせる新たな地域のつながりづくりに挑戦している。 |
| 運営の様子や特徴 | 店舗名には、「つながる気持ちが《湧く》」「みんなの思いが《沸く》」「《わくわく》する気持ち」が込められています。商店街の中心にあり、前面ガラス張りで明るく人を呼ぶ雰囲気があるこの常設拠点を、日替わりカフェオーナーで運営しています。オーナーは「主役になって特技を活かす」「誰が来ても受け入れる（仲間内の活動にしない)」等の考えに共感した人たちです。店主になる日はネットから予約し半日1枠を3000円で利用できます。パン屋さん・スリランカカレー・薬膳ランチ・沖縄そば等の様々な店が、日替わりで開かれています。定期的に出店する人、年に数回の人等、利用の仕方も様々です。カフェのメニューは、定番の飲み物は法人が用意しますが、それ以上は各オーナーが自由に決めることができ、客層や売上高もオーナーによって違いがあります。カフェの壁面はボックスショップ。自分のショップとしてハンドメイド作品などを展示・販売することができます。ボックススペースの利用料金は、月1000 円。売上金はオーナーの収入になります。各オーナーが「自分のお店」の意識を持って自主的に関わることで、「いつも開いている居場所」の継続をめざしています。 |
| 基本情報 | ［住　　所］大阪府富田林市寺池台1-9<br>［開催場所］金剛銀座商店街内「わっくCafé」<br>［運営団体］一般社団法人わっく金剛<br>［代　　表］中井二郎<br>［開設・営業開始］2021年<br>［活動概要］<br>**・日替わりカフェオーナー、ボックスショップオーナーによるコミュニティカフェの運営**<br>営業日 火～土 10：00-14：00 オーナー出店によりその他時間オープンもあり |

| | |
|---|---|
| | カフェオーナー・ボックスショップオーナー 登録料3,000円、利用料一コマ（６Ｈ）3,000円<br>共通ドリンク300円の売り上げのうち50円を運営法人に支払う。<br>  <br>  <br>  |

# 第３章　研修会

## 「食のちからで地域を豊かに事例から考える『食』のアクションプラン」の開催

### 1　研修会の目的

・全国で取り組まれている多様な食支援サービスとその立上げ・活動継続の手法について学ぶ
・地域コミュニティ・地域福祉において食支援サービスがもたらす価値について学ぶ
・食支援サービスの立上げ・継続に対して支援の計画を構想できる
・生活支援コーディネーター同士の交流と情報共有

### 2　開催概要（開催日・場所）

（１）開催地・日時

■香　川

日時：2022年12月6日　13:00～16:20
会場：ふらっと仏生山 高松市仏生山交流センター 2階／Zoomと併用
参加者：110名

■石　川

日時：2022年12月9日　13:30～16:00
会場：Zoomを利用したオンライン開催
参加者：28名

■全　国

日時：2023年1月20日　13:00～16:20
開催方法：Zoomを利用したオンライン開催
参加者：177名

### 3　プログラム

■香川

【講義】
「多様な食支援サービスとその可能性」
千葉大学人文科学研究院教授　清水洋行 氏

【事例報告】
①「小学校での朝ごはん提供『下小モーニング』」

三豊市社会福祉協議会　上村早紀子 氏

下高瀬地区社会福祉協議会 理事 関博 氏

②「つながる食事会　『ここめし』＆『ここめし女子会』」

善通寺市社会福祉協議会　大藤千津 氏

③「鳥取市地域食堂ネットワークの取組」

鳥取市中央人権福祉センター 川口寿弘 氏

【事例解説】「事例報告からの学び」

稲城市高齢福祉課高齢福祉係　荒井崇宏 氏

【グループディスカッション】

ファシリテーター：日本大学文理学部教授　内藤佳津雄 氏

ディスカッションテーマ：①食×出番づくり

②食×世代間交流

③食×孤立孤独／生活困窮

④食×地域資源をつなぐ



（ディスカッションの様子）

■石川

【講義】

「多様な食支援サービスとその可能性」

日本大学文理学部教授　内藤佳津雄 氏

【事例報告】

①「小学校での朝ごはん提供『下小モーニング』」

三豊市社会福祉協議会　上村早紀子 氏

下高瀬地区社会福祉協議会 理事 関博 氏

②「コロナ禍で影響を受けサロン活動から配食弁当による見守り活動へ～地域の助け合い活動

団体の活動を応援する～」

鹿児島県鹿屋市社会福祉法人隣の会代表　齋藤鈴子 氏

鹿屋市地域包括支援センター 松元真由美 氏

【事例解説】「事例報告からの学び」

高崎市第１層 SC／主管課：高崎市長寿社会課　目﨑智恵子 氏

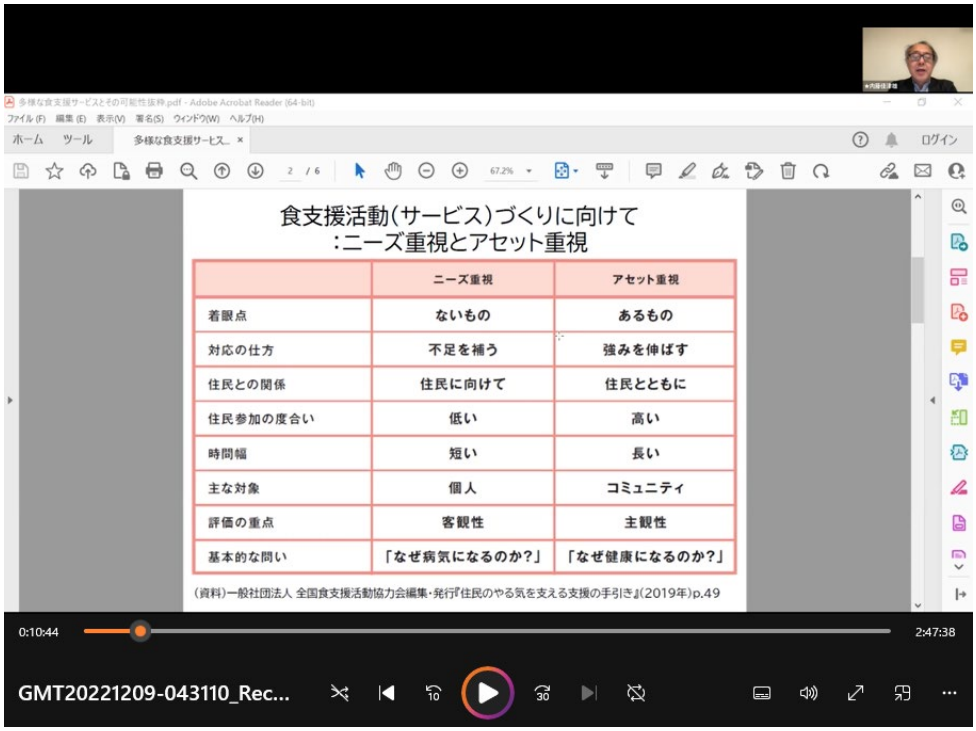
【グループディスカッション】

ファシリテーター：日本大学文理学部教授　内藤佳津雄 氏

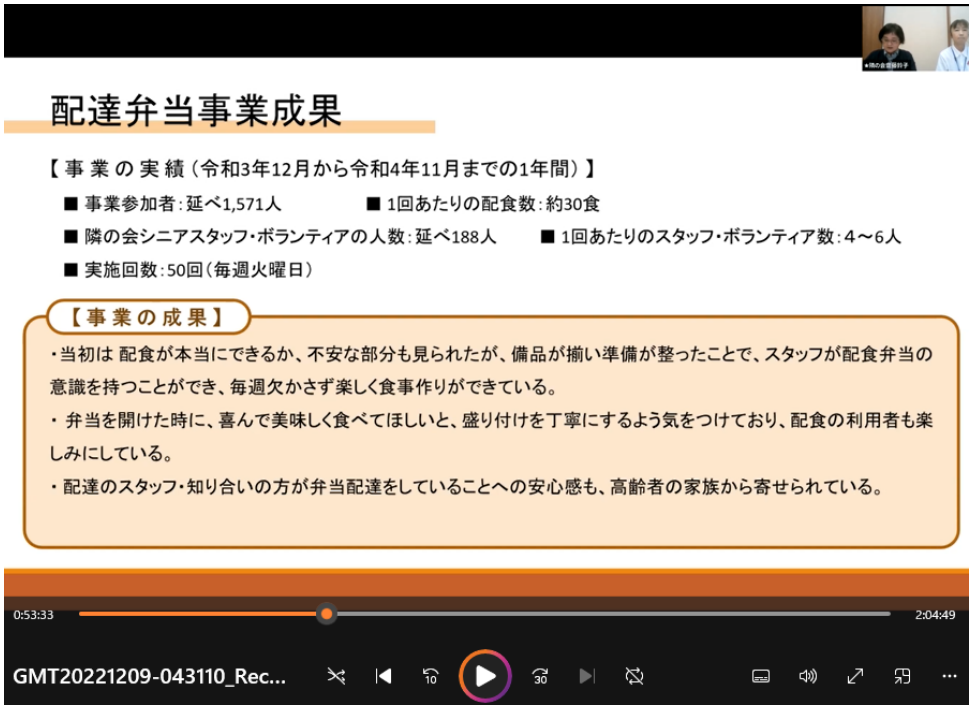
ディスカッションテーマ：①食×世代間交流

②食×食育、食文化の継承

③食×コロナ禍で生まれた活動



（講義の様子）



（事例報告の様子）

■全国

【講義】

① 「食支援活動における必要な支援とは」

全国食支援活動協力会専務理事　平野覚治 氏

② 「多様な食支援サービスとその可能性」

千葉大学人文科学研究院教授　清水洋行 氏

【事例報告】

①「お互いさまねっと公田町団地『食』と『見守り』の取り組みについて」

NPO 法人お互いさまねっと公田町団地理事長　有友フユミ 氏

横浜市桂台地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター　矢澤美穂 氏

②「『わっくＣａｆé』の取り組み」

一般社団法人わっく金剛理事　岡本聡子 氏

③「十和おかみさん市」

株式会社十和おかみさん市代表取締役　居長原信子 氏

一般社団法人いなかパイプ代表理事　佐々倉玲於 氏

【事例解説】「事例報告からの学び」

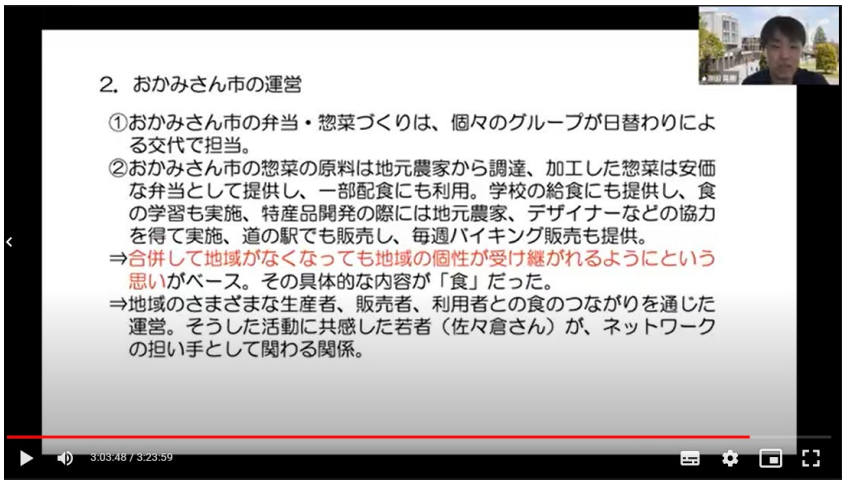
高崎市第１層 SC／主管課：高崎市長寿社会課　目﨑智恵子 氏

【質疑応答・意見交換】

ファシリテーター：日本大学文理学部教授　内藤佳津雄 氏




（事例報告の様子）




（質疑応答/意見交換の様子）

## 4　参加者アンケートの結果

各会場のアンケート結果は以下のとおりであった。

■香川会場参加者アンケート結果　（12/6　対面+オンライン）

オンライン　N＝60

（現地参加　N=15）

Ｑ１）ご自身のご所属を教えて下さい　（オンライン参加者のみ回答）

| | |
|---|---|
| 生活支援コーディネーター | 28 |
| 自治体職員 | 12 |
| 社会福祉協議会・地域包括支援センター職員 | 10 |

| | |
|---|---|
| 子ども食堂主催者 | 2 |
| NPO 職員 | 2 |
| その他<br>（大学教員・地域活動者・フードパントリー運営団体・協議体構成員、住民・飲食店経営キッチンカー・NPO 職員） | 6 |

Q２）研修プログラム全体の満足度をお聞かせください　　N=60: ()内現地参加者

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 19(9) |
| 満足 | 30(5) |
| 普通 | 10(1) |
| 不満足 | 1 |
| 大変不満足 | 0 |

Q３）講義を通して、全国で取り組まれている食支援サービスの活動について理解を深めることができましたか（立上げ/継続の手法、活動のもたらす価値など）

N=60: ()内現地参加者

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 18(9) |
| 満足 | 28(4) |
| 普通 | 13(2) |
| 不満足 | 1 |
| 大変不満足 | 0 |

Q４）事例報告を通して、全国で取り組まれている食支援サービスの活動について理解を深めることができましたか （立上げ/継続の手法、活動のもたらす価値など）

N=60: ()内現地参加者

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 21(9) |
| 満足 | 28(3) |
| 普通 | 10(2) |
| 不満足 | 1 |
| 大変不満足 | 0 |

Q５）グループディスカッション に参加しましたか　　N=60

| | |
|---|---|
| 参加した | 52 |
| 参加しなかった | 8 |

Q６）グループディスカッションのテーマ設定は如何でしたか N=52:()内現地参加者

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 14(7) |
| 満足 | 20(2) |
| 普通 | 16(4) |
| 不満足 | 2 |
| 大変不満足 | 0 |

Q７）グループディスカッション を通して、食に関する活動を推進するにあたっての多様なアイデアを得ることができましたか N=52: ()内現地参加者

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 13(7) |
| 満足 | 27(5) |
| 普通 | 9(3) |
| 不満足 | 2 |
| 大変不満足 | 1 |

Q８）グループディスカッション を通して、食に関する活動 の立上げ・継続に対する支援方策のヒントを得ることができましたか N=52: ()内現地参加者

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 9(6) |
| 満足 | 30(6) |
| 普通 | 11(3) |
| 不満足 | 1 |
| 大変不満足 | 1 |

Q９）研修会全体へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

・本日伺った様々な事例を参考に、これから活動を検討していきたいと思います。

・今すぐではなくても、近い将来参考にさせていただきながら、地域食堂を開催したいと思います。

グループディスカッションでは様々な活動を知ることができ、大変参考になりました。まだできてないことが多いため、地道に進めていけたらと思います。

・関心ある住民の方が身近にいらっしゃるので今後、情報提供していきたいと思います。 ワクワク出来る研修を企画して頂き有難うございました。

・食を起点として、様々な分野でつながりをもつ取り組みがたくさんあり、素晴らしいと感じました。

・地域により社協さんの取り組み具合が違うのを改めて感じました。 願わくは、うちの市の社協さんにこそ、参加して頂くべき場であったなぁと感じました。

・活動内容を知り、今後に生かしていきたい。学習支援及び子ども食堂に高齢者の力を活かしたい。

・各地域における取組や課題について知ることができ、学びが深まった。自地域においての取り組みにおいても、本日得られたヒントをもとに各世代共通の「食」についての支援を進めながら、地域包括ケアを進めたいと感じた。

・改めて食を通じての支援が必要と感じたし、自分の担当するエリアでの取り組みを考えるきっかけになりました。
・今回の研修を受け、自身の地域に無い活動場所を利用して取り組まれている事例を知る事ができ、今後地域の方に伝えていきたい情報もありましたので、参考になりました。
・普段の業務に直接の関わりはないのですが食を通じた地域の取り組みを知ることができ、今後、食を通じた事業を行う参考にもなりました。
・「食」のアクションプラン、各地域の取り組み事例を伺うことができてよかったです。 特に鳥取市の取り組みは行政が中心にネットワークの取り組みがされていて、よいなぁ、うらやましいなと思っていました。 自分たちも声を上げて、住民と一緒に今後も活動支援を広げていきたいと改めて思いました。
・事例報告も参考になり、特に鳥取市さんの行政としての考えや動きを聞き、うらやましい限りでした。行政がやりたい人、地域を応援することで、地域づくりも進んでいくことでしょう。
・有意義な研修でした。SC の立場ではありませんが、各地の素晴らしい取り組み事例をお手本にして、NPO のネットワークでも今後の活動に活かして行きたいと考えました。
・食を通して多様な人がつながり、もてる力を発揮し合う具体的なとりくみ、だれでもきていい自由な空間だから、困りごとや、やってみたいこと、課題解決の提案などにつながる視点について楽しく学ばせていただき、元気が出る時間でした。
・グループディスカッションは、話題が多様に広がるなかで聞きたいことがその時の論点とずれてしまい聞きそびれることもあり、もう少し時間が欲しかったと思いました。 印象に残ったことは、事例の「高齢者が元気でいるためには高齢者だけ集まっても駄目」や グループディスカッションの中であった「高齢者支援と子ども支援のつなぎ方」でした。 先進的な取り組み例を聞くことができ、今後の支援に活かしていきたいと思います。
・行政や社会福祉協議会など、もともと強みがある方々の話でなく、一歩一歩苦労してつくりあげていった方の話が聞きたかったです。
・今後　子ども食堂（地域食堂）を立ち上げる際にまた参考にさせていただきたいです
・オンラインでの参加でしたが、とても分かりやすく説明いただき、今後の活動の参考にもなりました。そして何より皆さんの熱意に刺激を受け、活動していく励みにもなりました。このような研修会を開催していただき心より感謝いたします。スタッフとのミーティングに、資料も活用させていただきます。
・社協として出来ることについて住民さん・ＮＰＯさんなどとの話し合いを重ねて考えていけたらと思います。
・これからの活動に一歩ずつ自団体のペースで急がず慌てず、地域皆が楽しく参加できるような活動にしたい
・事例報告では質疑応答方式で大変分かりやすく聞きやすかった。グループディスカッションは社協とＮＰＯが意見を出し合い普段聞くことが出来ない話が伺えて勉強になった。
・頑張っている人達、社協の方の考え方も聞くことが出来て良かった。今からの立ち上げのヒントがあり参考にしたい。
・地域で活動したいと思っている方を応援して地域の方と共に活動が広まっていくように社協として

頑張りたい。
・普段、社協関係の方の話が聞けなかったので今回参考になりました。
・それぞれの立場での意見を聞くことが出来てよかった。地域の働きかけ方など１つ１つ出来ることから取り組んでいきたい。
・グループディスカッション盛り上がりました。事例 3 つは少し多かったな、と思いましたがバラエティがあり良かったです。ネットワークの話しは参考になりました。全国の人達とのディスカッションもしたかったと思います。
・事例報告の内容的に、もう少し時間をとってもよかった気がします。善通寺市の事例も、発表の後に司会者とのやり取りを聞きたかったです。
・オンラインでの参加でしたが、とても分かりやすく説明してくださり、今後の活動の参考になりました。それ以上に、皆さんの熱意を感じ、活動していく上での励みになりました。研修会を開催いただき感謝いたします。資料もスタッフとのミーティングで使用させていただきます。

■石川会場参加者アンケート結果　（12/9　オンライン）

N=32

Ｑ１）ご自身のご所属を教えて下さい

| | |
|---|---|
| 生活支援コーディネーター・ＣＳＷ | 9 |
| 自治体職員 | 1 |
| 社会福祉協議会・地域包括支援センター職員 | 5 |
| 子ども食堂の運営と生活困窮者への食支援 | 1 |
| 支え合い推進員 | 1 |

Ｑ２）研修プログラム全体の満足度をお聞かせください

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 8 |
| 満足 | 16 |
| 普通 | 8 |
| 不満足 | 0 |
| 大変不満足 | 0 |

Ｑ３）研修プログラム全体を通して、全国で取り組まれている食支援サービスの活動について理解を深めることができましたか。　（立上げ/継続の手法、活動のもたらす価値など）

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 10 |
| 満足 | 16 |
| 普通 | 5 |
| 不満足 | 1 |
| 大変不満足 | 0 |

Ｑ４）研修プログラム全体を通して、食に関する活動を推進するにあたっての多様なアイデアを得ることができましたか。

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 9 |
| 満足 | 11 |
| 普通 | 11 |
| 不満足 | 1 |
| 大変不満足 | 0 |

Ｑ５）研修会全体へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

・とても興味深い内容でした。ありがとうございました。まず外に出て顔を覚えてもらうことから始めることが大切だとわかりました。

・包括１年生で何も分からず研修を受けました。勉強になりました

・いろいろな活動があり地域に密着されていることに学ぶことがありました。

・活動事例は凄く参考になったけど、自分の地域でやる事が難しい。どうすれば良いかわからない。民生委員とかとなかなか協力がもらえない。

・みなさんの取り組みは、とても素晴らしいものでしたが、自分達の地域に同じように出来るか？は、不安要素が多々ある状況です。小さな事から、少しずつでも地域のみなさんと共に活動を広げて行きたいと思っています。

・時間を少し短くして、回数を増やして頂ければ、嬉しいです。

・頑張っている方々の意見をお聞きすることが出来、とても良かったです。

・何かしなければならないと気ばかり焦っていましたが、まずは地域の力や資源など、まずはその地域を知るところから始め、信頼関係を築く中でニーズを把握していくことに努める事が必要だと学びました。ありがとうございました。

・食を介して皆で繋がる活動を心がけて行きたいと感じた。「アセット重視」を大事にして行きたい。

・津幡町にはまだ食を介した居場所がないので、コロナがおさまり市民が興味を示したタイミングで何かできることから始めたいと思う。

・サロンの立上げが難しいと感じている。きっかけ意識などどうつなげるか？
因みに高齢者はいるけど参加までに結び付けられない。

・各地のみなさんが生き生きと活動され楽しそうに報告されているのが印象的でした。アセット＝財産という言葉があり、つながっていくことが活動になっていくことを学びました。ありがとうございました。

・高齢者や子供たちと一緒にお手伝いをしながら見守る様子素晴らしいです。私たちもやっていけるかなと思いました。

■全国会場参加者アンケート結果　（1/20　オンライン）

N=108

Ｑ１）ご自身のご所属を教えて下さい

| | |
|---|---|
| 生活支援コーディネーター・ＣＳＷ | 78 |
| 社会福祉協議会、地域包括支援センター職員 | 14 |
| 自治体職員 | 12 |
| 協議体構成員・住民 | 1 |
| 包括支援センター | 1 |
| 地域包括支援センター　主任介護支援専門員 | 1 |
| 便利屋 | 1 |

Ｑ２）研修プログラム全体の満足度をお聞かせください N=108

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 34 |
| 満足 | 56 |
| 普通 | 16 |
| 不満足 | 2 |
| 大変不満足 | 0 |

Ｑ３）研修プログラム全体を通して、全国で取り組まれている食支援サービスの活動について理解を深めることができましたか。　（立上げ/継続の手法、活動のもたらす価値など）

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 33 |
| 満足 | 56 |
| 普通 | 18 |
| 不満足 | 1 |
| 大変不満足 | 0 |

Ｑ４）研修プログラム全体を通して、食に関する活動を推進するにあたっての多様なアイデアを得ることができましたか。

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 33 |
| 満足 | 48 |
| 普通 | 23 |
| 不満足 | 4 |
| 大変不満足 | 0 |

Ｑ５)研修プログラム全体を通して、食に関する活動 の立上げ・継続に対する支援方策のヒントを得ることができましたか。

| | |
|---|---|
| 大変満足 | 29 |

| | |
|---|---|
| 満足 | 40 |
| 普通 | 35 |
| 不満足 | 4 |
| 大変不満足 | 0 |

Ｑ６）研修会全体へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

・生活支援コーディネーターは孤独感が強く行政に相談してもなかなか思いが通じないことが多いです。研修に参加させていただくだけでも、同じような意見の方がいるのがわかり安心しますし、大変勉強にもなります。今後もぜひ研修を行っていただきたいと思います。今日は、ありがとうございました。

・意見交換の時間に話があったように、「食」は気軽に人が集まるツールだと思うので、食のつながりを活用した取り組みが増えるようにサポートしていきたいと改めて感じました。

・本日は、ご講演くださった先生方、事例発表された団体の方、大変貴重なお話を伺うことができ、ありがとうございました。 「食」を通して人、場、団体、情報、伝統、などいろいろなものをつなぐことができる事例を聞くことができました。「食」で、いろいろな可能性についても想像することができました。日常生活で欠かすことができない「食」だからこそ、元気をもらえたり、仲間ができたり、生きがいになったり、効果を持たすのではないかと思います。委託をしている薩摩川内市社会福祉協議会とも共有したいです。

・実際に活動されている方のお話を聞き、課題はあるが工夫し楽しみながらやっていらっしゃる、という事を感じました。自分も「楽しむ」ことを忘れず寄り添っていきたいと思います

・食を通じた地域のつながりづくり、大変参考になりました。 地域の見守りや生活支援のきっかけとして、食支援やカフェが有効なことがわかりました。

・自分の今後の業務において大変参考になるポイントがありました。研修を受けることで自分１人で考えても思いつかないよう気付きでした。円滑な進行ありがとうございました。

・地域住民のやりたいことや実現したいこと、あってほしいことなどを知り、住民側の地域に対しての思いも汲み取りながら、この地域にとって今何ができるのか、必要なのかを考えていくことが重要なのかなと思いました。そのつなげる役割となったのが食であったと感じ、私の生活の中で身近であり、必要であること、コミュニケーションの側面も持ち合わせていること、また楽しさや嬉しさが生まれやすいのが食のいいところでもあり、福祉に繋がっていると思いました。また、具体的に物事を進めていくうえでもいろんな人を巻き込んで行って行くことで、一緒に考えて活動していく仲間が増えていったのかなと思います。本日は貴重な研修をお聞きする事ができ、本当に感謝しています。どの事例もすごく参考になりました。

・食に関する研修は初めてで、通いの場の運営をする際のヒントを沢山得られる機会となりました。

・高齢者に IT は難しいと言われる事が多々あるのですが、「必要ならできるようになる」という講師の岡本さんの言葉が印象的で、その人が必要と思う所にフォーカスして、今後の支援に生かしたいと思いました。

・それぞれの地域で特色ある活動を知ることができました。地域の課題を自分達で解決するための視点が素晴らしいと思いました。都市部のケースも知りたいと思いました。

・活用可能な助成金や制度、必要な手続き、立ち上げや運営に関する具体的な内容を住民目線・支援者目線それぞれで教えていただけるような研修があると嬉しいです。
・あまり新鮮な情報が得られなかった。普通でした。一方的に期待過剰だった自分が良くなかったので、一生懸命準備や運営をしてくださった皆様へすみません。たくさんの SC 向け研修がある中で「食」に着目したものは珍しかったので興味を持ち参加させてもらいました。　「食」だからこそできることや魅力があまり感じられなかった。人がつながることの方がクローズアップされていたように思います。「食」でつながったからこそできることや「食」でつなげることへのこだわりのようなことを、もっと知りたかった。　食はほぼ全ての人に共通する、陽な活動であり、また地域課題にもなり、体制整備事業としての切り口はもっと色々とありそうな印象があります。
・富田林市の「わっく cafe」のカフェオーナー・ボックスショップオーナーなどのアイデアは すごいと思った出資金も手ごろで、子供から高齢者まで皆が集まれる、居場所になっているアイデアを出し合い、いろいろなイベントを開催して人が集まってくる。
・住民と共に受講しましたが、最初のお話が分かりにくいという声が多かったです。事例発表はどれもとても良く、大変参考になりました。そこの関りをひも解くような解説、グループワークがあると良かったと思いました。

# 第４章

# 「『食でつながる』活動ガイドブック 事例から考えるアセット活用アイデア」

## １　作成の目的

ヒアリング結果から居場所支援のための事例やノウハウを整理し、自治体や社協が、生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーター等に研修を行う際に活用することを想定したガイドブックを作成した。

## ２　内容

次頁より、本事業の成果物として作成したカラー冊子「『食でつながる』活動ガイドブック 事例から考えるアセット活用アイデア」を収載する。

■構成

①導入

「食」関連の生活支援サービスを、栄養摂取にとどまらない生活・文化にかかわる多面性のある「食」の特性から捉え、調査した 11 事例を「食×出番・役割」「食×見守り・相談」「食×食育」「食×交流・つながり」「食×地域活性・まちづくり」の 5 カテゴリーに分類、さらに食に関連するアクションから、「食材提供」「調理・配膳」「届ける」「食べる」「伝える」でマッピングし、食関連の活動の価値と関わりの場面の多様性の理解を促すものとした。

また、事例紹介中の「アセットのつながり」「カギとなるアセット」の項目において活動を解説するに先立ち、アセット重視の考え方について紹介した。

②事例紹介

読者に興味関心のある事例から読み進めてもらえるよう、タイトルは関わる住民や拠点の性質、活動の特徴がより想像しやすくできるものとした。「運営の様子や特徴」で日常活動における運営の工夫を紹介し、この取組みを成立させている地域資源とその活用について「アセットのつながり」「カギとなるアセット」で説明した。加えて組織や取組みの背景についても紹介した。さらに、生活支援コーディネーターに事例から学びとってもらいたいポイントを「この事例から学ぶポイント」として解説した。

③アセット活用のアイデアの例示「発想を広げるアセット活用アイデア」

紹介事例から、生活支援コーディネーターが課題と考えるであろう 10 の事柄を一般化して取り上げ、その課題解決のアイデアとして、多様なアセット活用について例示した。

④活動開発、活動設計へ生かすためのワークシート

生活支援コーディネーター研修や協議体でのワークショップでの使用を想定したワークシートを掲載した。事例紹介を読んだ後に、自地域での「食」関連の活動の立ち上げや活性化に向けたアセット活用のアイデアを書き込む形式とした。

令和4年度　厚生労働省　老人保健健康増進等事業

生活支援コーディネーターによる
住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と
持続可能な事業実施・展開に関する調査研究事業




# 「食でつながる」活動ガイドブック

## 事例から考える
## アセット活用アイデア

# はじめに

食には人を和ませ、心を開く力があります。食は「生きる糧」であるとともに、人と人をつなげる接着剤にもなりえます。世代、地域、環境が違っていても食は誰にでも共通する行為であり、交流が希薄になった地域につながりをつくる<地域コミュニティづくり>には最適のツールです。

1980年代、各地に拡がった高齢者対象の配食サービスや会食会は、助け合いの気持ちではじまりました。その後、居場所やサロンでの食の提供、料理教室等の食育活動、子ども食堂・地域食堂等、社会や課題の変化によって様々な形態で取り組まれるようになりました。

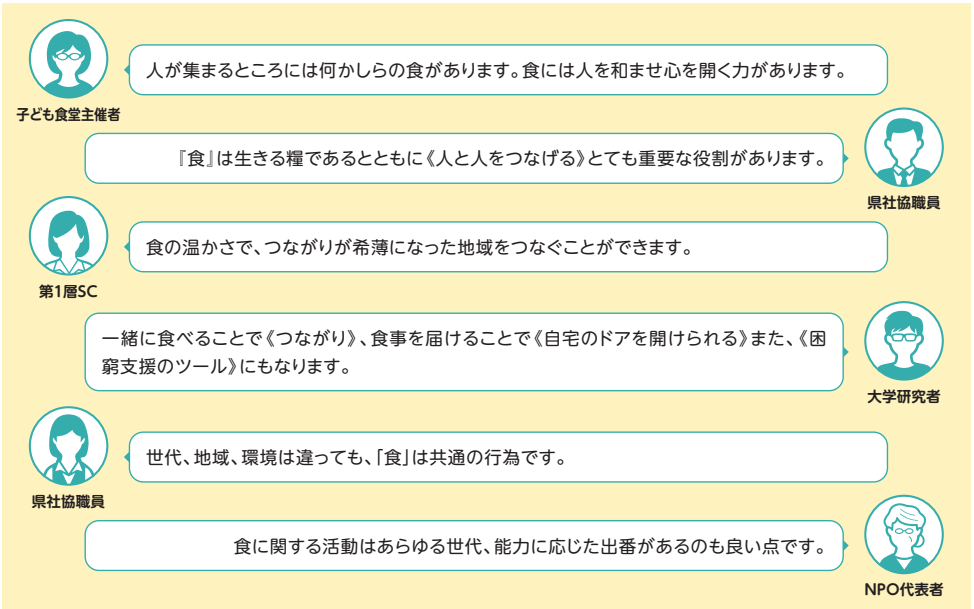
食事は生きる上で毎日必要ですが、「食」は栄養摂取にとどまらない、生活・文化に関わる多面的な営みでもあります。食がもたらす楽しさ、安心感、帰属感は、交流や出番づくり、見守り、文化の伝承といった価値を生み出しています。

食支援活動は、配食サービスや会食会、地域食堂といった活動形態で整理されることが多いですが、「食」に関連するアクションから考えてみると、食材調達・食材選択・料理といった、アクセス、栄養の知識、調理や家事のスキルに関わることや、美味しく食べる・楽しく食べるといったコミュニケーションに関すること、ケアや生活習慣としての食等、実に多様です。

「食」を、人の生きがいや心身の充実に関わる多面性のある営みと捉えたとき、私たちが地域で展開しようとする「食」に関する取り組みには、新たな大きな可能性を感じることかできるのではないでしょうか。

このガイドブックでは、生活支援コーディネーターやコミュニティソーシャルワーカー、自治体職員、社協・NPO担当者の方々が、食に関連した活動を立ち上げたり連携したりするときのヒントとなる各地の様々な実践事例を、運営方法や活用しているアセットとともに紹介しています。豊かで多様な価値と、多くの関わりの場面がある食支援活動の設計に役立てていただければ幸いです。

**食の活動に取り組む意義って何だろう?**



# 目次


はじめに P01
目次 P02
アセット重視の考え方 P04
基本情報一覧 P06

［事例紹介］ P09

食 × 出番・役割

事例紹介① 百歳体操グループメンバーが担い手の「子ども食堂」 P10
こども食堂コスモス
発想を広げるアセット活用アイデア1 寄付食材の運搬や保管はどうする? P13

事例紹介② 江戸時代の登録文化財“足軽の家”で「シニア男性が運営する子ども食堂」 P14
足軽子ども食堂

事例紹介③ 「調理ボランティアの派遣」活動を創出して、地域サロン応援 P16
サロンで調理ボランティア
発想を広げるアセット活用アイデア2 お手本となる活動を、広域で展開していくには? P19

食 × 見守り・相談

事例紹介④ 団地の空き店舗で「食品販売と日替わり定食提供」 P20
UR公田町団地「いこい」
発想を広げるアセット活用アイデア3 助成金等の受給終了後も活動を継続するには? P23

事例紹介⑤ 食を介してゆるやかなつながりを築く場所 P24
ここめし／ここめし女子会

食 × 食育

事例紹介⑥ 地域のシニアボランティアが「朝食サービス」で子どもの育ちを応援 P26
下小モーニング
発想を広げるアセット活用アイデア4 学校と連携するには? P28
発想を広げるアセット活用アイデア5 多世代がつながるための工夫は? P29

事例紹介⑦ 赤ちゃんから高齢者まで、「世代間交流があるダイニングサロン」 P30
介護予防サロン福蝶とキッズカフェ

食 × 交流・つながり

事例紹介⑧ 買い物困難地域の生活を支える「移動販売車」と地域交流 P32
上郷東連合町会 移動販売車
発想を広げるアセット活用アイデア6 企業と連携するときの工夫は? P35

事例紹介⑨ コロナがきっかけで生まれた「動く会食会・青空カフェ」 P36
キッチンカーdeあおぞらカフェ
発想を広げるアセット活用アイデア7 コロナ禍をきっかけにした、新しいチャレンジは? P39

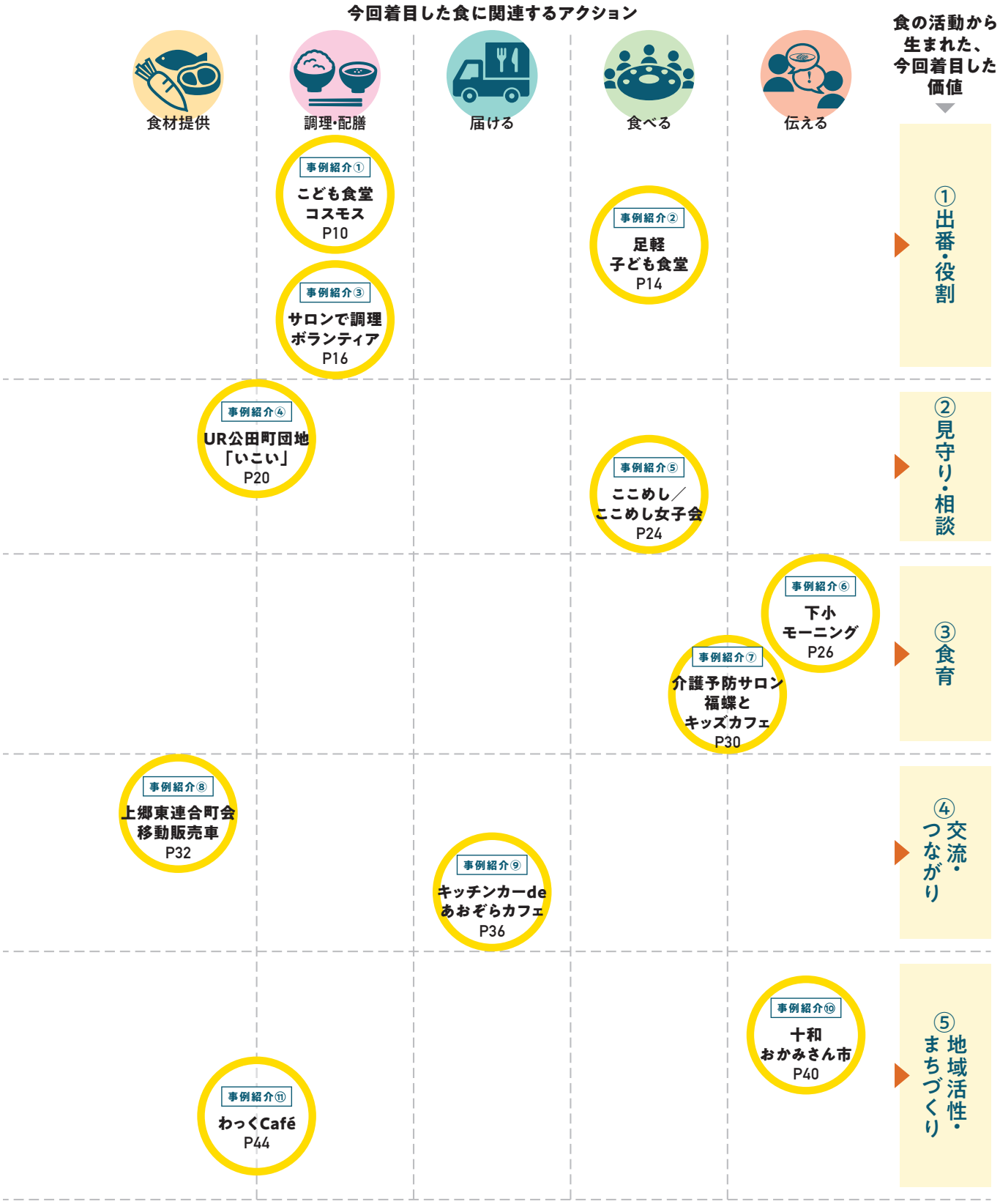
食 × 地域活性・まちづくり

事例紹介⑩ 「農家の女性たちがつくるふるさとの料理」で地域活性 P40
十和おかみさん市
発想を広げるアセット活用アイデア8 福祉関連に見えないアセットを、どう発見・活用する? P43

事例紹介⑪ 「日替わりカフェオーナー」の仕組みがつくる新たな地域のつながり P44
わっくCafé
発想を広げるアセット活用アイデア9 今までにない新しい層を巻き込むには? P47
発想を広げるアセット活用アイデア10 活動を立ち上げたいが「この地域にはアセットがない」と思ったとき、どうする? P48

［資料編］事例から、わがまちの食支援活動を考えよう! P49
委員会名簿 P52

## 食に関連するアクションでのマッピング




食に関するアクションは「食べる」を柱として様々ありますが、今回は5つのアクションに着目しました。
また、食の活動から生まれる「価値」も様々ありますが、今回は5つの項目に着目しました。
本ガイドブックで取り上げた取り組みは様々な要素をあわせ持っていますが、このガイドブックでは上記のアクションや価値に着目してご紹介しています。

# アセット重視の考え方

アセット重視の考え方は、健康・福祉の分野で、専門家主導に対する反省と、住民の力への着目から生まれてきたものです。

専門家主導の考え方では、「ないもの」(弱み、できないこと)が焦点となります。とりわけ、急を要し、重大なものが優先されます。病気や身体・認知機能が低下した、またそのおそれがあると判断される場合に、必要なサービスが提供されます。これは、問題を抱えた人に的を絞って、サービスやお金などの資源を集中的に投入するという手法です。必要の有無や大小について判断を行うのは専門家です。

専門家主導の考え方が想定する住民像は、サービスの受け手です。住民は消費者の立場に置かれ、主体的な参加の度合いは低くなります。また、取り組みの時間幅は、問題が解消されるまでの期間に限られます。さらに、サービスを評価する際には、客観性が重視されます。「なぜ病気になるのか?」、そして「いかにして素早く治療するか?」が、専門家主導の考え方の基本的な問いです。

これにたいして、アセット重視の考え方は、「あるもの」(強み、できること)に目を向けます。アセットは次のように定義されます。「個人、家族、コミュニティが自由に使える集合的な資源であり、健康に対するマイナスの影響から人々を保護し、健康・福祉を向上させ、生きる上での選択肢を拡大させるもの」*1。

この意味でのアセットは、物やお金に限定されません。誇り、熱意、自信、有意味感、目的、楽観性、首尾一貫感覚といった心理的な資源や、知識、経験、技能、社会関係資本といった社会的な資源も、大切な構成要素です。そして、アセットが集合的な資源であるという点も見逃せません。それらは、隣人や友人との「つながり」(関係性)のなかに蓄えられることによって、力を発揮します。

アセット重視の考え方の前提には、住民自身が、健康・福祉を維持・向上するための力を持っているという見方があります。想定される住民像は、サービスの受け手や消費者というより、共同で問題の解決をはかる仲間(共同生産者)です。住民参加の度合いは高く、専門家が関わりつつ、住民が主体となって進める場面が多くなります。「なぜ健康になるのか?」、そして「いかにして長く健康を保つか?」こそが、アセット重視の考え方の基本的な問いです。

アセット重視の考え方は、専門家主導の考え方とは対照的です(表1参照)。ただし、両者は対立するものではありません。それらが、いわば車の両輪のように相互に補完しあうことで、社会の健康・福祉が向上するといえます。

**表1** 専門家主導とアセット重視

| | 専門家主導 | アセット重視 |
|---|---|---|
| 着眼点 | ないもの | あるもの |
| 対応の仕方 | 不足を補う | 強みを伸ばす |
| 住民との関係 | 住民に向けて | 住民とともに |
| 住民参加の度合い | 低い | 高い |
| 時間幅 | 短い | 長い |
| 主な対象 | 個人 | コミュニティ |
| 評価の重点 | 客観性 | 主観性 |
| 基本的な問い | 「なぜ病気になるのか?」 | 「なぜ健康になるのか?」 |

アセット重視の考え方では、コミュニティに根ざすことや、コミュニティが主導的な役割を担うことが期待されます。ただし、これはすべてを住民まかせにするということではありません。公的機関には、条件を整えるという重要な役割があります（表2参照）。住民自身がすでに有益な活動を行っていることを認識し、住民が重視している価値や、住民が生きている物語を共感的に理解することが、その第一歩です。

表2　アセット重視の考え方にもとづく公的機関の役割 *2

**❶健康の向上に資するコミュニティのアセットを明らかにし、わかりやすく示す。**

**❷住民を、サービスの受け手ではなく、健康・福祉の共同生産者とみなす。**

**❸住民が何に取り組んでおり、何を大切にしているかを知ることから始める。住民「に向けて」ではなく、住民「とともに」活動する。**

**❹個人およびコミュニティのアセットと強みを明らかにし、それらに重点を置きながら、人生における持続可能な改善を行うようサポートする。**

**❺困難から立ち直る力、関係性、知識、誇りを向上することにより、住民がより良い方向への変化を起こせるようにサポートする。**

**❻相互にサポートしあうネットワークづくり、友人関係づくりをサポートする。こうしたネットワークがあることで、住民は自らの環境をよりよく理解し、自分の生活をコントロールできるようになる。**

**❼その地域でうまくいっていることの価値を認める。**

**❽健康・福祉の向上に役立っている潜在的な要因を明らかにする。**

**❾コミュニティに権限を委譲し、コミュニティが、自らの将来を自分たちで決め、サービス、資金、建物といった具体的な資源を創出できるようにする。**

アセット重視の考え方は、もともと欧州で提唱されました。しかし、アセットという言葉そのものは使われなくとも、共通する考え方にもとづく実践や支援が、すでに各地でひろがりつつあります。皆さんの身近なところにも、その兆しや種を見つけることができるはずです。

*1 Garven, F., J. McLean and L. Pattoni, 2016, Asset-Based Approaches: Their rise, role and reality, Dunedin Academic Press, p.29.

*2 同書、pp.35-36

「事例でわかる 地域アセット活用ガイドブック」（令和3年度厚生労働省老人保健健康増進等事業）より再掲

## 基本情報の項目

| 食⊗ | 取り組みの名称 | 活動場所 | 所在地 | |
|---|---|---|---|---|
| 出番・役割 | こども食堂コスモス | お休み処コスモス | 福島県本宮市本宮字下町36番地 | |
| | 足軽子ども食堂 | 社会福祉法人永井善隣館「足軽の家」 | 石川県金沢市菊川2-8-13 | |
| | サロンで調理ボランティア | 鹿屋市吾平地区内の高齢者サロン | 鹿児島県鹿屋市笠之原町7402-5 | |
| 見守り・相談 | UR公田町団地「いこい」 | URが管理する店舗 | 神奈川県横浜市栄区公田町団地1-740番地1 | |
| | ここめし／ここめし女子会 | 善通寺市地域支え合いセンターここ家の1階生きがい広場 | 香川県善通寺市生野本町二丁目15番31号 | |
| 食育 | 下小モーニング | 下高瀬小学校／太陽の家 | 香川県三豊市三野町下高瀬760-1／香川県三豊市三野町吉津乙2030保健センター内「太陽の家」 | |
| | 介護予防サロン福蝶とキッズカフェ | 運営責任者の自宅のたまたま空き家になった隣家 | 石川県白山市福留町南174 | |
| 交流・つながり | 上郷東連合町会 移動販売車 | 庄戸第三北公園 | 神奈川県横浜市栄区庄戸3-10 | |
| | キッチンカーdeあおぞらカフェ | 民家ギャラリー結 | 千葉県柏市松葉町2-12-3 | |
| 地域活性・まちづくり | 十和おかみさん市 | 十和おかみさん市直販所 | 高知県高岡郡四万十町十川203 | |
| | わっくCafé | 金剛銀座商店街内「わっくCafé」 | 大阪府富田林市寺池台1-9 | |

| | 運営団体の名称 | 取り組みの概要 |
|---|---|---|
| | コスモスグループ | 18歳以下の子どもなら誰でも利用できる子ども食堂。高齢女性の体操の会(コスモスグループ)が、得意な調理の腕を活かして高齢者と子どもの交流の場をつくっている。 |
| | クラブ足軽 | 調理から食後の遊びまでシニア男性だけで企画、運営している子ども食堂。こども園や児童クラブともつながり地域で子どもの育ちを見守っている。 |
| | 社会福祉法人 隣の会 | コロナがきっかけで始めた配食弁当の運営ノウハウを活かし、食の提供ができない市内のサロンへ調理ボランティアを派遣。 |
| | NPO法人 お互いさまねっと公田町団地 | 丘陵地の団地内の空き店舗を拠点にして、コミュニティレストランの運営や食品・日用品の販売をしながら見守り活動をしている。 |
| | 善通寺市社会福祉協議会 | 生活のしづらさを抱えた方や地域とのつながりの少ない方等が、ボランティアのつくる手作りの食事を介し地域の方々とゆるやかにつながり、自身の得意なことを生かしながら安心して過ごせる居場所。 |
| | 下高瀬地区社会福祉協議会/みの元気塾 | 地域で活動する高齢者メンバーが小学校で子どもに朝食を提供、食育と見守り、多世代交流を行っている。 |
| | 傾聴ボランティア聴蝶 | 一軒家の居間で開かれる、楽しく会話ができる赤ちゃんから高齢者までの多世代サロン。みんなで昼ご飯をつくり、食事をしながら交流している。 |
| | 上郷東連合町会・社協・ダイエー | 買い物不便な住宅地の公園で、週1回行われる移動販売の取り組み。買い物支援に加え、見守りやコミュニティ創出の機会になっている。 |
| | NPO法人ワーカーズコレクティブうぃず | 活動が自粛されるコロナ禍、“キッチンカーでGO!”をキャッチフレーズに弁当配布を通して、地域のお困りごとを聞き出しサポートすることで、地域のつながりを継続している。 |
| | 株式会社十和おかみさん市 | 山あいの集落で農作物の生産、加工、販売を一緒に行ってきた女性グループが、郷土料理をつくり販売することで、地域の食をまかない、にぎわいをつくりだしている。 |
| | 一般社団法人わっく金剛 | 誰でもウエルカムの常設拠点を日替わりカフェオーナーで運営しながら、多世代の人が得意を活かせる新たな地域のつながりづくりに挑戦している。 |

# 事例紹介

09

事例紹介① 食 × 出番・役割

# 百歳体操グループメンバーが担い手の「子ども食堂」

## こども食堂コスモス［福島県本宮市］

### こんな活動

18歳以下の子どもなら誰でも利用できる子ども食堂です。高齢女性の体操の会（コスモスグループ）が、得意な調理の腕を活かして高齢者と子どもの交流の場をつくっています。

### 運営の様子や特徴

「いきいき百歳体操」は本宮市の介護予防の取り組みのひとつ。コスモスグループは百歳体操受講後の自主グループとして生まれ、同じメンバーが子ども食堂を運営しています。

百歳体操は毎週金曜日。朝から10名ほどが集まり、体操の後は手作りのサンドイッチやすいとんなどで早い昼ごはん。このごはんの時間が翌日の子ども食堂の打ち合せの場になります。子ども食堂のメニューを確認し、午後にはメンバーが運転する車でスーパーへ買い物に行き仕込みを行います。

献立づくりや調理は代表の浦井さんの保育所の調理員時代の経験や、人が来れば手作りの食事でもてなしてきたメンバーたちの主婦の経験が生かされています。寄付で集まった食材での調理もお手のものです。

1回の子ども食堂で60人前のお弁当を作ります（コロナ禍以降はお弁当配布に切り替え）。コロナ禍前は40人以上が集まって食事を共にしていました。

モットーは「できることを、できるメンバーがする」。だれもがやりたいと思った時にできる、出番づくりを心がけています。








### 基本情報

［名　　称］こども食堂コスモス
［住　　所］福島県本宮市本宮字下町36番地
［開催場所］（お休み処コスモス）代表が所有する店舗物件
［運営団体］コスモスグループ
［代　　表］浦井カツ子
［開設・営業開始］2019年12月

［活動概要］

- **子ども食堂**（現在は弁当配布）土曜月2回 11:00-14:00
  **参加費** 18歳以下無料・大人300円
  **食　数** 子ども用40食、その他20食、計60食を用意
- **いきいき百歳体操**
  **百歳体操** 金曜月4回 10:00-10:30 体操、10:30-11:30 **軽食とおしゃべり** 参加費200円
  おもりを使った約30分の筋力運動プログラムの自主活動。DVDを見ながら行う。

## アセットのつながり

**⑴いきいき百歳体操**

本宮市が推進しているおもりをつかった30分程度の筋力運動プログラムで、市は説明会や立ち上げ支援を行い、おもりとDVDを貸し出しています。

コスモスグループの百歳体操の特色は体操の後軽食の時間があること。浦井さんは、集まることが第一の目的で、人の集まりには飲食が欠かせないと考えました。体操のあとはゆっくり1時間食事をしながらおしゃべりを楽しみます。

この食事の時間が子ども食堂立ち上げの相談の場になりました。

**⑵ふくしまこども食堂ネットワークによる支援**

こども食堂コスモス立ち上げのきっかけとなったフォーラム「子ども食堂で地域は変わる」を主催したのが「ふくしまこども食堂ネットワーク」です。

ネットワーク事務局の宮川さんは、子ども食堂立ち上げ直後にコスモスの拠点を訪問し、助成金や寄付物資についてのアドバイスをしました。助成申請に不慣れなコスモスに対しては、書類をダウンロードしてFAXするなどの手伝いもしています。県内でも「コスモス」は最高齢メンバーによる活動団体で、60代70代の会員を元気づける存在でもあります。

**⑶市や社協の支援と、子ども食堂補助金の制度化**

活動開始にあたって浦井さんは社会福祉協議会、市役所にも相談に行きました。社協はチラシの作成と2つの小学校での配布、市役所子ども福祉課はチラシの印刷で協力しています。

市では子育て支援に力を入れていて、2021年度には子ども食堂に対する補助金(子ども食堂活動運営補助事業補助金。月1回以上、1回に10食以上、学区を越えた活動をしている団体に対して1回につき10,000円)ができました。

行政の支援を基盤として、商工会が、子育て世帯や生活困窮者、子ども食堂への支援を目的に、市社協と「フードバンク事業協定」を締結しました。年2回程度、会員企業から食品等を募り、社協に提供する取り組みです。これにより、子ども食堂への食材支援のルートができました。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • 代表で拠点オーナーの浦井さん(保育園給食調理の経験がある)<br>• いきいき百歳体操のメンバー |
| 場 | • お休み処コスモス(街道沿いの店舗物件。宅配ピザ店が撤退したのち浦井さんが食堂として使えるように整備した) |
| モノ・資金 | • 本宮市こども食堂運営補助金(子ども福祉課。1回1万円。2021年度より)<br>• 「ふくしま子ども食堂ネットワーク」からの情報で企業からの食品の寄付を受けている。<br>• メンバーが持ち寄る野菜や果物　• 地元商工会から商品券の寄付 |
| 情報・ネットワーク | • 本宮市社会福祉協議会(チラシの作成、小学校での配布、町会での配布)<br>• ふくしま子ども食堂ネットワーク(助成金や寄付の情報、県内)<br>• 認定NPO法人ふくしまNPOネットワークセンター(子ども食堂立ち上げ時の相談と先輩団体の紹介)<br>• 本宮市保健福祉部子ども福祉課<br>• 本宮市保健福祉部高齢福祉課(いきいき百歳体操を通じた連携) |

## 活動の背景

コスモスグループの拠点「お休み処コスモス」は、代表の浦井さんが所有する店舗物件で、JR本宮駅近くの中心街、奥州街道沿いにあります。2016年にこの店舗が空いた時に「地域のみんなの居場所にできないか」と考え、仲間15人と「百歳体操コスモス」を立ち上げ健康体操を始めました。

浦井さんは保育所調理員の仕事を定年まで勤めあげ調理師免許もとりました。退職後は地域の子どもたちのためにできることをしたいと考えていたところ、2018年に郡山市で行われたフォーラムで子ども食堂の講演を聞き、子ども食堂に興味を持ちました。

2019年、台風による大雨で阿武隈川が氾濫し本宮市中心街が水害に見舞われました。地域の暮らしも様々な影響を受ける中、このようなときだからこそと立ち上げに向けて本格的に動き出しました。

## この事例から学ぶポイント

産業能率大学経営学部　中島智人

こども食堂コスモスは、コスモスグループの代表を務める浦井さんが2004年から営業をしている「お休み処コスモス」を拠点として実施されています。コスモスグループは、お休み処コスモスで行われる「いきいき百歳体操」の参加者の集まりであり、子ども食堂の運営主体でもあります。こども食堂コスモスでは、地域の助け合い・共助の精神のもと、自分たちの憩いの場を立ち上げた人たちが、いろいろな人たちの協力を得ながら、自分たちの想いを実現させています。ここでは、生活支援コーディネーターのように、地域の活動を支える側の視点から、この事例のポイントを整理してみたいと思います。

コスモスグループの活動の原動力は、「自分たちの得意を生かしたい」、「みんなでゆっくりお茶でも飲める場所を作りたい」という気持ちです。代表の浦井さんやコスモスグループメンバーの「やりたい気持ち」が、地域にとってのアセットであり、いろいろな立場でこの取り組みを支援する人たちを引き付けています。支援をする人たちは、この「やりたち気持ち」を尊重し、その気持ちが途切れないよう、さまざまなレベルで活動を支えています。

百歳体操は、市の制度にもとづいた取り組みですが、コスモスグループにとっては「憩いの場」に仲間が集まるための手段のひとつです。市も、百歳体操そのものを広めるだけではなく、地域の高齢者が助け合いながら活動を行うことが重要、という姿勢をとっています。また、子ども食堂の立ち上げでは、県域の支援組織である認定NPO法人ふくしまNPOネットワークセンターが、すでに子ども食堂を実施している近隣の団体を紹介することで、コスモスグループの具体的な活動に結びつきました。さらに、子ども食堂の具体的な運営については、子ども食堂に特化した支援組織、ふくしま子ども食堂ネットワークが何かにつけ相談を受けています。

百歳体操や子ども食堂を定期的に開催するためには、高齢者のボランティアによって支えられた活動とはいえ、ある程度「事業体」としての側面も重要となってきます。この点については、コスモスグループで対応が難しい物品の配送や広報資料の作成、助成金や補助金などの申請書類の作成などは、社会福祉協議会の担当者が支援しています。また、子ども食堂に対しては、市や地域の企業・商工会が、資金面、物品面での支援を行っています。さらに、県内の民間助成財団（福島民報教育福祉事業団）への助成応募を勧めることで、活動の一般的認知を高めることにもつながっています。

既にさまざまな取り組みがなされている地域の居場所や子ども食堂を支援する場合、ともするとうまくいっている事例やあるべき姿に近づけるような支援も考えられますが、この事例では、コスモスグループの「やりたい気持ち」を生かし、できることを実現するような支援が行われています。コスモスグループの自立的な活動に向けた、その環境を整える条件整備のような支援です。

コスモスグループの取り組みが行政から認められ、地域や広く一般からの認知を得ることで活動が充実していく一方で、活動の継続にとって懸念されるようなことも見受けられました。例えば、地域の高齢者による助け合いの活動が、介護サービスの提供者としてみなされるようなことです。活動をサービスの提供ととらえ、サービスの提供者と利用者とが分けられるような取り組みでは、地域の助け合いとはなりません。コスモスグループの活動の原動力であり地域にとって貴重なアセットである参加者の「やりたい気持ち」を生かしてこそ、この活動が成り立つのではないでしょうか。

### 1 こども食堂コスモス［福島県本宮市］

#### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

本宮市は県の中央に位置する本宮町と白沢村が合併して誕生した市。旧本宮町は古くから交通網が充実し、宿場町として栄えた。コスモスはJR本宮駅周辺の中心部近くの奥州街道沿いにある。近くには阿武隈川が流れ、過去には大きな水害に見舞われた。

**◎人口データ［本宮市本宮第一中学校区］**

総人口:13,517人
高齢者人口(65歳以上):3,846人
高齢化率:28.5%(令和4年12月)

## 発想を広げる アセット活用アイデア 1 寄付食材の運搬や保管はどうする?

こども食堂コスモスには米や加工食品、お菓子など様々な食品の寄付の情報が集まりますが、メンバーは高齢のため免許を返納していて車の運転ができる人がいません。引き取りができずあきらめたり、タクシーを使いかえってお金がかかってしまうこともあります。

子ども食堂や地域食堂へ企業等からの食材寄付が増えてきている中で、新たな課題が聞かれるようになりました。例えば、食材の寄付はフードバンクなどの中継拠点にまとめて送られることが多く、希望する活動団体はそこまで引き取りに行かなければなりません。しかし、車が運転できるスタッフがいなかったり冷蔵庫や保管場所がないとせっかくの寄付が活用できません。

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**



NPO代表者

まずは、車の運転が得意な団体として「移動サービス」が思い浮かびます。団体さんと一緒に相談に行き、「空いている時間」「OBで活動できる人」等を聞いてみてはと思います。

あと、ボランティアで人を乗せるのは躊躇するけれど、「荷物ならOK」と言う人もいますね。「タクシードライバー」さんなどに聞いてみたいですね。



元行政職員



県社協職員

社協では、「ボランティア希望者と活動」を結びつけることをしています。改めて、結びつけられる先はないか、関係者と話しあってみてもいいでしょう。

もし新しい人材発掘が必要となったら、講座開催がおすすめです。例えば、「地域食堂でのボランティアの出番と役割」等、参加者が楽しくなるような内容がいいですね。
保管場所も考えたいですね。地域内の複数の団体で利用することを考えると保管庫を設置できるスペースがありそうなのは、地域の店舗や企業の敷地内などでしょうか?



第1層SC



子ども食堂主催者

そうですね。私だったら「生鮮食品や冷凍食品を扱う企業」からアタックしてみます。「冷蔵庫」「冷凍庫」「常温食材の倉庫」等の種類別に相談してみます。

「ちょっとした管理」等もお願いできるといいですよね。こうした相談をきっかけに、商店街や企業との地域連携が進むかも知れません。



第1層SC



県社協職員

企業に相談する前に、とりあえず「社協や社会福祉施設」で受け取って保管しているところも多いと思います。

少し視点を変えて、地域の災害用保管施設に着目してはいかがでしょうか。地域には複数の「困った時の備え」があります。寄付食材等も「子どもたちの日常的な困り感への備え」として、「保管場所提供」の協力をお願いできないでしょうか。その際、寄付食材等は各団体のものではなく、地域に寄せられた善意と捉え直すことも大切だと思います。



大学研究者

事例紹介② 食 × 出番・役割

# 江戸時代の登録文化財“足軽の家”で「シニア男性が運営する子ども食堂」

## 足軽子ども食堂［石川県金沢市菊川地区］

### こんな活動

調理から食後の遊びまでシニア男性だけで企画、運営している子ども食堂です。こども園や児童クラブともつながり地域で子どもの育ちを見守っています。

### 運営の様子や特徴

足軽子ども食堂は月1回木曜日の夜開催。事前登録した犀桜小学校児童クラブ2年生の14名が参加しています。ここは2年生だけが参加できる子ども食堂で、毎年参加者を回転させてなるべく多くの子どもに参加してもらいたいと考えています。

食事+遊びのプログラムを運営するのは「クラブ足軽」のメンバー。60～80代のオール男性です。献立はカレーで固定しています。いつもカレーなのは、メニューを増やすと女性に手伝ってもらわなければならなくなるためだそう。カット野菜も活用して自分たちでできる範囲のことをすると決めています。8人のスタッフで、カレー・汁物・盛付け・配膳を分担して行います。材料費は1回5000円以内、米やカレールー等の寄付も活用しています。







17時半前にスタッフが小学校内の児童クラブへ子どもたちをお迎えに。「今日は何して遊んだ?」等と話しながら帰ります。実施主体の善隣館は昔から地域にある福祉拠点で、こども園も運営していることから、安心して子どもを預けられます。終了は18時半で帰りは親に迎えに来てもらっています。

立ち上げ当初は食事の前に「子ども論語塾」をしていましたが、低学年の子どもはなかなか集中できません。始めは理想もありましたが、やってみて子どもを自由にさせることが大切だと気付き、方向を変えました。そのかわりゲームの時間はしっかり準備して勝ち負けやルールも厳格にしています。おじいちゃんがやる子ども食堂なので、ダメダメ主義にはしたくありません。

床の間がある広い座敷での夕食や大らかなおじいちゃんたちとのふれあいは、核家族家庭の子どもにとって非日常の楽しい場所になり、スタッフは子どもとふれあうことで元気をもらっています。

### 基本情報

［名　　称］足軽子ども食堂
［住　　所］石川県金沢市菊川2-8-13
［開催場所］社会福祉法人永井善隣館「足軽の家」
［運営団体］クラブ足軽
［代　　表］新谷寿久
［開設・営業開始］2016年

［活動概要］
・男性ボランティアによるこども食堂の運営
**開催日** 毎月1回(木曜日)
17:00～18:30
17:00～17:45　食事
17:45～18:30　遊びの時間
**参加者** 犀桜小学校2年生15人前後
**メニュー** カレー、サラダ、スープ、デザート

## アセットのつながり

**⑴「クラブ足軽」の男性ネットワーク**

「足軽の家」では曜日毎に趣味の講座やサロンが開かれていますが、女性中心のものが多く男性が参加できるプログラムがありませんでした。そこで永井善隣館の理事長で元開業医の新谷さんが中心となり、男性サロン「クラブ足軽」を立ち上げました。こども園の前園長の上島さんもメンバーで、子ども食堂の事務関係を引き受けています。役割分担や担当制には企業人の経験が活かされ、男性のみの組織の気楽さもあります。

現在メンバーは8名。メンバーを増やすことを考え、店からうどんや寿司をとって月に1回男性のみの昼食会を行っています。地域での交流が少ない男性にいかに参加してもらうかが課題だと考えているそうです。

**⑵地域の歴史を感じることができるランドマーク「足軽の家」**

国の登録有形文化財に登録されている築160年の木造2階建ての、江戸末期から住み継がれてきた足軽の住まいです。永井善隣館に隣接していることから2009年に法人が購入し、金沢市の補助によって大規模修繕工事を行いました。

地域の歴史を感じることができるランドマーク的な建物で、漆喰の壁、広い玄関のタタキ、古い梁等も子どもたちにとっては珍しく、足軽子ども食堂の大きな特徴になっています。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • クラブ足軽メンバー(地域のシニア男性、善隣館役員、民生・児童委員もメンバー) |
| 場 | • 足軽の家(江戸末期の武士の住まいで、国の有形文化財。現在は社会福祉法人善隣館がサロン等の活動の拠点として地域に開放している) |
| モノ・資金 | • 金沢市地域サロン事業助成(永井善隣館の事業として)<br>• クラブ足軽メンバーからの寄付<br>• NPO法人いしかわフードバンク・ネット(こども食堂で使用する米や調味料のほか、ひとり親世帯に渡す食材の調達)<br>• 足軽の家のキッチン用具(他の高齢者サロンと共用) |
| 情報・ネットワーク | • 菊川社会福祉協議会<br>• さいおう児童クラブ<br>• 永井善隣館こども園 |

## 活動の背景

金沢市の「善隣館」は、戦後金沢市内に設けられた民間の福祉施設で、現在も11か所が残り高齢者福祉事業や保育事業のほか地域での友愛活動、ボランティアの育成活動等を行っています。地域の代表が運営に関わり、多くの住民が活動協力しているのが特徴です。

永井善隣館はこども園の運営のほか、「足軽の家」を高齢者サロンや趣味活動の拠点として開放しています。

「クラブ足軽」はシニア男性メンバーが週1回集まって時事の話題等を話しあうサロン。このメンバーでもなにかボランティア活動ができないかと模索していたときに、子ども食堂の新聞記事をみて立ち上げを決めました。

## 2 足軽子ども食堂[石川県金沢市菊川地区]

### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

菊川は犀川右岸に広がる住宅地帯であり、歴史上は名所や繁華街を抱かえる区域であったが、今日では静かな住宅街を形成している。

**◎人口データ[金沢市犀桜小学校区 菊川・本田・城南・笠舞]**

面　積:2.95㎢
世帯数:4,537世帯
総人口:10,072人
高齢者人口(65歳以上):2,161人
高齢化率:21.5%(令和4年)

事例紹介③ 食 × 出番・役割

# 「調理ボランティアの派遣」活動を創出して、地域サロン応援

## サロンで調理ボランティア［鹿児島県鹿屋市吾平地区］

### こんな活動

コロナがきっかけで始めた配食弁当の運営ノウハウを活かし、食の提供ができない市内のサロンへ調理ボランティアを派遣しています。

### 運営の様子や特徴

調理ボランティア派遣は始まったばかりで、試行錯誤しながらの取り組みです、と第2層SC松元さん。

食事を通じた交流はみんなに喜ばれ効果も大きいですが、食事づくりの負担が大きく、またコロナの影響もあり、実施しているサロンはわずかです。そこで、高齢者向けの食事づくりや大量調理のノウハウがある隣の会と第2層SCが連携し、地域の高齢者サロンに隣の会の調理ボランティアを派遣するサービスを始めることになりました。

一回目はサロン参加者が持ち寄った食材で隣の会ボランティアが料理を作り、サロンに届けました。隣の会とサロンのボランティアで盛付け、配膳を行いました。(メニュー:混ぜごはん・から揚げ・豚汁・酢の物)。

二回目は調理ボランティアがサロンを訪問して調理を行いました。家庭では作らない中華料理のリクエストに応え、サロン代表者からは「参加者とゆっくり話ができたのがよかった」との感想をもらいました(メニュー:八宝菜・かき玉汁)。

この取り組みがめざすのは、サロンが協力者と連携して食事提供のノウハウを積み重ねること。経験を積んだサロンが他のサロンをサポートする等、サロン同士が協力し合う土壌づくりをめざしています。





### 基本情報

［名　　称］サロンで調理ボランティア
［住　　所］鹿児島県鹿屋市笠之原町7402-5
［開催場所］鹿屋市吾平地区内の高齢者サロン
［運営団体］社会福祉法人 隣の会
［代　　表］理事長 齋藤鈴子
［開設・営業開始］2021年6月

［活動概要］

- ふれあいサロン川西
  (隣の会の事業。コロナ流行により休止し「お弁当の結」に移行)
  2020年まで毎月第4木曜日に食事を提供して開催。参加費300円
- 「お弁当の結」(隣の会の事業)
  毎週火曜日に夕食弁当の配食(登録代100円、配食弁当500円、前払いチケット制) 1回あたりの配食数:30食
- 「サロンで調理ボランティア」(隣の会とSCの連携による取組み) 吾平地区内の高齢者サロンに「お弁当の結」ボランティアを派遣して食事を提供する。

## アセットのつながり

**⑴コロナ禍をきっかけに始動した「お弁当の結」事業**

月1回実施していた隣の会の自主活動「ふれあいサロン川西」が休止となり、参加者の中で特に見まもりが必要と感じていた5名へ弁当配達をしたことから始まった配食活動です。空き家の提供を受け、隣の会のヘルパーやヘルパーのOGがボランティアとして参加、調理や配達を担当しています。食べる人の喜ぶ顔を思いながら作る美味しいお弁当は利用者・家族からも大好評。手作りの食事が喜ばれるのは活動者のやりがいになり、高齢になった隣の会スタッフの新たな役割づくりとしても適しています。

**⑵SCと助けあいNPOが連携する生活支援体制**

隣の会代表の齋藤さんは、鹿屋市の生活支援体制整備事業のアドバイザーでもあります。SCがキャッチした地域の課題に具体的な解決策を提案し、SCと一緒に仕組みをつくっています。

今回の調理ボランティア派遣では、第2層SCがサロン運営者と3回協議を重ねて、どうしたらサロンで食の提供ができるかを相談しました。また、依頼する団体と派遣されるボランティアとの間ですれ違いがないように、隣の会代表とも相談を重ねました。

1回目が成功したことで「サロンで調理ボランティアお弁当の結」の申込みシートを作成しました。サロン活動を対象にした仕出し屋というイメージにならないように、サロン運営側でできないことをボランティアとしてサポートすることに徹し、任せきりにしない工夫も大切だと考えています。

**⑶サロンでの会食会の再開の背中を押した医師会包括の助言**

コロナ禍で全国的に食べる活動が停滞する中、鹿屋市においては医師会が組織基盤にある包括支援センターが食に関する活動を実施の際の対策と注意点をしっかりと伝えました。感染の心配から何もかも中止にするのではなく、実施するならこのように行いましょうという指針があったことが活動再開の背中を押しました。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • 隣の会の助け合い事業のヘルパーがボランティアとして協力。 |
| 場 | • 隣の会「お弁当の結」拠点（代表 齋藤さんの実家物件）<br>• 吾平地区の高齢者サロン |
| モノ・資金 | • 日本NPOセンター助成金（コロナウイルスの影響を受ける住民参加型在宅福祉サービス支援助成）（「お弁当の結」の調理器具等初期整備に関して）<br>• サロンでの食事代として利用者から500円徴収し食材費に充当。<br>• 野菜や果物は持ち寄り品を利用。 |
| 情報・ネットワーク | • 鹿屋市医師会（受託する地域包括支援センターに第1層SCが配置されている）<br>• 第2層SC松元さん（吾平地区担当。地域包括支援センター所属。「サロンで調理ボランティア」のしくみを隣の会代表の齋藤さんとつくった）<br>• 末次サロン、池久保サロン（町会単位の高齢者ふれあいいきいきサロン） |

第2層SC…地域サロンで食を通じた交流活動を行うため、地域サロンと隣の会（調理ボランティアを派遣する団体）の間を調整している。

## 活動の背景

隣の会は1999年に任意団体として活動を開始。「困ったときはお互い様。助けたり助けられたり」を理念として有償ボランティアによる家事援助活動を行ってきました。2001年にNPO法人隣の会となってからも助け合い活動を広めるために、サロン活動や喫茶等の地域が集う活動を行なっている。2022年2月に社会福祉法人へと移行し、現在は介護保険事業や障害者支援サービスを展開しながら、活動当初からの助けあい事業も行い、食事づくりのノウハウも豊富です。

隣の会ではコロナ感染予防のため2019年以降会食会を休止しましたが、代わりに見守りを兼ねた配食活動を新たにスタートしました。一方で市内のサロンはコロナの影響や担い手の高齢化で活動が停滞していることや、調理の負担が大きく食事の提供が難しくなっていることが課題となっていました。

## この事例から学ぶポイント

琉球大学人文社会学部　田中将太

地域サロンからは、会食やお茶菓子を囲んだ参加者同士の和やかな交流の情景が浮かびます。コロナ禍ではそのような空間と機会の多くが途絶え、食活動に付随する様々な役割も参加者から奪うこととなりました。その一方で、感染症の不安と対峙しながら、参加者の日に日に元気がなくなっていく様子や再開を期待する声に焦りや危機感を感じつつ、継続の道を模索してきたサロンも存在していました。隣の会の「調理ボランティアの派遣」はそのような中から生まれた活動です。

この事例から学ぶポイントとして2つ挙げたいと思います。一つ目に「活動のつなぎ直し」です。鹿屋市でもコロナが落ち着き少しずつサロン活動が再開しましたが、会食など食を通じた交流の姿が少なくなっていました。コロナ禍に加え、地域サロンでの加齢に伴う活動の縮小など、食べることの楽しみや食卓を囲み笑顔になる機会が地域から減っていたのです。加えて再開したくてもwithコロナ対応といった新たなハードルもあります。以前はあった活動、「気持ちはあるけど、ノウハウや担い手がいない、応援してくれる存在がない。」、地域サロンには、「やってもらいたい」ではなく、「やれるようになりたい」というニーズが存在していました。

これらの課題を見聞きした隣の会の齋藤さんたちは、食を通じた住民同士の交流で笑顔で元気になることを目的に、「あるもので、できることから」と、会食の機会を検討する地域サロンへSCさんを介した調理ボランティアの派遣を始めます。不足しているところは、地域からできる人・やりたい人が出てくるまで調理ボランティアが「活動のつなぎ直し」をお手伝いしていきます。その際に協力する側の作法も重要になります。単なる地域サロンを対象とした仕出し屋にならないよう、派遣先の主体性を応援する関わりを心掛けます。一緒に活動しながら伸びしろを楽しむ姿勢が大切です。

二つ目は、「コツの取り分け」です。注目される先駆的な活動の多くにはスーパーマンの存在あります。あの人だから、あの設備があるからと、つい自らの環境と比べてせっかくの学びを活動に活かせない経験をしたことはないでしょうか。この事例には、先駆的な事例からコツをうまく取り分けて活用したうまさがあります。

食活動を分解してみると、献立・買い物・調理・配膳などの工程ごとの役割や利用・参加方法などの仕組みがあります。隣の会の齋藤さんたちは惜しみなく、手順書や様式など実際に使用している仕組みやコツを提供します。「そのまま活用」、「工夫が必要であれば応用」と、その地域サロンの実情や強みをよく知るSCさんとともに取り分け加減を模索します。その中で生まれたのが、何をどこまで協力してもらいたいかを事前に聞き取る「申込シート」の開発と「SCを介したマッチング」の仕組みです。地域サロンにも「調理できるようになりたい」「献立を一緒に考えて」「買い物は自分たちで」など様々なニーズがあります。SCさんが打合せを通じてでできること、手伝ってもらいたいことを申込シートを使って目的と役割を明確することで、当日は純粋に活動を楽しみあうことができます。

この事例でのSCさんの特徴は、初期段階のマッチングに見て取れます。双方の事情や思いをよく知る存在としてうまく立ち回り、ミスマッチがないように伴走し、行政栄養士による献立助言を絡めるなど、行政との連携の強みも活かします。地域サロンの主体性を大切に「活動をつなぎ直す」機会を見つけ、先駆的な事例から「コツを取り分ける」ことで、住民主体の活動にひろがりを生み出しています。

後日談として、派遣後に地域サロンから「結」に見学があり、調理ボランティアとの交流を深めたり、当日参加した行政職員が活動を全国でポスター発表して表彰されたりとその後の反響につながったそうです。地域サロンは他団体からの協力をうまく取り入れたことで自らのアセットを増やしていきました。この経験をもとに自らのアセットを他の地域のサロンに役立てたいと協力のバトンが自然と地域の中で回りだす、この事例からはそのような魅力的な地域の未来が感じられました。

## 3 社会福祉法人 隣の会［鹿児島県鹿屋市］

### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

鹿屋市は大隅半島のほぼ中央に位置し、古くから大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点。温暖な気候や豊かな自然環境に恵まれ、全国でも有数の食料供給地である。

**◎人口データ［吾平(あいら)地区(第2層圏域)］**

面　積:59.15㎢
世帯数:2,968世帯
総人口:6,144人
高齢者人口(65歳以上):2,340人
高齢化率:38.1%(令和3年)

## 発想を広げる アセット活用アイデア 2 お手本となる活動を、広域で展開していくには?

「隣の会」には、会食会の活動に取り組んできた長年の実績があります。衛生管理をはじめ大人数への対応や、高齢者向けのメニューづくり等のノウハウを持っており、コロナ禍を経ていち早く配食活動を再開させた、お手本となる取り組みをしています。

食の活動をなかなか再開できない団体への支援として、調理ノウハウを持つ「隣の会」メンバーを調理ボランティアとして派遣して、サロンでの食事提供を実現させました。

この事例のように、お手本となる活動や新しいアイデアを広域全体で共有できないかと考えることも多いでしょう。

広域で情報共有をしたり、助けあったりしていくには、どうしたらいいでしょうか?

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**


行政職員

第1層協議体レベルでフォーラムやサミットを開催し、モデル的な活動を発表してもらうことで、他地域の方にも共有することができます。自分の地域での課題に活用できるか等のワークを実施すれば、広域全体での活動のブラッシュアップにつながるでしょう。

市町村全域で、活動者同士の情報交換の場を作ったり、第2層協議体エリアごとに住民から住民へ活動のプロセスを伝える場を作れるといいですね。


第1層SC


県社協職員

事例紹介をする際、活動の成果だけでなく、経過や関わった人・団体、何につまづき改善してきたか等のプロセスをSCの視点でまとめることが大切かなと思います。必要としている地域や新たな風を吹き込む必要性を感じている地域に、視点を整理したものを発信できると効果的です。

各活動の強みと課題を把握し、相互に協力できることがないかを探したいですね。課題を乗り越えたエピソードや活用した資源等をSCがリストアップして、蓄積・共有していくことが大切です。また、モデル的活動が用いているシートやチラシ等のフォーマットがあれば、提供してもらえるといいですね。他地域で立ち上げる際、一から創りあげていく負担を少しでも軽減できます。


大学研究者


子ども食堂主催者

お手本となる活動の人に他の活動に出かけてもらい、話をしていく中で興味を持ってもらいお手本の活動を見に来てもらうようにするのはいかがでしょうか。

見学する時のコツがあります。1人では「勉強」で、2人では「どうしよう」と悩みで止まりがちですが、3人いれば「何とかしよう」と動くことが多いです。3人で行くことをお勧めしましょう。


元行政職員

事例紹介④ 食 × 見守り・相談

# 団地の空き店舗で「食品販売と日替わり定食提供」

## UR公田町団地「いこい」［神奈川県横浜市栄区］

**こんな活動**

丘陵地の団地内の空き店舗を拠点にして、コミュニティレストランの運営や食品・日用品の販売をしながら見守り活動をしています。

### 運営の様子や特徴

「いこい」は急勾配の坂道が続く公田町団地の中心、バス停前にあります。ガラス張りの店舗は明るく、入り口には採りたての野菜が並び、緑豊かなテラス席もあります。

店舗内には、トイレットペーパーや洗剤、インスタント食品・パン・お菓子・牛乳等の飲料や、スタッフの故郷から取り寄せた米や旬の果物が並びます。週1回のあおぞら市では、近隣の農家の野菜や障害者施設の弁当のほか、地元スーパーから購入した肉や魚も扱います。

商品にわずかなリベートをのせて販売しNPOの収益にしています。売れ残った場合はスタッフが買い取って回転させます。

ランチの提供は週4回。日替わり定食・カレー・うどん・チャーハン等、すべて500円以内で食べられます。毎回30食程度を用意します。食事以外でもコーヒータイムや友人とのおしゃべりに施設を利用できます。

拠点からは団地の通りが見渡せ、見守り活動に最適な環境です。「いこい」運営スタッフは来所した人への声かけや緊急対応をしています。







### 基本情報

［名　　称］UR公田町団地「いこい」
［住　　所］神奈川県横浜市栄区公田町団地1-740 番地1
［開催場所］URが管理する店舗
［運営団体］NPO 法人お互いさまねっと公田町団地
［代　　表］有友フユミ
［開設・営業開始］2010年4月

［活動概要］
- **あおぞら市**(2008年10月～) 毎週火曜日 10:00-15:00
- **買い物支援**(日用品販売 月・火・水・木・金)
- **ミニ食堂**(月・水・木・金の11:30-13:00)
  麺類、定食等　350～500円
- **交流サロン**
  気功、ヨガ、麻雀など(現在コロナのため休止中)

## アセットのつながり

**⑴団地で一緒に子育てをしてきた仲間**

10名のいこいの運営スタッフは、昭和の時代から団地に住み、子育てやPTA活動、スポーツを共にしてきた仲間です。団地で実施してきたお祭りなどのイベントの経験が「あおぞら市」のアイデアに生かされました。

メンバーには高齢化や孤独死などの団地の課題に向き合ってきた民生・児童委員や自治会役員の経験者もいます。その経験から、「いこい」はコロナ禍の中でも休まずに時間短縮の工夫で対応しました。

**⑵UR団地内の店舗スペースが見守り拠点に**

2009年、スーパーやコンビニが撤退した空き店舗が見守りの拠点「いこい」になりました。食堂・販売・交流のスペースや厨房施設などを整備するにあたっては、厚生労働省「安心生活創造事業」や「地域介護・福祉空間整備等交付金」が活用されました。

物販や食堂に加えて、一人暮らし世帯などの見守りを定期的に行う安心センターが特長でしたが、2019年度で市からの委託事業が終了しています。高齢化が進む団地には見守り機能が不可欠で、今後どう維持していくか行政やURとの協議が課題になっています。

**⑶「見守り会議」等、SC、地域包括、民生・児童委員等の連携体制**

「いこい」で行われる月1回の「見守りミーティング」は第2層SCが事務局を担当し、地域包括職員、民生・児童委員(団地から4名)、行政の高齢障害支援課、生活支援課、見守り支援員(「お互いさまねっと」から3名)が参加して行われます。この会議でそれぞれが関わっているケースを共有します。団地の中や「いこい」で気になっている人を伝えたり、気になる人を「いこい」に紹介する等の連携ができています。

第2層SCの矢澤さんは、いこいメンバーとできるだけ顔を合わせて最低でも月3回(会議、議事録のお届け、広報誌のお届け)は訪ねることで関係を深めています。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • NPO法人お互いさまネット「いこい」運営スタッフ(民生・児童委員や青少年指導員の経験がある人も) |
| 場 | • 団地内店舗(URのコミュニティスペースとして家賃無料)<br>• 店舗前のオープンスペース(あおぞら市の開催場所)<br>• 店舗に隣接する広場、ベンチ(ビアガーデンの開催場所) |
| モノ・資金 | • いこいスタッフのふるさとから取り寄せる産直品、スタッフの知り合いの農家から仕入れる野菜、福祉作業所の惣菜や弁当、スーパーの日用品(配達してくれる)<br>• 厚生労働省「安心生活創造事業」「地域介護・福祉空間整備等交付金」、横浜市「一人暮らし世帯等安心生活支援モデル事業」「地域の見守りネットワーク構築支援事業補助金」 |
| 情報・ネットワーク | • 第2層SC矢澤さん(桂台地域担当。いこいで行う「見守りミーティング」の事務局のほか、後方支援を行う)<br>• 桂台地域ケアプラザ(保健と福祉の拠点として地域ごとに設置された横浜市独自の施設。地域包括支援センター機能があり、第2層SCも配置されている) |

第2層SC…地域住民へ「いこい」の紹介、「いこい」フリースペースを使った介護予防講座の企画運営、見守り会議の事務局等で連携している。

## 活動の背景

1996年に団地の中心にあったスーパーが撤退、その後入ったコンビニも2007年に閉店しました。坂道の上り下りで買い物は不便になり、店の灯りが消えた団地は住民同士の関わりも希薄になっていました。ひとり暮らし高齢者の孤独死も相次ぎ、公田町団地は栄区の孤独死予防モデル事業の地域に指定されました。

2008年、栄区役所から自治会、民生・児童委員に「見守り活動」について声がかかり、「お互いさまねっと公田町団地」事務局が発足しました。

同年区役所が開いたタウンミーティングでは困りごとを相談できない人がいることや、買い物困難の地域の課題が話し合われ、「お互いさまねっと」は相談事業とあおぞら市の開始を決めました。

## この事例から学ぶポイント

千葉大学大学院人文科学研究院　清水洋行

小高い丘の上にある1,000戸余りの団地の中央に交流拠点いこい（以下、いこい）が開館したのは2010年です。そのとき直面していた課題は、コンビニの撤退によって買い物が不便になったことと、1964年から入居が始まった団地の高齢化率が50%を超えてかつてよりもお互いの顔がみえなくなってきたという実感です。2008年に活動が開始し、その翌年にNPO法人お互いさまねっと公田町団地が設立されますが、そこでの中心メンバーは、長年同じ団地に住み、子育てやPTA、自治会活動等を一緒に行なってきた仲間たちです。2008年に区の声掛けで実施された5回のタウンミーティングは、この仲間たちがいこいでの活動の起点となるアセットとなっていくことを推進した取り組みといえるでしょう。

そして、住民へのアンケートの結果をふまえた検討を経て採用された手法があおぞら市です。あおぞら市は、PTA活動や地域のイベントでは、比較的馴染みのあるレパートリーといえるでしょう。比較的ハードルが低く、いろいろな人に出番があり、メンバー以外の人と交流できます。加えて、商品選びの楽しさや仕入れを通じた交流の広がりもあります。仕入れ先は、区内のスーパー、隣接市の農家、障害者団体の総菜などです。また、いこいの一角を占める「街の雑貨屋さん」で、日用品やインスタント食品とともに並んでいる米や野菜、果物などは、団地に入居した住民のふるさとや地方に住む知人、旅先で見つけたお店などからの取り寄せとなっています。

あおぞら市や街の雑貨屋さんといった買い物支援や食事や飲み物のある交流サロン等を通じた住民との継続的なかかわりは、住民のちょっとした変化に気づく見守りの場となっています。また、当団体には民生委員・児童委員や見守り支援員をしているメンバーがおり、各棟の各部屋の様子や郵便ポストの状況、道路でのあいさつや声かけといった地域での見守りを行っています。これらいこいの内外での見守りでの気づきは、生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、区の高齢者担当や生活困窮者担当、障害者担当等の部署につなげられています。この連絡は、必要に応じてその都度、直接会ったり電話したりするかたちで交わされるとともに、月に1回、いこいでの見守りミーティングの場で行なわれています。このような身近な圏域を単位として当団体と公的機関との間でインフォーマルおよびフォーマルなかたちで連携がとられている背景の一つには、地域ケアプラザという横浜市が地区ごとに設置している独自の施設があります。当団体が連携している生活支援コーディネーターや地域包括支援センターも地域ケアプラザを拠点としています。当団体がある栄区の場合、人口12万人の区内に7か所設置されています。

最後に、活動の開始と継続にあたって、ソフト面・ハード面における公的機関の連携に触れたいと思います。ソフト面は、公田町団地が2008年に横浜市の地域見守りネットワーク構築支援事業のモデル地区となったことです。この事業は、団地自治会、地域ケアプラザ、区の協働によるもので、そこが当団体を生み出すインキュベーターの役割を果たしたといえるでしょう。ハード面は、団体が賃借している施設（いこい）の改装や整備にあたり、国土交通省のモデル事業となったことです。この事業は、都市再生機構（UR）、横浜市の関連部局、栄区の連携がありました。このように「意欲ある住民」の人たちによる取り組みの展開にとって、地域の団体と公的機関との連携とともに、公的機関どうしや自治体の関連部署どうしの横断的な連携も重要な条件の一つといえるでしょう。

### 4 UR公田町団地「いこい」［神奈川県横浜市栄区公田町］

**周辺地区の概要**

**◎地域概要**

公田町団地は横浜市南部に位置する栄区の大規模団地で、起伏の多い丘陵地に造成され33棟1160戸が並ぶ。入居開始は1976年。団地全体で高齢化が進んでいる。世帯数1,100世帯、人口約1,900人。高齢化率はおよそ55%である。

**◎人口データ［公田町団地］**

世帯数:997世帯
総人口:1,377人
高齢者人口(65歳以上):750人
高齢化率:54.5%(令和4年3月末時点)

## 発想を広げる アセット活用アイデア 3 助成金等の受給終了後も活動を継続するには?

「いこい」は、団地の中心にある元スーパーを活用した居場所です。当初の改修費やこれまでの見守り事業の運営費は国や市の委託事業や補助金で賄っていましたが、今年度より補助事業が終了し、自主財源での運営を模索し始めました。

活動を立ち上げる際、場所代や設備を揃えるために、少し大きな資金が必要になることがあります。SCとして、行政や民間企業の助成金の情報提供や申請支援を行うことも多いでしょう。しかし、助成金が通っても「最長3年間」等の期限があって、受給終了後の活動の継続について困っているという声があります。

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**


大学研究者

助成金を獲得したら資金があり安心して活動できるうちに、団体が大切にしている事業が運営できるよう足元を固めましょう。助成金が終了したら団体も終了とならないように、助成期間の終了が近づいてから次を考えるのではなく、3年くらい先の出口戦略を考えておく必要があります。

そうですよね。助成金は、団体のミッションを確立させることにも活用したいですね。私は、協力者を増やす機会でもあると考えています。SCさんは団体の強みが活かされるフィールドや協力者の紹介等を心がけると良いと思います。


大学研究者


第1層SC

SCは、助成金が終了しても活動を継続している他市町村の取り組みを調べ、情報提供ができるようにしておくと良いですね。

団体が行政や社協等と信頼関係を構築することで、次につながる情報や支援が得られることも多いと思います。それには、団体がどんな活動をしているのか、日常的に情報を届けることが大切です。具体的には、活動内容をA4版1枚位にまとめ、4半期に1回程度、行政や社協等に届けるように、SCから団体へ提案してみたらどうでしょう。地域のリアルな情報を行政等は知らないことがあります。課長等の管理職に直接届けることをお勧めします。


元行政職員


大学研究者

情報発信は、行政や社協だけでなく、地域の人の信頼を得ていくためにも大切ですね。

助成金頼りで活動を拡大すると、終了時に困ることになります。寄付や会費による自主財源でできることはないか、団体メンバーだけでなく、SCや社協などの関係者で話しあい知恵を出しあってみましょう。


子ども食堂主催者


大学研究者

これまでの活動を振り返り、自分たちが担ってきた役割を、これまで協力してくれた団体等に移すことはできないか、という視点からも検討してみるといいと思います。

**食に関する相談先**

こども食堂サポートセンター　https://mow.jp/kodomo/index.html
ミールズ・オン・ホイールズ　ロジシステム　https://mow.jp/mow-ls/index.html

事例紹介⑤ 食 × 見守り・相談

# 食を介して ゆるやかなつながりを築く場所

## ここめし／ここめし女子会［香川県善通寺市］

### こんな活動

「ここめし」「ここめし女子会」は生活のしづらさを抱えた方や地域とのつながりの少ない方等が、ボランティアのつくる手作りの食事を介し地域の方々とゆるやかにつながり、自身の得意なことを生かしながら安心して過ごせる居場所です。

### 運営の様子や特徴

「ここめし」「ここめし女子会」は地域支え合いセンター「ここ家(や)」で行われている取組のひとつ。ここめしは夕方の1時間半ほどで開かれている食を通じた居場所で、参加費は200円です。参加者は主に社協の相談に来られた方や関りのある方で、毎回10～20名程の参加があります。普段ひとりで食事をとられている方も、たまには誰かと食事をすることで嬉しい気持ちになれたり、社協での相談を一旦終えた方も案内や参加を通じて最近の様子を知ることができたりして、地域の中で継続したつながりが持てる場となっています。

ここ家1階の「日替わりシェフの店なないろ」にシェフとアシスタントとして参加している2名がここめしでは調理ボランティアとして参加。地域の主任児童委員や民生・児童委員もボランティアとして参加し、配膳や盛り付けをします。参加者はボランティアや社協スタッフとの会話を楽しみながら手作りの料理をいただきます。

小さな規模で開催しているため、大人数が苦手な人や声が聞き取りにくい人でも安心して参加できる環境です。

ここめしの開催に向けて、スタッフ・ボランティアで打ち合わせの会を設け、その中で前回活動の振り返りや次回の打ち合わせなどを行っています。参加者の様子や配慮が必要なことなど丁寧に情報共有を行って、開催の日を迎えます。

できたての温かい食事をだれかと食べること、そんな会食会の予定ができることが、参加者の生活の小さな楽しみになっているようです。また参加者が定期的にスタッフや地域のボランティアに会えることにより、ちょっとした困りごとでも話せる関係性が生まれます。

比較的男性が多かったここめしに行きづらかった女性や性同一性障害の方のニーズを捉えここめし女子会を新たに始めました。こちらはサロンのような感じでお菓子やスイーツを囲み、お茶を飲みながら少人数でゆったりと過ごせる場になっています。







### 基本情報

［名　　称］ここめし／ここめし女子会
［住　　所］香川県善通寺市生野本町二丁目15番31号
［開催場所］善通寺市地域支え合いセンターここ家の1階生きがい広場
［代　　表］善通寺市社会福祉協議会が運営
［開設・営業開始］2016年4月

［活動概要］

- **ここめし／ここめし女子会**
  生活のしづらさを抱えた方、地域とのつながりが少ない方等が会食をしながら食を通じて地域の方々とつながるきっかけを作るとともに、安心して過ごせる居場所を実施。
- **日替わりシェフの店なないろ**
  地域住民がシェフとなり日替わりでランチを作り、一般の方に提供するワンデイキッチンを運営。

## アセットのつながり

**⑴地域支え合いセンター「ここ家」**

ここ家は地域共生社会の実現を目的に善通寺市社会福祉協議会が運営する地域拠点で、2016年の開設以来、地域住民がお互いに支え合える仕組みづくりを推進しています。1階では、「日替わりシェフの店ないろ」や「生きがいひろば」(おりがみ、ぬりえ、手芸、体操、アート教室)の他、誰もが活躍できる場として、地域の方からの90代の方から元気の秘訣の話や介護体験者の話、また福祉の専門家から話を聞ける機会などを企画、発表できる場としての「ここ寄席」、地域支援事業の一般介護予防事業(脳トレ)などを行っています。2階では市の介護予防日常生活支援総合事業の通所サービスを提供しており、通所サービス利用者にも送迎の前後で、希望者にはワンデイキッチンのランチを食べることもできます。

**⑵新たな住民主体の活動への広がり**

ここ家の活動をいいなと思ってくれた地区社協会長さんへ、「会長の地区でもやってみませんか!」と社協職員から提案。月1回お茶を飲み気軽におしゃべりしながら、困りごとの相談もできる地域の居場所「ミニここ家」の構想が始まりました。この地区のようにここ家のようなふらっと寄れて、相談もできる住民主体の居場所を地域に広めたいと考えています。相談機能をプラスするためには、県社協で推進されている「香川思いやりネットワーク事業(社会福祉法人施設や社協、民生委員児童委員が協働し、様々な生活のしづらさを抱える方を支えるための仕組み)」を活用したり、地域にいる保健師や施設職員のOBに関わってもらったりと、どんなやり方ができるのか検討を進めています。またコロナをきっかけに地域の交流の機会が減りなかなか再開が進まない中、「ミニここ家」構想を通して、社協や公的な機関が積極的に住民の困りごとをキャッチし、アウトリーチの機会の重要性を再確認したそうです。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • 「日替わりシェフの店ないろ」の調理ボランティア<br>• 民生・児童委員　• 主任児童委員<br>• 相談支援に携わる相談員(障がい者相談支援事業所、ホームヘルパー、ケアマネジャー等) |
| 場 | • 善通寺市地域支え合いセンター「ここ家」<br>• 地域の子ども食堂(日常的に連絡を取り合い、人をつなぐ先として連携) |
| モノ・資金 | • 善通寺市社会福祉協議会の会費　• 赤い羽根共同募金の助成金<br>• フードバンクからの寄付食材 |
| 情報・ネットワーク | • 善通寺市社協ネットワーク(住民・地域団体やボランティア)<br>• 香川おもいやりネットワーク事業　• 地域ネットワーク会議の参加事業所／相談員等 |

### 活動の背景

社協へ生活や仕事、障害に関する相談に来られ、相談を通して支援につながったあるいは仕事ができるようになったという方々に対し、その後も継続して見守り誰かとつながっていると感じてもらいたいという思いがありました。しかし、「出張相談コーナー」のようなやり方だと実際の困りごとの相談につながりにくいという状況を感じていました。そこで、まずは食べることをきっかけにふらっと行きやすい場を設け、困りごとをつぶやける関係性を築いて、そこから相談や支援につなげられる活動として、社協スタッフとボランティアによる会食会が始まりました。

## 5 ここ家での「ここめし」「ここめし女子会」[香川県善通寺市]

### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

香川県北西部に位置する善通寺は平安時代より善通寺市を中心に栄え、現在は陸上自衛隊の駐屯地や国立病院、大学など数多くの公共機関がある。

**◎人口データ[善通寺市]**

面　積:39.93㎢
世帯数:14,808世帯
総人口:30,702人
高齢者人口(65歳以上):9,866人
高齢化率:32.1%(令和4年4月)

事例紹介⑥ 食 × 食育

# 地域のシニアボランティアが「朝食サービス」で子どもの育ちを応援

## 下小モーニング［香川県三豊市三野町下高瀬地区］

### こんな活動

地域で活動する高齢者メンバーが小学校で子どもに朝食を提供、食育と見守り、多世代交流を行っています。

### 運営の様子や特徴

月曜日の朝6時、地域の常設サロン「みの元気塾」の活動拠点である市保健センター内「太陽の家」キッチンで、朝食の準備が始まります。朝食づくりは「みの元気塾」のボランティア「PASボランティアみの」と、民生・児童委員、食生活改善推進員からなるグループが分担して行っています。スタッフは各グループ1回に6～8名です。

朝食は7時前に下高瀬小学校の家庭科室に運ばれ、7時15分から「朝ごはんの会下小モーニング」が始まります。「友だちと一緒に食べると楽しいから」と毎回楽しみに登校してくる子、「嫌いだった野菜もここだと食べられる」と言う子もいます。最初は恥ずかしそうにしていた子も大きな声で挨拶ができるようになりました。全校約180名に対し担任の先生経由で申込書が配られて、40～50名の希望者が利用します。メニューはおにぎりかパン、汁物におかず1品。子どもが好きなもの、食べきれる量等の検討を重ね、子どもが自分で量を選べるようにしました。昼の給食とメニューがかぶらない工夫もしています。

朝食を食べると授業に集中する、体育を元気に受けることができる等の変化があり、学校側も朝食の時間を大切に考え、協力しあっています。








### 基本情報

［名　　称］下小モーニング
［住　　所］香川県三豊市三野町吉津乙2030 保健センター内「太陽の家」
［開催場所］下高瀬小学校(三豊市三野町下高瀬760-1)
［運営団体］下高瀬地区社会福祉協議会/みの元気塾
［代　　表］永井賢二(下高瀬地区社会福祉協議会会長)
［開設・営業開始］2022年9月

［活動概要］
・下高瀬小児童を対象とした朝食の提供
**日時** 月曜(月3回程度) 7:15-8:00
**メニュー** おにぎりorパン+汁物+1品
**参加費** 無料
**参加者** 40～50人／回(全児童数184人)
**スタッフ** 6～8人(PAS・食改善推進委員会・民生委員)

## 活動を支えるアセット

### アセットのつながり

**(1)地域の支えあいネットワーク「みの元気塾」の人的資源**

下小モーニングの活動を核となって支えているのは町内のボランティアグループ「みの元気塾」です。「みの元気塾」はひとり暮らし高齢者、子どもや子育て中の親、障害がある人等、誰でも参加できる常設の居場所として、配食、親子食堂・子ども食堂、学用品のリユース等の活動を行っています。

みの元気塾の運営の要となっているのが「PAS」というボランティア集団。70代女性を中心に、民生・児童委員や食生活改善推進員の経験がある人たち等が参加していて、下小モーニングの運営でも主導的存在です。

**(2)小学校との連携体制**

下高瀬小学校は県内唯一のユネスコスクール加盟の小学校で、合鴨農法での米作りや味噌造り等を通して地域との交流を大切にしてきました。みの元気塾代表の関さんは運営協議会委員でもあり、学校との長い信頼関係がありました。

下小モーニングの活動で、「授業に集中できるようになった」「体育でがんばれるようになった」等、良い変化が生まれていることを学校も評価しています。朝食の時間を大切にするように子どもに伝えたり、毎回、SNSを使って保護者へ内容を配信する等、連携しながら取り組んでいます。

### カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • **みの元気塾の代表関さん**(民生・児童委員の経験があり、下高瀬小学校学校運営協議会委員・下高瀬地区社協理事)<br>• **PASボランティア**(みの元気塾を支えるボランティア集団)<br>• **民生・児童委員、食生活改善推進員**　• **下高瀬小学校の校長、教頭**<br>• **教員**(申込のとりまとめ、児童への声掛け) |
| 場 | • **下高瀬小学校の家庭科室**<br>• **「太陽の家**(保健センター)」(みの元気塾の拠点。使用料無料。ここで調理して学校に車で持ち込む) |
| モノ・資金 | • **市社協の助成金**(食材費・備品・謝金)▶**下高瀬地区社協予算**(市社協助成金(食材費・備品・謝金))<br>• **県社協助成金**　• **地元企業からの食材** |
| 情報・ネットワーク | • **三豊市健康福祉部**　• **三豊市社会福祉協議会**　• **下高瀬小学校**<br>• **地域の集まりの会議録**(住民の関心ごとを知るきっかけになった) |

### 活動の背景

三野町では「三野町子育てスローガン(社協の地域福祉活動計画)」で朝食の重要性が謳われていましたが、ある地域の集まりの場で「朝食を食べていない子どもがいる」ことが話題になりました。

一方、社協では、高齢者が元気になるには、子どもたちと交流することが必要と考えていました。

子どもから高齢者まで地域の交流の場として開かれている「みの元気塾」は、居場所で食事の提供や配食活動を行っていました。子ども食堂を担当している社協地域福祉推進課の上村さんは、集まりの議事録から地域住民が子どもの食に関心があることを知り、子どもへの朝食提供を念頭に、みの元気塾の配食活動ボランティアに、他県で行われている朝食提供活動の動画を見てもらい、活動のイメージを共有しました。

## 6 下小モーニング[香川県三豊市]

### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

三豊市は香川県西部に位置し2006年に7町が合併して誕生した市。県内では高松、丸亀に次いで3番目に人口が多い。江戸時代の街並みや四国霊場・史跡等が残り、観光資源も注目されている。三野町は高瀬川の東西に田畑が拡がる農村地帯だが最近は農地の宅地化が進んでいる。

**◎人口データ[三豊市三野町下高瀬]**

面　積:3.99㎢
世帯数:1,136世帯
総人口:3,199人
高齢者人口(65歳以上):1,159人
高齢化率:36.2%(平成27年)

## 発想を広げる アセット活用アイデア 4 学校と連携するには?

下小モーニングの活動は、地域の民生・児童委員や食生活改善推進員、ボランティア活動をしているメンバーが長い間地域に貢献し、また学校とも顔がつながる関係が構築されている上で実現している活動です。

地域には「子どものために何かしたい」と考える人は多く、「学校と連携できないか」という意見はよく聞かれます。一方で、子どもの安全安心を守る視点から考えると、学校側が広く誰でも受け入れることに躊躇することも理解できます。

このような中で、学校と連携するにはどこから始めるといいでしょうか?

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**


元行政職員

まずはPTAの人と知りあいになることから始めましょう。PTAがない時は、学校を取り巻く子ども関連の施設や事業所(児童養護施設、幼稚園・保育園、学童クラブ等)の人と知りあいになりましょう。知りあいになった上で「子どものためにできることがあるか」を相談し、一緒に考えてみるのが良いと思います。

協議体メンバーの中には、ご自身がPTAや学校評議員のような、学校にかかわりのある方もいらっしゃいます。そういった方は、地域住民として学校運営に参画していますので、一度相談してみるのも良いと思います。


第1層SC


大学研究者

助けを求めてきた子どもを保護する「子ども110番の家」への協力依頼で、PTAの人が訪ねてくることがありますね。

そうですね。そのような機会も含めていろいろな場面で、学校関係者とお友だちになるための「ひと手間」を惜しまないことが大切です。


子ども食堂主催者


第1層SC

防災に関しては、学校と地域が一緒に取り組みやすいテーマです。具体的には、地域防災訓練を学校にも関わってもらうことから相談してみると良いのではと思います。

団体の活動に学校の協力が必要と思っても、今の学校は本当に多忙で活動に協力するその余裕はないことが多いです。そこで、まずは団体の強みが活かされる領域で「学校が抱えている困りごと・取り組もうとしていること」に協力することから始められないでしょうか。困りごとを手伝ったり頼りになる協力者からの相談には、学校側もきっと耳を傾けてくれるようになるでしょう。


大学研究者

## 発想を広げる アセット活用アイデア 5 多世代がつながるための工夫は?

地域活動が活性化していくには、幅広い世代が担い手や参加者としてつながっていくことが求められます。お互いの違いを認めあう多様性が生まれ、新しい気づきを育んでくれる良さがあります。しかし、実際には、若い人たちとどこで出会えばいいのかわからない、どんな活動をすると多世代の活動になるのかわからないなどの声を聞きます。多世代がつながるためには、どんな工夫が必要でしょうか?

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**



第1層SC

「子どもの支援」をまん中においた活動は、子どもたちの親や、学校、地域の商店や企業を巻き込んだ活動として発展していくことが多いです。また、高齢者が子どもの支援に関わることで、介護予防・社会参加・生きがいづくりにつながります。子どもから高齢者が助けられる場面も生まれ、お互いに支えたり、支えられたりすることで、多世代が関わる活動になっていくと思っています。

そうですよね、子どもの活動に関われるといいですよね。若い人や子どものつながりがない団体は、後継者問題を抱えていることを「強み」として活かし、地域の親子を対象としたイベントに取り組んだり協力したりすることで、次の展開が生まれることもあると思います。



大学研究者



大学研究者

また、相互支援の関係づくりができている活動においては、すでに多様な世代が何らか関わっていることが多いと思います。「利用者、活動者、協力者、支援者」等、関わり方に違いはあれ、共通の活動のなかで「何気ない助かること」を出しあうことを奨励してはいかがでしょうか。助けられる場面が多くなることで、多様な役割が生まれます。助けられる場面が増えることで、支援者という役割を設けなくても運営できるようになると、どんな人でも関わりやすくなると思います。

今まで関わりのない世代と出会うには、今ある活動を変化させることも大切だと思っています。例えば、自治会等で多世代の意見を聞くワークショップを開催してみてはいかがでしょうか。若い人から「こんなことやりたい」という意見が出たら、自治会と協力して「やってみる」ことも良いのではないでしょうか。
新しい活動にチャレンジする機運をつくることで、何かが生まれてくるのではないでしょうか。



第1層SC



県社協職員

後継者問題や次世代育成の解決策として、若い人材を自らの団体スタッフに誘うことを考えがちですが、自分の団体ではなくとも、同様の活動を立ち上げた新規団体を地域の後継者として認める考え方も大切だと思っています。

事例紹介⑦ 食 × 食育

# 赤ちゃんから高齢者まで、「世代間交流があるダイニングサロン」

## 介護予防サロン福蝶とキッズカフェ［石川県白山市福留南］

### こんな活動

一軒家の居間で開かれる、楽しく会話ができる赤ちゃんから高齢者までの多世代サロンです。みんなで昼ご飯をつくり、食事をしながら交流しています。

### 運営の様子や特徴

福留町エリアは、玄関先でも3人寄れば会話が生まれるという元々住民同士の地域交流が盛んな地域です。介護予防サロン福蝶は「デイサービスには行かない人」たちの認知症予防を目的としたつどいの場としてスタートしました。週1回の開催でアットホームな雰囲気の中おしゃべりを楽しみながら、習字や大正琴、筋トレ等のプログラムにも参加できます。

昼食の提供もあります。調理は、ボランティアだけではなくサロン参加者も手伝います。

この場所で行う「キッズカフェ」は、高齢者と子どもたちが一緒に調理をして一緒に食べる活動で、ボランティアも含めると4世代の交流の場になっています。参加するのは特別支援学校の児童や未就学児を連れたお母さん、サロンの高齢者等。コロナ禍中も感染対策をしてみんなで調理、みんなで会食を5年間継続しています。

食に興味がある子どもと、料理上手の高齢者が相互に支えあいながら食事を作る微笑ましい光景が見られます。参加者は口コミのほか、ケアマネジャーや地域包括支援センター、公民館からの紹介でつながった人たちですが、要介護や認知症、障害等の個人的な事情はサロン内では一切言いません。子どもも高齢者も、認知症がある人もない人も、ボランティアも分け隔てなく、参加者全員が「自分ができることをすすんでやる」のがサロンのモットーです。





### 基本情報

［名　　称］介護予防サロン福蝶とキッズカフェ
［住　　所］石川県白山市福留南174
［開催場所］運営責任者である五郎川夫妻の自宅のたまたま空き家になった隣家
［運営団体］傾聴ボランティア聴蝶
［代　　表］五郎川 外美江
［開設・営業開始］2012年(介護予防サロン福蝶)／2017年(キッズカフェ)

［活動概要］

- 介護予防サロン福蝶
  **開催日** 毎週1回 水曜または土曜 10:00-15:00
  **参加費** 100円／1日 習字や大正琴、体操 等
  **食事代** 350円
- キッズカフェ
  **開催日** 不定期(チラシ等で事前告知)
  **開催時間** 9:30-13:00頃
  **参加費** 大人100円　子ども無料

## アセットのつながり

**⑴代表者の隣家、繋がりの居場所「一軒家」**

遠くに白山の山並みが見渡せるのどかな田園に整備された住宅地にある一軒家です。1階は8畳2間とキッチン、トイレという間取りで、さらに玄関前の広い駐車場はちょっとしたイベントにも利用できるこの場所を無償で借り受けています。畳の座敷は高齢者には馴染みがあり、子どもたちには新鮮です。

**⑵多世代交流活動を支える仲間たち**

五郎川さんがライフワークの柱として続けている傾聴ボランティアの仲間は、介護予防サロン福蝶を支えるとても重要な存在です。それぞれの人が持つ、防災士、民生・児童委員、ヘルパー、ケアマネジャーといったキャリアにおける経験値が大きな力になっています。警察署とは交通安全や詐欺の注意喚起の講話をしにきてもらう関係があり、参加者の安心につながっています。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • 代表の五郎川さん(介護福祉士、ケアマネジャー、防災士の資格を持ち、傾聴ボランティアとしての長い活動歴がある)<br>• 五郎川さんの傾聴ボランティア仲間<br>• 金城大学学生ボランティア |
| 場 | • 一戸建て住宅(地域活動の拠点として、無償で貸与されている) |
| モノ・資金 | • 白山市高齢者通いの場づくり支援事業補助金(1回 5,000円)<br>• 白山市こども食堂補助金(1回5000円)<br>• 近隣農家からの野菜や米の提供 |
| 情報・ネットワーク | • 白山市長寿福祉課<br>• 白山市社会福祉協議会、子ども食堂ネットワーク<br>• 白山市子ども食堂事業地元応援隊<br>(運営のボランティアや寄付、食材提供など子ども食堂の応援者を登録し、各子ども食堂に紹介するしくみ) |

## 活動の背景

代表の五郎川さんは介護福祉士、ケアマネジャーの職歴もあり、防災士の有資格者でもあります。長く傾聴ボランティアを続け、いつか何かを地域でやってみたいと考えていました。

たまたま隣家が空き家になったことをきっかけに、傾聴の場を軸とした「高齢者に居心地の良い所」を作ろうと白山市の助成金を活用してリフォームを敢行。『介護予防サロン福蝶』をオープンしました。

今では毎回18名程度が参加、常連とふらっと来る人で賑やかに会食ができるようになりました。

## 7 介護予防サロン福蝶とキッズカフェ[石川県白山市福留南]

### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

白山市は県都金沢市の南西部に位置し、人口は金沢市についで2番目に多い。山・川・海の豊かな自然に恵まれた地域。

**◎人口データ[白山市石川地区]**

世帯数:1,838世帯
総人口:4,531人
高齢者人口(65歳以上):1,256人
高齢化率:27.7%(令和4年3月末)

事例紹介⑧ 食 × 交流・つながり

# 買い物困難地域の生活を支える「移動販売車」と地域交流

## 上郷東連合町会 移動販売車［神奈川県横浜市栄区］

### こんな活動

買い物不便な住宅地の公園で、週1回行われる移動販売の取り組みです。買い物支援に加え、見守りやコミュニティ創出の機会になっています。

### 運営の様子や特徴

移動販売車が来るのは毎週火曜日。販売開始の30分ほど前から、町会メンバーが庄戸第三北公園に集まり準備を始めます。時間になると「ダイエー港南台店」と「SELP・杜（就労継続支援B型事業所）」の移動販売の軽自動車が公園にやって、日用品や野菜のコンテナを並べてあっという間に販売所ができあがります。

ダイエーの取り扱いは、日用品・野菜や肉魚等の生鮮食品・加工食品・惣菜等、実店舗に遜色ない品揃え。スーパーの店内かごが用意され、車に装備されたレジではクレジットカードや電子マネーも使えます。

SELP・杜は作業所で焼いた多種類のパンや豆腐・納豆、ジャム等の加工食品を扱っています。障害があるスタッフも接客します。



手伝いの住民は毎回10名以上が参加。町会役員や民生・児童委員のほか、第2層SCも必ず参加しています。販売時間は30分程度と長くはないですが、三々五々集まってきた人々にSCたちが積極的に声をかけ、時には重い荷物は自宅まで運んだりしています。庄戸地域の人々にとって、移動販売はライフライン。地域のしくみとして持続させるためには、なるべく多くの人が利用し買い支えることが必要と、毎回売上金額と参加人数を共有し、必要な人へ声をかけるようにしています。毎回3〜40名の買い物客でにぎわっています。





買い物支援だけでなく、交流の場であり、ひとり暮らしの人や気になる人の情報を集めたり、伝える場になっています。

### 基本情報

［名　　称］上郷東連合町会 移動販売車
［住　　所］神奈川県横浜市栄区庄戸3-10
［開催場所］庄戸第三北公園
［運営団体］上郷東連合町会・社協・ダイエー
［代　　表］芦川 弘(上郷東連合町会会長)
［開設・営業開始］2019年

［活動概要］
- **移動販売** 毎週火曜　10:30-11:00
- **販売場所** 庄戸第三北公園
- **参加店舗** ダイエー港南台店(食品・日用品)・社会福祉法人ル・プリ SELP社(作業所・製パンなど)
- **商品の種類や値段**　値段はダイエー港南台店と同一価格。手数料は1点につき11円で、5点以上は一律55円。肉魚、野菜、日用品など多品目を扱う。リクエストにも応じて、次週に渡している。

## アセットのつながり

**⑴ダイエーの移動販売モデルの提案を、支えあい活動の仕組みに**

栄区の移動販売の事業は、区の生活支援体制整備事業に位置付いています。株式会社ダイエーからの打診から始まり、区、社協、地域ケアプラザで検討を重ねて2019年に仕組みができました。

移動販売の趣旨は①見守り②コミュニティの創出③買い物支援④健康支援の4つ。単なる移動販売ではなく、住民の交流が減少している地域で住民と企業が協働し、買い物を通した生活の充実と新たなコミュニティを創出することが目的です。

栄区社協が窓口となり、買い物不便な地域を重点地域として連合自治会単位で住民に打診し、意欲のある地域から開催日や場所の調整を行いました。ダイエー一社だけでなく、ローソンや地域の福祉作業所も加わり、2022年には栄区全7地区19会場で取り組まれています。社協は、公園に移動販売車を乗り入れるための折衝やチラシのポスティング、回覧板での広報等の役割も担っています。

**⑵庄戸第三北公園**

栄区の土木事務所が管理する住宅地の中の街区公園です。鉄棒などの遊具もありますが、敷地のほとんどが広場になっています。

コミュニティ創出の機会とするために、社協は移動販売の場所を道路ではなく人が集える公園にしています。販売車が公園内に入れるように社協から区の土木事務所への許可申請を出しています。

車止めの鍵は自治会が管理していて、移動販売の日に役員が開けています。公園内の自治会防災倉庫にある長机は商品を並べる台として使っています。

**⑶地域の支えあいネットワーク-庄戸の元気づくり**

移動販売の活動を支えている人的基盤のひとつが庄戸地区の人々が立ち上げたボランティアグループ「庄戸の元気づくり」です。街開きと同時期に転入してきた住民は、まちづくりや支えあいの意識が高く、空き家を利用したサロンで子育て支援や多世代交流、「くらしの応援隊」としての助けあい活動等を行ってきました。

地域ネットワークがある「庄戸の元気づくり」メンバーには自治会役員や民生委員もいて、この人たちが移動販売の支え手になり、集まった人への声がけや、助けがいる人への手助けを行っています。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • 上郷東連合町会、庄戸地区の町会メンバー　• 民生・児童委員<br>• ボランティアグループ「庄戸の元気づくり」 |
| 場 | • 庄戸第三北公園 |
| モノ・資金 | • 軽自動車の移動販売車（ダイエー港南台店）　• 日よけテント（SELP社）<br>• 折りたたみ長机（町会の防災物品） |
| 情報・ネットワーク | • 第1層SC若尾さん（栄区社会福祉協議会に所属。移動販売の事業を統括し、連合自治会や協力企業との調整などを担当している）<br>• 第2層SC（野七里地域ケアプラザ所属。移動販売には毎回参加し、地域理解やアウトリーチの機会になっている）<br>• 株式会社ダイエー エリア推進部　• ダイエー港南台店<br>• 社会福祉法人ル・プリ SELP社（就労継続支援B型事業） |

栄区社協が主体となり、生活支援体制整備事業における「見まもり体制の構築」「多様な主体とのネットワーク構築」の一環として移動販売の取組みを実施している。
第1層SC…連合自治会への協力要請・関係者間の調整・住民への広報
第2層SC…活動日当日の参加と買い物に訪れた住民への声掛け等

## 活動の背景

上郷東地区庄戸は栄区の東端の丘陵地にあり、1970年代に開発されました。緑地保全地域に囲まれた自然豊かな住宅地で、区画は整然と整備され、一戸あたりの敷地面積も広いです。

一方、交通の便がよくないこともあり、第二世代の市街地転居も増え、今では栄区内で高齢化率が一番高い地域（75歳以上が7割を超す）となりました。高齢者のみの世帯または独居が多く、車を運転しない高齢者には買い物等の生活の不便が課題となっていました。

## この事例から学ぶポイント

産業能率大学経営学部　中島智人

地域の人口減少や少子高齢化の進展、それに伴うスーパーなど小売店の縮小・撤退、また、公共交通機関の減便・廃止や運転免許証の返納による交通手段の確保の難しさ、などにより、日々の生活に必要な食料品や日用品の確保が難しくなっている「買い物困難」の状況は、中山間地だけではなく都市部においても年々深刻化してきています。この「買い物困難」の課題に対して全国各地でさまざまな取り組みがなされている中、横浜市栄区の事例は、行政・社会福祉協議会、地域住民、企業が、それぞれの得意を生かしながら協働することで実現した移動販売の取り組みと考えることができます。ここでは、買い物困難という地域の課題を解決するために、多様な利害関係者がそれぞれの立場(「セクター」という言い方もできます)の枠を超えて協働するために必要なこと、という観点からこの事例を考えていきたいと思います。

この買い物困難地域を支える活動は、横浜市栄区にある庄戸第三北公園で、ダイエー港南台店の移動販売車が、週1回移動販売を行うものです。販売時には、住民ボランティアの方々が、品出しの準備や片付け、必要に応じて自宅までの荷物運びなどを手伝っています。この公園は、横浜市栄区が管理する市立公園で、移動販売車というクルマの乗り入れができるものではありません。ましてや、民間事業者であるダイエー港南台店が、そこで店舗を開くことは想定されていません。「住宅街にある公園で移動販売を行う」と、ひとことで言い表せてしまうようなこの取り組みも、実現のために克服しなければならない課題があるのです。

この課題を克服し、市立公園という公共の場所で、民間事業者による、本来想定されていなかった取り組みを実現するための工夫としてあげられるのが、移動販売の目的の再定義です。横浜市栄区の事例では、社会福祉協議会と事業者であるダイエー港南台店とが①見守り②コミュニティの創出③買い物支援④健康支援の4つを移動販売の趣旨と定めています。買い物困難者に対する買い物支援だけではなく、福祉的・公益的な意味を明確にすることにより、市立公園で移動販売の実施が可能になっています。現在、移動販売の取り組みはダイエーだけではなく、ローソンやセブンイレブンによって、市営住宅やUR都市機構の住宅でも実施されています。

この事例では、移動販売にかかわる多様な利害関係者が、それぞれの立場で事業の継続に貢献しています。活動の意味の明確化とともに、参加者それぞれの利害を尊重しバランスを取るような意識があるように思います。例えば、いくら福祉的・公共的目的が明確化されたとはいえ、民間事業者による移動販売が継続して行われるためには、純粋な慈善事業ではない限り「採算」を意識せざるを得ません。この取り組みでは、地域住民の参加により、販売にかかわるコストが低減されています。また、ボランティアはそのまま移動販売の顧客でもあることから、売り上げへの貢献も期待できます。地域住民にとっては、買い物困難を解消する手段を自分たちの手で確保していることにもなり、この事業の共有された目的でもある見守り、コミュニティの創出、健康支援にもつながります。その住民にとっての「利益」は、そのまま社会福協議会や生活支援コーディネーターの目標達成にもつながるのです。

この事例は、「買い物困難」という課題に対して、その解消に役立つアセットをもつ多様な利害関係者に対して、それぞれが活動しやすい環境を整えることにより、アセットが課題解決のための移動販売の継続的な実施に結びつけられたもの、として位置づけられるのではないでしょうか。

## 8 上郷東連合町会 移動販売車［神奈川県横浜市栄区庄戸］

### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

庄戸地域は横浜市栄区東部に位置する丘の上に1980年代に開発された閑静な住宅街。1戸当たりの区画面積も広い。近隣に商業施設はなく、最寄り駅までバスで15分。

**◎人口データ［庄戸1～5丁目］**

面　積:0.752㎢
世帯数:1,468世帯
総人口:3,081人
高齢者人口(65歳以上):1,581人
高齢化率:51.2%(令和3年)

## 発想を広げる アセット活用アイデア 6 企業と連携するときの工夫は?

横浜市栄区の移動販売車の取り組みは、株式会社ダイエーからの打診がきっかけです。窓口となった社協の担当者は、当初、企業との連携は難しいのではと思っていたそうです。しかし、とにかく会って企業担当者の考えを聞くうちに、地域課題となっている「買い物難民」の状況を解決できるのではないかと考え、関係者と協議を重ねて実現に漕ぎ着けました。

この事例では、「地域の受け入れ役」を決めてコミュニティを創出する居場所として展開することで、「みんながよく知っている集まりやすい場所=公の場所」で実施することができました。

このように企業の力を地域に活かすにはどんな工夫が必要でしょうか。

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**



大学研究者

別セクターの人と関わるということは「違う価値観を理解する」ことです。最初は話がかみあわないと思うことがあっても、理解しあう気持ちで望むことが大切です。

そうですね。企業が、どんな分野で社会貢献をしようとしているのか、ホームページでCSR活動やSDGsへの取り組み等、事前に調べておくとよいと思います。



第1層SC



元行政職員

「地域で活動している団体」と言っても、すぐには企業に信頼してもらえないこともあります。企業側の人を知っている人はいないか、その人を通して担当者を紹介してもらえないかをさぐることも考えてみましょう。つなげてくれた人も、応援者の一員となってくれると思います。

地域住民の中には、地域企業とのつながりを持っている人も多いです。地域住民側から働きかけて頂き、SCにつないでいただく事も大切ですね。まずは一社からつながるきっかけを探って行きましょう。



第1層SC



大学研究者

企業との連携といっても、結局は「担当している個人との関係づくり」になります。そう考えると、進め方もわかりやすいのではないでしょうか。

課題解決に向け、企業のメリットも考えながら「WIN-WINの関係づくり」を働きかけるようにしましょう。



第1層SC



子ども食堂主催者

SCと地域住民とが一緒に話す時間をつくることが大切だと思います。「来てくれたら助かるよね」「来てもらうにはどうしたらいい?」といった投げかけから始めてはいかがでしょうか。

事例紹介⑨ 食 × 交流・つながり

# コロナがきっかけで生まれた「動く会食会・青空カフェ」

## キッチンカーdeあおぞらカフェ［千葉県柏市］

**こんな活動**

活動が自粛されるコロナ禍、“キッチンカーでGO!”をキャッチフレーズにお弁当配布を通して、地域のお困りごとを聞き出しサポートすることで、地域のつながりを継続しています。

**運営の様子や特徴**

半円形の黄色い屋根がついたキッチンカーがまちにやって来ただけでも、楽しい雰囲気が広がります。このキッチンカーは、「うぃず」が運営する2つの居場所の駐車場や空きスペースにやってきて、お弁当を販売します。キッチンカー内での調理は、衛生管理のための設備投資が間に合わず、キッチンで調理したお弁当を積んでいます。

お弁当を販売するだけでなく、そこで聞いた困りごと等の声を拾い上げ、地域包括支援センターやケア事業所と連携しながらサポートをしています。子どもたちの声を反映させて、鯉のぼりの工作やダンスイベントなども開催してきました。

新たに学童へのお弁当提供を始めたことで、子育て中の若い保護者とのつながりも増え、facebookやLine、QRコード等のIT活用も進めています。また単身高齢者や生活困窮者を対象としたお弁当の配達をおこなっており、こちらでは24時間テレビ助成で購入した車両を使用。提供対象者の情報は地域包括支援センターと共有している。







**基本情報**

［名　　称］キッチンカーdeあおぞらカフェ
［住　　所］千葉県柏市松葉町2-12-3
［開催場所］民家ギャラリー結
［運営団体］NPO法人 ワーカーズコレクティブうぃず
［代　　表］北田恵子
［開設・営業開始］2020年10月

［活動概要］

- キッチンカーdeあおぞらカフェ。
  移動式居場所づくり。停車時間は1時間程度、1回50食を低額(400円程度)で提供。民家ギャラリー結で飲食しながら、暮らしの相談等。

## アセットのつながり

**⑴休眠預金活用事業助成金でキッチンカーを購入、活用の具現化**

休眠預金のコロナ対策助成金で、中古のキッチンカーを購入しリフォームしました。資金分配団体の「公益財団法人ちばのWA地域づくり基金」は千葉県内の活動を資金面で応援する中間支援団体ですが、これまで一緒に活動をしてきたことはありませんでした。

月1回zoomで打ち合わせを行い、「ちばのWA」の伴走支援を受けながら活用計画を具体化していきました。「食事提供」はあくまできっかけで、「会話をかわす」「一緒に楽しむ」といったことが積み重なって、「安心感につながっていく」という活動コンセプトが明確になりました。

**⑵生協との連携で調理拠点を確保**

お弁当づくりの調理施設には、生活クラブ生協、生協施設内のキッチンと備品を借りています。ワーカーズコレクティブとして生協との連携体制ができています。

**⑶キッチンカーの非日常性、特別感による訴求力**

コロナ禍で社会が内向きになっていく中、キッチンカーで街へ出て行くことをしています。黄色いキッチンカーが訪れると、人々が集まります。特に子どもたちに大人気になる「モノ」としての力があり、新しい親子との出会いをつくっています。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • PTA や生協のつながりの仲間<br>• 作業療法士(居場所参加者から膝の痛みといった日々の健康相談を受けている)<br>• 民生児童委員、SSW(うぃずのメンバー) |
| 場 | • 空き家を活用した居場所「民家ギャラリー結」<br>• 住民主体の常設型通いの場 ふれあいカフェ クルトコ(大津ヶ丘)<br>• キッチン(生協施設) |
| モノ・資金 | • 休眠預金等活用事業(キッチンカーの購入)<br>• 24時間テレビの助成(弁当の宅配に使っている車両の購入)<br>• 柏市たすけあいサービス事業費補助金／通いの場事業費補助金 |
| 情報・ネットワーク | • 柏市地域包括支援センター<br>• 柏市こども食堂連絡会<br>• 公益財団法人ちばのWA地域づくり基金<br>• 生協<br>• 市民ネットワーク・かしわ<br>• 柏市こども福祉課(LINEを使用したキッチンカーの周知協力) |

## 活動の背景

「うぃず」は、2004 年に協同組合形式で女性6 人で立ち上げたNPO 法人です。子育て支援や居場所づくりなど、地域のニーズにあわせて様々な事業を展開してきました。

コロナ禍で活動が自粛される中、うつや筋力低下、子どもへのネグレクト等の課題が聞かれるようになりました。「何かできないか」と考えた結果、キッチンカーで屋外に繰り出すアイデアが出ました。

## この事例から学ぶポイント

千葉大学大学院人文科学研究院　清水洋行

最初に、NPO法人ワーカーズコレクティブうぃずという名称にある「ワーカーズコレクティブ」について簡単に触れておきたいと思います。ワーカーズコレクティブは、消費生活協同組合（生協）や労働者協同組合などと同じく、理念に賛同した人々の出資により設立されますが、他方でそれらと異なり、出資した人が同時に経営に責任を持つとともにそこで働きます。簡単にいうと、一人が出資者・経営者・労働者のすべてを担う組織形態です。これまでワーカーズコレクティブは、労働者協同組合と同様に、組織の実態に合致する法人格がなかったためNPO法人や企業組合等として活動してきましたが、2022年10月から労働者協同組合法が施行されたことにより、この法律にもとづく労働者協同組合に移行できるようになりました。

ところで、当団体は2020年10月よりキッチンカーでの活動が始まります。この取り組みの背景には、新型コロナウイルス感染症の拡大により、市内の2つの拠点で実施していた高齢者の居場所や子ども食堂、生活支援等の活動が自粛を迫られるとともに、長引くコロナ禍で高齢者の鬱や筋力の低下、子どもたちのネグレクト、困窮者の増加といった新しい課題も見えてきたことがあります。このような中で、人が拠点に来られない状況だからこそ団体の方から出向いてく、そして集まれない状況であるからこそ密を作らないためのツールとしてキッチンカーの導入が発案されました。

キッチンカーの強みは、屋外での活動を可能とするだけでなく、場の雰囲気を変える力にあるといえるでしょう。当団体では、いずれも拠点の近くである住宅街の公園や団地商店街の一角のほか、他団体の店舗や葬儀場の駐車場ほかにキッチンカーを登場させ、それらの空間を一時的に居場所へと変えてきました。そこでの主な効果について2つあげたいと思います。1つは、楽しい雰囲気を醸し出すデザイン性をもつキッチンカーが、人の集まりを促し、つながりをつくり、困りごとを拾うという新しいプロセスを生み出したことです。もう1つは、拠点の外で取り組むことにより、当団体の活動が外部の人や団体・企業等に見えるようになり、ボランティアや寄付の増加につながったことです。キッチンカーはコロナ禍での必要性から導入されたツールですが、屋内での活動が可能となった後も引き続き活用できるといえるでしょう。また、このようなデザイン性をもつツールは、必ずしもキッチンカーのような大掛かりなものとは限らないように思われます。

キッチンカーの購入資金は休眠預金活用事業による助成金です。当団体が応募した事業の助成額は一件あたり上限1,000万円（12か月間）と比較的大きな金額で、立ち上げ期の団体向けというよりも、一定の活動実績のある団体が活動の幅を広げるために適していたものといえるでしょう。また、この休眠預金活用事業の募集を行った団体は公益財団法人ちばのWA地域づくり基金という団体です。財団には自治体や企業の主導によって創設されたものが少なくありませんが、当団体は「市民立」の財団で「コミュニティ財団」というタイプです。個人や団体、事業者などから受け入れた寄付金を千葉県内の活動の支援を目的とする大小さまざまな助成事業を実施しています。また、2022年12月には、当団体の事業を含む13事業の成果報告会が公開で開催されました。このような公開でのイベントはさまざまな助成団体で実施されており、そこに参加することは、助成団体とのつながりを作るだけでなく、そこで報告するさまざまな団体や、関心をもって参加する市民・行政等とつながるきっかけともなります。

### 9 キッチンカーdeあおぞらカフェ［千葉県柏市］

**周辺地区の概要**

**◎地域概要**

柏市は千葉県の北西部に位置する。1960年代から東京のベッドタウンとして開発が進み多くの農地が宅地となり人口が急激に増加した。

**◎人口データ［柏市松葉町1～7丁目］**

面　積:114.74㎢
世帯数:5,086世帯
総人口:11,183人
高齢者人口(65歳以上):4,476人
高齢化率:40.0%(令和4年)

**◎人口データ［柏市大津が丘1～4丁目］**

面　積:41.99㎢
世帯数:3,874世帯
総人口:8,710人
高齢者人口(65歳以上):3,301人
高齢化率:37.9%(令和4年)

発想を広げる
アセット活用
アイデア

# 7 コロナ禍をきっかけにした、新しいチャレンジは?

「うぃず」では、コロナ禍で屋内での会食が中止になる中、どうにかして地域とつながり続ける方法はないかと考え、キッチンカーを活用することにしました。実際に取り組んでいくと、キッチンカーの中で調理をするには予想以上に資金がかかることがわかり、弁当配布になりましたが、見た目がとても可愛いキッチンカーがまちにやってくることで、地域の人とのつながりが継続されたり、新しいつながりが生まれたりしています。

コロナ禍の影響で屋内での会食等、多くの地域活動が中止や縮小を余儀なくされるなか、どんな状況であっても人と人との交流への欲求は強いことが再認識されました。

コロナをきっかけとしたチャレンジも各地で始まりました。これまでとは形を変えた、新しい取組みはどんなものがあるでしょう。

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**



元行政職員

散歩を中心とした活動に切り替えるのはいかがでしょうか。花や大木がある公園や通り、魅力あるお店をめぐる散歩コースを、距離は長短つくります。日時を決めて一緒に歩くのも、各自が好きな時に歩くのもOK。定期的に集まり、散歩コースで見たものを話したり、スマホで撮影した写真を見せあったり、時には屋外で会食もできるといいですね。

私もそう思います。膝への負荷が軽くなるポールを使った「ノルディックウォーキング」もオススメです。ウォーキングの後は、お茶を飲みながらおしゃべりもしたいですね。



子ども食堂主催者



第1層SC

確かに、屋外の活動は増えていますね。特に、地域の遊休農地や、畑までいかなくてもちょっとしたスペースを活用して「花畑や野菜づくり」をしている団体が増えていると思います。そこで採れた野菜で屋外会食会ができたらいいですね。
また、発想の転換で、ガレージを居場所にした事例もあります。ガレージの中に本を置き、誰もがふらっと寄れるようになっており、時には、お茶やお弁当を一緒に食べたりしています。

一緒に食べることは人と人をつなぐ本当に大切な活動ですが、食べることから切り替えて、コロナ禍の暮らし方、口腔ケア体操、脳トレ等、健康づくりを中心にみんなで一緒にできることはたくさんあります。



NPO代表者



第1層SC

コロナ禍での食活動は難しいと思いますが、全くないわけではありません。感染対策が万全にされている企業の食堂をお借りして、食のある居場所づくりをしている活動もあります。考え方を柔軟に、地域のいろいろな食の活動にアンテナを張っておくと、情報をキャッチできるかも知れませんね。

事例紹介⑩ 食 × 地域活性・まちづくり

# 「農家の女性たちがつくるふるさとの料理」で地域活性

## 十和おかみさん市［高知県四万十町十和地区］

**こんな活動**

山あいの集落で農作物の生産、加工、販売を一緒に行ってきた女性グループが、郷土料理をつくり販売することで、地域の食をまかない、にぎわいをつくりだしています。

**運営の様子や特徴**

美味しそうなお惣菜がパックに詰められテーブルに並ぶお昼どき、十和おかみさん市直販所には次々と高齢者がシニアカーや軽トラックで買い物にやってきます。並んでいるのはお惣菜、お弁当のほか、自家製の野菜や米、梅干し・味噌などの加工品、花や野菜の苗もあります。1日でお弁当200食以上約10万円を売り上げる、地域の食を支える台所になっています。

直販所の隣にあるキッチンでお惣菜づくりをしているのは、おかみさん市のメンバー。集落単位でグループを組み、現在6グループで担当しています。運営母体に売り上げの20%を入れる独立採算性で、決まりごとはほとんどないそうです。四万十川の鮎、郷土野菜のりゅうきゅう・山菜のいたどり等が入った野菜たっぷりのお弁当や、栗おこわ、竹の子寿司は人気があり、お惣菜を目当てに遠くから買いに来る人もいます。

もう一つの拠点、道の駅「四万十とおわ」では週1回「おかみさん市バイキング」が人気です。こちらはおかみさん市メンバーと、道の駅で働く若い従業員が一緒に調理を行っており、郷土料理の伝承の場にもなっています。自分で育てた野菜や手作りの加工品を20%の手数料で販売できるのもやりがいになっています。









**基本情報**

［名　　称］十和おかみさん市
［住　　所］高知県高岡郡四万十町十川203
［開催場所］十和おかみさん市直売所
［運営団体］株式会社十和おかみさん市
［代　　表］居長原 信子
［開設・営業開始］1999年

［活動概要］
- おかみさん市直販所 月～土曜 8:00-16:00
- 販売商品:産直・手作り産品
  弁当、惣菜、野菜、花苗、野菜苗、米、茶、梅干し、味噌、手作り雑貨、旅行者向け土産品など

［株式会社おかみさん市の事業］
野菜の直販・イベント販売／おもてなしツアー／おもてなしバイキング／加工品の開発・販売／学校と連携した伝承野菜の取り組み／直販所における地域や生産者達とのつながり

## アセットのつながり

**⑴四万十流域の食文化と、農家女性の生産・加工の技術**

自家野菜を使ったふるさとの料理は、地域の人だけでなく観光客にも人気があります。家庭や地域で受け継がれてきた料理や技術は、地理的条件が厳しい地域にとって大きな価値があります。

人気のメニューの1つは「しいたけのタタキ(しいたけを揚げて、甘さのあるポン酢につけたもの)」。時々帰郷する若い人にも人気で、味付けを聞かれることも多く、しいたけのタタキ用の醤油を商品化したりもしています。

**⑵地元産品の開発販売の企業・「いなか」で働く人のための社団法人との連携と後方支援**

十和地域には、おかみさん市の料理や技術をビジネスにつなげたり、人材不足を補う等の人的支援をする人や組織があります。

株式会社四万十ドラマは、四万十川流域の特産品を加工販売し、日本全国に販路を拡大している地域企業です。十和のおかみさんたちが野菜をスーパーで販売するための仕組みや道の駅でバイキングを提供する基盤をつくり、ビジネスにつなげました。

一般社団法人いなかパイプは、「田舎と都会」を人材でつなぐ事業を行う団体です。おかみさん市の経理事務、情報発信等のお手伝いや、手が足りない時のパート派遣、おかみさん市バイキングの調理を若い人に伝承する等のつなぎ役を行っています。

十和地域の風土文化や郷土料理の価値を評価し、足りなくなった力を補うこうした動きが、おかみさん市の活動を支えています。

**⑶株式会社として運営する意気込み**

十和おかみさん市の活動は元々集落改善運動として始まりました。ベースには農村女性の自立の意識があります。

自家野菜の余剰分や、味噌、漬物などの自家産の農作物を使った加工品も、おかみさん市に出荷することで収入になります。野菜でも売り方で売れ行きが変わるので喜ばれるものをどう売るか工夫しています。

あくまで稼げる仕事として取り組むことで生きがいへとつながり、それが文化継承へのモチベーションにもつながっています。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • コアメンバーは25名 |
| 場 | • おかみさん市直販所　• 道の駅四万十とおわ<br>• 集落の加工所 |
| モノ・資金 | • 地域の豊かな農産品、四万十川 |
| 情報・ネットワーク | • **十和地域振興局**(地域づくり支援事業ほか)<br>• **株式会社四万十ドラマ**(販路拡大、商品開発)<br>• **一般社団法人いなかパイプ**(経理事務や情報発信の手伝い、手が足りない時の人材派遣) |

## 活動の背景

おかみさん市の組織の成り立ちは、1960年代に集落単位で組織化された女性の生活改善グループと生産加工グループが背景にあります。時代の変遷とともに、産直品の販売や特産品の開発が盛んになり、2001年に当時の十和村に「十和地産地消運営協議会」が立ち上がりました。これが「おかみさん市」の前身です。

地域の産業づくりを先導していた株式会社四万十ドラマの支援もあり、おかみさん市メンバーや旧村の関係者約200人から出資を募り株式会社を設立させました。株式会社の形態ではありますが、地域ぐるみの住民設立の性格が強い組織形態です。

## この事例から学ぶポイント

立教大学コミュニティ福祉学部　原田晃樹

（経緯）

おかみさん市は、旧十和村（現四万十町十和地区）の農家女性が中心になって立ち上げた産直店です。主に集落単位で活動していた農家女性の加工グループにルーツを持ちます。元々集落改善運動として、厳しい環境に置かれてきた農家女性の居場所としての機能を持っていました。時代の経過とともに過疎化が進み、地域の疲弊が深刻化するようになると、彼女たちは地域のアイデンティティを次世代に残したいと考えるようになります。そのためには自分たちが経済的に自立できるようなることが必要だという思いから、個々のグループが集まり1997年に「十和ふるさと産品協議会」を立ち上げます。ここで十和産品を詰め合わせ、全国に発送する活動を行うのですが、さらに彼女たちはこの経験を踏まえ、地域の有志を募り、2001年にオール十和の「十和地産地消運営協議会」を発足させます。これが現在のおかみさん市の原形です。2011年に地域住民から幅広く出資を募り、株式会社化して現在に至ります。

（運営の特徴）

おかみさん市には、メンバーの農家から直接納品された農産品はもちろん、毎日弁当、惣菜、菓子などの色とりどりの食材が所狭しと並びます。これらの内容は毎日変わります。というのは、グループによる日替わりの運営だからです。おかみさん市はひとつの会社組織であるのと同時に、個々のグループの連合組織でもあるのです。集落を単位とした加工グループは全国にありますが、どこも高齢化が進み、活動を閉じるところも増えています。こうした中、おかみさん市の運営に結集することで、グループ同士がおかみさん市の運営を通じて支え合う関係が生まれています。こうした関係は、おかみさん市を取りまく生産者や販売者との関係にも広がっています。おかみさん市の売上げが増えることは農産物を納入する農家の収入増につながり、ドレッシングなどの商品開発に地元の製造・販売業者が支援することで、関係する事業者の売上増につながっているのです。

さらに、おかみさん市は遊休農地を借り上げて茶や栗などの加工品の原料を栽培するのと同時に景観保全にもつなげ、それが新たな商品化にもつながっています。互いの取引関係が互いの活動を支えるという循環が生まれているのです。そして、おかみさん市という場を通じて、「食」を通じた地域の関係が可視化されています。このことが、地域の魅力として域外からの若者の関わりを促す効果にもつながっています。

（居場所の重要性）

おかみさん市は、活動当初から域外との取引関係を重視していました。例えば、高知市内スーパーでの餅つきや郷土料理の実演販売といった「おでかけ台所」、郷土料理の「おもてなしツアー」、道の駅でのバイキングなどです。これは、地域のアイデンティティを次世代につなぐには、地域の良さを域外の人たちに理解してもらう必要があると考えたからですが、同時に、人口が少なく年金生活者が多い地域では、消費も担い手も限界があるという現実的な考えも持っていました。地域づくりに必要な資源を域外から調達し、それを域内の取引関係を通じて稼いだお金を地域内で循環させているのです。また、地域に密着した活動をしながらもこのような広い視野を持っていることが、地域の住民にとって居心地のよい空間になっているだけでなく、「よそ者」を柔軟に受け入れる寛容性の高さにもつながっているといえるでしょう。

こうしたおかみさん市の懐の深さは、おかみさん市が個々の加工グループの集合体であることと無関係ではありません。一般に、集落基盤の加工グループは、昔からの住民による閉じた空間になりがちですが、こうした空間があるからこそ、強い結束力を生み出します。おかみさん市は、こうした当事者の居場所としての機能をベースにしながら、開かれた運営になっていることで「みんなの居場所」にもなっているのです。このような二重の意味での居場所は、弱体化が避けられない地縁コミュニティの代替機能を果たしながら、「開かれたコモンズ」としての機能も果たしていると考えられます。

食を通じた多世代の居場所づくりがどのように持続可能な形で成り立つかを考えるとき、おかみさん市は多くのヒントを与えてくれるように思います。

### 1 株式会社おかみさん市［高知県四万十町十和地区］

**周辺地区の概要**

**◎地域概要**

十和地区は四万十町の西部に位置し、地区の中心部を流れる四万十川とその支流及び国道沿いの平地に住宅地や農地が立地する。地域面積のほとんどが森林で占められている。

**◎人口データ［四万十町十和地区］**

面　積:164.71㎢
世帯数:1,193世帯
総人口:2,367人
高齢者人口(65歳以上):1,242人
高齢化率:52.47%(令和5年1月)

## 発想を広げる アセット活用アイデア 8 福祉関連に見えないアセットを、どう発見・活用する?

おかみさん市は株式会社として事業を行っていますが、元々農家の女性たちの居場所としての成り立ちがあり、自分たちが栽培した農産物や手作りの加工品で、過疎化の地域を盛り立てるまちづくりの組織でもあります。また、高齢化するメンバーの社会参加の場、高齢者世帯の食を支える地域の台所としての機能も見落とせません。

地域のアセットを考える際、特に人口減少の地域では、福祉事業だけに目を向けるのではなく使えそうな資源をひろくみていく視点も大切です。

一見福祉には縁がないように見えるアセットをどう発見・活用すればいいでしょうか。

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**



第1層SC

理美容院やコンビニ・スーパーを始めとした店主さんたち、まちゆく人をよく見ている交通指導員さん、玄関のドアを開けるお仕事には宅配便の配達や乳酸菌飲料等を訪問販売している方もいます。これらの人々は、地域の人をよく知っています。なにか変化に気づいたとき、包括支援センターや社協に連絡をしてもらう関係をつくることは大切です。企業と市町村とが包括連携協定を結ぶ例もあります。

医師会や歯科医師会等の医療関係者は大切なアセットです。私が行政職員の時に活動発表等を行う際は、必ず声をかけて情報交換を行っていました。



元行政職員



大学研究者

アクティブシニアが日常的にアクセスしているものに着目してみるのはいかがでしょうか。支援を必要とする在宅高齢者の生活課題が表れやすい場面において、アクティブシニアはどのようなものにアクセスして活用しているのかをヒントに、地域のアセットの可能性を探ると、思わぬアセットが発見できるかも知れません。

会場を貸してくれそうな先を探すことから考えてみます。例えばスペースがありそうな先として、自動車販売会社、ゴルフ練習場、神社・仏閣等があります。「福祉にご協力を」ではなく、「会場として少しの時間だけ貸してください」とお願いしてみるのはいかがでしょうか。最近は大手企業が地域貢献活動に取り組んでいるので、そういった先にもトライしてみるのも良いと思います。



元行政職員



NPO事務局長

別の視点からとらえなおすことも大切です。
「閉じこもりがちな退職後の男性シニアが数多くいる」という状態を、支援が必要な人や予備軍が数多くいると受け止めるだけでなく、活動の担い手の予備軍がいる、多くの知識や経験が眠っているととらえるのでは、関わり方が異なってくると思います。

事例紹介⑪ 食 × 地域活性・まちづくり

# 「日替わりカフェオーナー」の仕組みがつくる新たな地域のつながり

## わっくCafé［大阪府富田林市金剛地区］

### こんな活動

誰でもウエルカムの常設拠点を日替わりカフェオーナーで運営しながら、多世代の人が得意を活かせる新たな地域のつながりづくりに挑戦しています。

### 運営の様子や特徴

店舗名には、「つながる気持ちが《湧く》」「みんなの思いが《沸く》」「《わくわく》する気持ち」が込められています。

商店街の中心にあり、前面ガラス張りで明るく人を呼ぶ雰囲気があるこの常設拠点を、日替わりカフェオーナーで運営しています。オーナーは「主役になって特技を活かす」「誰が来ても受け入れる（仲間内の活動にしない）」等の考えに共感した人たちです。店主になる日はネットから予約し半日1枠を3000円で利用できます。パン屋さん・スリランカカレー・薬膳ランチ・沖縄そば等の様々な店が、日替わりで開かれています。定期的に出店する人、年に数回の人等、利用の仕方も様々です。

カフェのメニューは、定番の飲み物は法人が用意しますが、それ以上は各オーナーが自由に決めることができ、客層や売上高もオーナーによって違いがあります。

カフェの壁面はボックスショップ。自分のショップとしてハンドメイド作品などを展示・販売することができます。ボックススペースの利用料金は、月1000 円。売上金はオーナーの収入になります。

各オーナーが「自分のお店」の意識を持って自主的に関わることで、「いつも開いている居場所」の継続をめざしています。





### 基本情報

［名　　称］わっくCafé
［住　　所］大阪府富田林市寺池台1-9
［開催場所］金剛銀座商店街内「わっくCafé」
［運営団体］一般社団法人わっく金剛
［代　　表］中井二郎
［開設・営業開始］2021年

［活動概要］
・日替わりカフェオーナー、ボックスショップオーナーによるコミュニティカフェの運営
**営業日** 火～土 10:00-14:00 オーナー出店によりその他時間オープンもあり
**カフェオーナー・ボックスショップオーナー** 登録料3,000円、利用料一コマ(6H)3,000円
共通ドリンク300円の売り上げのうち50円を運営法人に支払う。

## アセットのつながり

**⑴日替わりカフェオーナーの仕組みで集まったメンバーたち**

いつでも誰でも気ままに立ち寄れる喫茶店のようなコミュニティカフェをめざしましたが、どうやって毎日長い時間オープンさせるのかが課題でした。そのためには新しい手法が必要だと考えた結果のアイデアが「日替わりカフェオーナー」の仕組みです。開業したい若者のトライアルや、退職後の地域デビュー等、これまでにない層が集まりました。

日替わりで店主が替わる店を運営するには、管理の手間を少なくすることも大切です。カフェ利用料の支払いやボックスショップの売上げはQRコード決済を使い現金を介さない工夫もしています。

**⑵通る人の目を引く店舗デザイン。工事もみんなで**

わっくCaféはニュータウンの中心部金剛銀座の一等地にあります。かつては多くの店舗が入り賑わった商店街も時代の変化とともに賑わいが薄れ、しばらく空き店舗となっていた物件です。改修費は市からの補助金を利用しました。コロナ関連の補助金も大きな助けになりました。

壁面一面のボックスショップ、通りから中の様子がわかるガラス張りの明るい店内、入り口に並ぶ地場野菜、サインのデザイン等には、理事の建築家が関わりました。工事もみんなで力をあわせて行い、より愛着のあるカフェができました。

**⑶コロナ関連の支援金**

わっくCafé立ち上げに向け有志メンバーが一般社団法人を設立したのは2020年2月。まさにコロナ禍真っ最中で、飲食関連のサービスは大きな変化を強いられた時期です。

感染への心配から人が集まる活動は一旦休止という雰囲気の中、「日替わりカフェオーナー」という目新しい仕組みは「何か楽しいことが始まりそう」なわくわく感を地域にもたらしました。

理事メンバーは立ち上げ資金に10万円ずつ出たコロナ給付金を充て、店舗の改修にはコロナ関連の創業支援金を活用するなど、コロナ禍真っ最中だからこそ使えた資源もありました。

## カギとなるアセット

| | |
|---|---|
| 人 | • 一般社団法人わっく金剛のメンバー<br>• 日替わりカフェオーナー（飲食店開業したい人のトライアルや、退職後の地域デビュー、絵画や手芸の教室、メイク体験などさまざまなテーマで参加している人たち）<br>• ボックスショップオーナー（手作り手芸品、アクセサリー、ポストカードなどを展示販売したい人たち） |
| 場 | • わっくCafé（金剛銀座商店街の元空き店舗） |
| モノ・資金 | • コロナ関連の支援金<br>• オーナー登録料収入、運営費収入<br>• UR都市機構による家賃補助（減額） |
| 情報・ネットワーク | • 富田林市金剛地区再生室（金剛地区まちづくり会議事務局）、金剛銀座商店街、UR都市機構<br>• 金剛にぎわい創出実行委員会、金剛マルシェ実行委員会 |

## 活動の背景

金剛ニュータウンは高度成長期に各地に開発された大規模ニュータウンのひとつで、丘陵地にURが5000戸の賃貸団地を含む住宅地を造成し、現在約1.5万人が暮らしています。まち開きから半世紀が経過し、人口減少や高齢化、施設の老朽化に伴い地域の賑わいが失われ、地域コミュニティも希薄になってきました。

富田林市は「金剛地区再生指針」の計画に基づき、今後のまちづくりを住民や関係者が話しあう「金剛地区まちづくり会議」を設置し、会議での議論を通じて常設の拠点づくりが決まりました。

拠点立ち上げに向けて有志のプロジェクトチームが組まれ、その主要メンバーがカフェ運営組織として一般社団法人を設立、わっくCaféがオープンしました。設立時はちょうどコロナ禍で、理事は支給されたコロナ給付金を出資金にあてました。

## この事例から学ぶポイント

NPO法人フェリスモンテ　隅田耕史

「この場所のおかげで、自分が役割を持って日々を過ごすことができている」と初老の”おじさん”から、実感のこもったお話しを聞かせてもらうことができました。

秋晴れの日、大阪・金剛のニュータウンで、たくさんの方たちとそのような”自分”の「わっくカフェ」のお話しができました。

「担い手がいない」という話をよく聞きます。ここには、その課題への一つの回答があるように思いました。

行政が呼びかけた「金剛地区まちづくり会議」が元となって、現在の活動につながっています。ポイントがいくつかあります。一つ目は、会議参加者を呼びかける時点から、いわゆる「あて職」ではなく、「関心のある方なら誰でも」と呼びかけた点。二つ目は、集まった会議参加者の中から関心のあるテーマごとのプロジェクトチームをつくり、「居場所づくりチーム」を立ち上げたこと。三つめは、プロジェクトメンバーで先行事例を見学に行ったこと。そのことによって、自分たちのしたいこと、できることを見極めていきました。それが現在の具体的な工夫のある運営方法の土台となっています。そして四つ目として、そのプロジェクトメンバーの有志で一般社団法人を立ち上げ、活動実施に取り組んだことです。

立ち上げまでの約3年間のこのプロセスは、他地域でも応用可能なノウハウであると考えられます。「何かを始めたい」住民が、実際に形にしていくプロセスとして有効です。また、行政と住民との関係性の発展のプロセスとして見ても理にかなっていると考えられます。行政が関わる大きなメリットは、一般市民に対しての信頼性です。一方で、何かを始める際には、行政的な手続きや発想が、足かせになってしまうこともあります。最初に人が集まる際は行政が前に出て、焦点が定まってくる段階に応じて、住民の主体性が前に出て、行政が後方支援へと移行していきました。活動拠点の整備に関してコロナ対策の助成事業を活用できるような仕組みをつくることや、活動の広報を担うといった支え方に変わっていったのです。活動者の段階に応じて、その支援者が関わり方を変化していくというプロセスは、生活支援コーディネーターとしての支援のあり方と共通しているといえます。

居場所を具体的に始めるにあたって、大切にしたキーワードをたくさん教えてもらいました。「おしゃれ」であること。外から「楽しそう」な様子が伝わること。したいことをなるべくできるように「細かなルールはつくらない」こと。

唯一のルールは、「いつでも、誰でも来ることができる」ことのようです。理念としてはよく見聞きしますが、それを具現化する方法も細やかです。仲間内の貸し切り利用はしない。共通メニューのドリンクは必ず提供できるようにする。日替わりオーナーが見つからない場合は、運営者の理事メンバーで曜日担当をする。

300円の共通メニューのドリンクの売上げの取り分を、当初は運営者と日替わりオーナーとで150円ずつの折半だったのが、50円を運営者に渡し、残りの250円を日替わりオーナーの取り分にする、というように活動を進めていく中で細かな修正を行っている点も見逃せないと感じました。運営者のキャッシュポイントはそこではないと判断し、日替わりオーナーが場を開くことへの動機づけをより強めたといえるでしょう。

そして、「運営者の負担を最小限にする」こと。居場所を継続できるための資金を、運営の中で捻出できる仕組みにすること。「日替わり“オーナー”」の言葉が表すように、運営者側の視点に立ってもらうように働きかけること。

いずれにしても、カフェに関わることで金銭的に大きな営利を得る人はいません。そういった観点とは別に、様々に「お金」を流通させることが、多様な人々の交流を呼びこんでいると感じました。また、「お金」を媒介させることが主体性や責任感にも関連しているように思います。非営利ならではの「お金」を媒介とした人のつながりづくりについて、私たちはもっとできることが数多くあるように思いました。

## 11 一般社団法人わっく金剛 わっくCafé［大阪府富田林市金剛地区］

### 周辺地区の概要

**◎地域概要**

金剛地区は1970年代に開発された大規模ニュータウン。大阪都心へのアクセスも良く高度成長期に大量の人口流入を受け入れた。近年は人口減少、少子・高齢化、施設の老朽化等オールドタウン化に伴う課題を抱える。

**◎人口データ［富田林市金剛地区］**（令和4年3月末）

面　積:2.16㎢
世帯数:8,371世帯
人　口:15,860人
高齢者人口(65歳以上):5,925人
高齢化率:37.4%(令和4年)

## 発想を広げるアセット活用アイデア 9 今までにない新しい層を巻き込むには?

わっくカフェは、日替わりオーナーの仕組みにより運営されている特徴があります。オーナー登録をする際には、一人ひとりに「鍵の開け閉めも行う、まさしくオーナーの自覚」を持ってもらいたいと伝えるそうです。ちょっと負担に感じる人もいるかも知れませんが、だからこそ開業したい若者や、退職後に地域デビューしたシニア等、これまでにない新しい層の人々が集まってきています。

地域活動や介護予防活動は、取り組む人の顔ぶれが決まった人になりがちです。この事例のように、今までにない新しい層を巻き込むには、新しい発想や視点が必要なときもあります。

こうした今までにない新しい層を巻き込む工夫には、どんなことがあるでしょうか?

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**



大学研究者

地域活動の成果発表会や、行政や民間の助成金を受給した団体の活動報告会等、様々な活動を知る機会があります。そういう場所にまずは気軽に参加してみるのもいいですよね。

子育て中のママパパと出会いたいときは、高齢者が竹馬等の昔遊びイベントを企画することをお勧めします。そうすると、ママやパパも子どもと一緒に参加されますので、新たな出会いになりますね。



第1層SC



元行政職員

大学や専門学校に通う学生たちと知りあいたいなら、学生たちが取り組んでいる活動を発表する場やボランティア見本市のようなものを開催してもいいかなと思います。発表数が少なければ、社協に登録している地域団体にも声をかけ賑やかにしてもいいです。発表内容をチラシにして地域に配布することで、広く啓発できます。

社会活動やセカンドキャリアに興味のある層と出会いたいときのアイデアがあるんです。まずは、その層をターゲットとしている行政等が開催する講座を把握します。そして、講座の一コマをSCや活動団体で担当させてもらえないかを相談してみます。社会課題を提示したり、日頃の活動の見学や実習先の仲介ができることを提案するのです。講座を担当できれば、そこに参加してきた人たちと出会えますし、実習先で活動を継続する人も出てくるかも知れません。



大学研究者



県社協職員

コロナ禍で対面での活動が難しい状況が続く中、一方ではフードパントリーやお弁当配付等の新しい活動も生まれています。そうした中、食料や品物を受け取っていた人たちに、配付側として関わってもらう等、役割が変化する可能性を感じています。息の長い活動をしていくためには、助けられたり、助けたりと双方向の関係性を作っていくことも大切です。

自治会活動でこれまで活躍してきた人を対象に、違うアセットを引き出すワークショップはできないでしょうか。例えば「得意なこと」「地域の中で少しお手伝いできそうなこと」等をテーマにするのも良いですね。時間・曜日・内容によっては今までと違う関わり方で、新たな人を巻き込めますね。



第1層SC

発想を広げる
アセット活用
アイデア

# 10 活動を立ち上げたいが「この地域にはアセットがない」と思ったとき、どうする?

「SCの研修や事例集で紹介される事例は、人や場所、資金等のアセットに恵まれていると感じる」「うちの地域には資源がなにもない」という声をよく聞きます。

自分の地域でも活動を立ち上げたいが、「活動をやってみたい人」も「みんなで集う場」もない、いったいどこから始めればいいかと悩んでいる人も多いと思います。

「この地域にはアセットがない」と悩んだ時、どこから取り組むとよいでしょうか?

**この課題解決のアイデアを話しあいました。**



行政職員

アセット発見は、一人で悩んでいてもなかなか難しいです。自分一人のつながりや情報には限界があるからです。活動を立ち上げる上で必要だと思うアセットを整理した上で、地域活動している人や住民、様々な人とディスカッションしてみることをオススメします。ディスカッションすることで考えが深まり、相手から使える情報を引き出せることがよくあります。

「ない」と思っていたのに、出会った経験があります。あまり否定的に考えず、関係者に聞いたり調べてみる等、動いてみることが大切です。



子ども食堂主催者



大学研究者

いつもと少し違う活動、例えば「市民活動」や「まちづくり活動」の人たちはどんなアセットを活用しているのか聞いてみるのもいいかなと思います。新しい発見がきっとあるでしょう。

いつもと少し違う活動という視点は大切ですよね。私も高齢者分野にないとき、「児童分野」や「障害分野」等で類似のアセットがないかを探すことがあります。見つけたアセットがあったら、試しにその資源を活用してみることが大切です。



県社協職員



第1層SC

いつもと少し違う視点と言えば、近隣の市町村のアセットを調べることも良いと思います。そして似たようなアセットが自分の地域にないかを調べてみましょう。少し視点を変えるだけでも、自分の地域に活かせるアセットが見つかるかもしれません。送迎なども、近隣の市町村の活動が利用できることもあります。

今ある活動に意味づけをすることも大切ですね。例えば、新幹線の高架下にあるちょっとしたスペースにふらっと仲間が集っていました。「ここもみんなの居場所ですよね」とSCが意味づけすることで、「これくらいなら自分たちでもできる」と市民の意識が変わったことがあります。



第1層SC



NPO事務局長

空き家・空き店舗・空き地が多い状態は、新たな活動拠点となる可能性が数多く存在しているともとらえられます。そして活動拠点を改装するにあたっても、自分たちだけで行うことは大変ですが、例えば建築関係の学生にとっては実習の場になったり、手づくりで改装するプロセス自体が人を結びつける機会にもなります。

［資料編］

# 事例から、わがまちの食支援活動を考えよう!

# 事例から、わがまちの食支援活動を考えよう!

ご紹介した11の事例はいかがでしたでしょうか。
「この活動いいな〜」「やってみたい!」と思ったものはありましたか?
ここでの事例を参考に、あなたのまちでもぜひ食に関連する活動の立ち上げや活性化に取り組んでいきましょう。
職場の仲間や住民の方々と一緒に楽しくおしゃべりをしながら、以下の項目を考えてみてください。

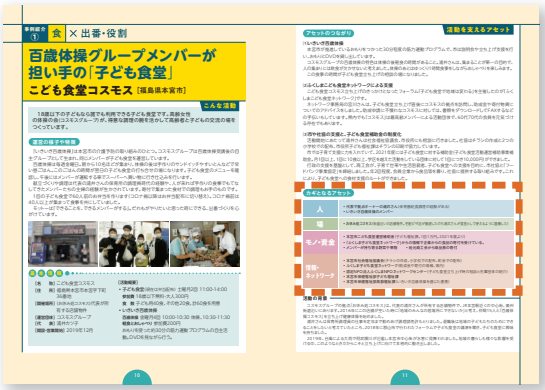
## ① このガイドブックの中で、気になる事例はありましたか?

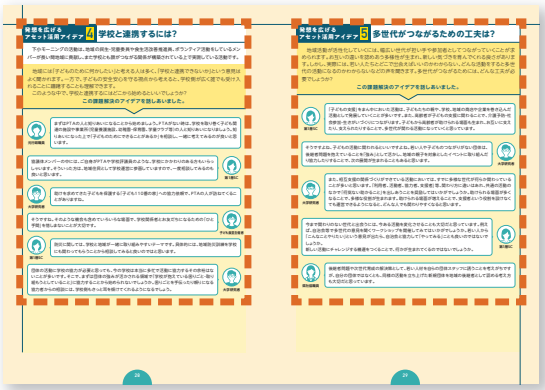
- ☐ 事例① 百歳体操グループメンバーが担い手の「子ども食堂」 **こども食堂コスモス**
- ☐ 事例② 江戸時代の登録文化財“足軽の家”で「シニア男性が運営する子ども食堂」 **足軽子ども食堂**
- ☐ 事例③ 「調理ボランティアの派遣」活動を創出して、地域サロン応援 **サロンで調理ボランティア**
- ☐ 事例④ 団地の空き店舗で「食品販売と日替わり定食提供」 **UR公田町団地「いこい」**
- ☐ 事例⑤ 食を介してゆるやかなつながりを築く場所 **ここめし／ここめし女子会**
- ☐ 事例⑥ 地域のシニアボランティアが「朝食サービス」で子どもの育ちを応援 **下小モーニング**
- ☐ 事例⑦ 赤ちゃんから高齢者まで、「世代間交流があるダイニングサロン」 **介護予防サロン福蝶とキッズカフェ**
- ☐ 事例⑧ 買い物困難地域の生活を支える「移動販売車」と地域交流 **上郷東連合町会 移動販売車**
- ☐ 事例⑨ コロナがきっかけで生まれた「動く会食会・青空カフェ」 **キッチンカーdeあおぞらカフェ**
- ☐ 事例⑩ 「農家の女性たちがつくるふるさとの料理」で地域活性 **十和おかみさん市**
- ☐ 事例⑪ 「日替わりカフェオーナー」の仕組みがつくる新たな地域のつながり **わっくCafé**

## ② 1で書いた事例は、どんなところが気になりましたか?

**3** 気になった事例のアセットを書き出してください。
（ガイドブックの「カギとなるアセット」参照）

**4** 3のアセットを、わがまちに当てはめるとしたらどんなものがあるでしょうか？
（ガイドブック「発想を広げるアセット活用アイデア」の関連ページも参照）


百歳体操グループメンバーが担い手の「子ども食堂」
こども食堂コスモス［福島県本宮市］


発想を広げるアセット活用アイデア4 学校と連携するには？
発想を広げるアセット活用アイデア5 多世代がつながるための工夫は？

| | |
|---|---|
| 人 | |
| 場 | |
| モノ・資金 | |
| 情報・ネットワーク | |

| | |
|---|---|
| 人 | |
| 場 | |
| モノ・資金 | |
| 情報・ネットワーク | |

**5** わがまちのアセットを活用して、どんな活動ができそうですか？
活動のキャッチコピーを考えてください。
（ガイドブックの「事例紹介のタイトル」参照）

**主体▶どんな人たちが**

**対象・目的▶だれのために、なんのために**

**内容▶どんなやり方で何をするのか**


百歳体操グループメンバーが担い手の「子ども食堂」
こども食堂コスモス［福島県本宮市］

# 生活支援コーディネーターによる
# 住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と
# 持続可能な事業実施・展開に関する調査研究事業

委員構成

## 研究委員会

委員長

内藤 佳津雄　日本大学文理学部 教授

委　員

秋山 由美子　特定非営利活動法人 日本地域福祉研究所 理事
荒井 崇宏　稲城市福祉部高齢福祉課高齢福祉係 係長
石田 惇子　一般社団法人 全国食支援活動協力会 代表理事
石橋 智昭　公益財団法人 ダイヤ高齢社会研究財団 主席研究員
日下 直和　社会福祉法人 香川県社会福祉協議会 事務局長
近藤 博子　一般社団法人 ともしびatだんだん 代表理事
清水 洋行　千葉大学大学院人文科学研究院 教授
隅田 耕史　特定非営利活動法人 フェリスモンテ 事務局長
高橋 良太　社会福祉法人 全国社会福祉協議会地域福祉部 部長
田中 将太　琉球大学人文社会学部 専任講師
中島 智人　産業能率大学経営学部 教授
原田 晃樹　立教大学コミュニティ福祉学部 教授
平野 覚治　一般社団法人 全国食支援活動協力会 専務理事
村田 明日香　社会福祉法人 石川県社会福祉協議会 地域福祉課
室田 信一　東京都立大学人間社会学科社会福祉学教室 准教授
目﨑 智恵子　高崎市第1層生活支援コーディネーター 主管課高崎市福祉部長寿社会課

［ワーキング部会］

部会長

平野 覚治　一般社団法人 全国食支援活動協力会 専務理事

委　員

清水 洋行　千葉大学大学院人文科学研究院 教授
中島 智人　産業能率大学経営学部 教授
原田 晃樹　立教大学コミュニティ福祉学部 教授
目﨑 智恵子　高崎市第1層生活支援コーディネーター 主管課高崎市福祉部長寿社会課

令和4年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業

**生活支援コーディネーターによる**
**住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と**
**持続可能な事業実施・展開に関する調査研究事業**

# 「食でつながる」活動ガイドブック

**事例から考えるアセット活用アイデア**

一般社団法人 全国食支援活動協力会　編

**ガイドブック編集チーム**
伊藤浩巳・小泉愛佳・岩嵜いづみ（一般社団法人 全国食支援活動協力会）
宮地成子（場所づくり研究所 有限会社プレイス）
デザイン　カタヤナギユウイチ

**一般社団法人 全国食支援活動協力会**
〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21
電話 03-5426-2547　https://www.mow.jp/

発行日　2023年3月30日

# 「食でつながる」活動ガイドブック

事例から考える
アセット活用アイデア

# 【資料集】

1　研修会チラシ（香川会場）
2　研修会チラシ（石川会場）
3　研修会チラシ（全国会場）
4　研修会資料（香川会場）
5　研修会資料（石川会場）
6　研修会資料（全国会場）

令和４年度老人保健健康増進等事業
「生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの
開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究」

ハイブリッド
開催

生活支援コーディネーター研修

# 食のちからで地域を豊かに
# 事例から考える「食」のアクションプラン

＜日時＞ 2022年12月6日(火)　13：00～16：20
＜場所＞ ふらっと仏生山 高松市仏生山交流センター 2階
住所：香川県高松市仏生山町甲218番地1
アクセス：ことでん仏生山駅下車徒歩約4分
またはＺｏｏｍによるオンライン参加

講義➤➤➤➤➤➤➤「多様な食支援サービスとその可能性」
千葉大学人文科学研究院教授 清水 洋行 氏

事例報告➤➤➤➤➤「小学校での朝ごはん提供『下小モーニング』」
香川県三豊市三野町
下高瀬地区社会福祉協議会理事/みの元気塾塾長　関 博 氏
三豊市社会福祉協議会　上村 早紀子 氏
「つながる食事会 『ここめし』＆『ここめし女子会』」
香川県善通寺市生野本町
善通寺市社会福祉協議会　大藤 千津 氏
「鳥取市地域食堂ネットワークの取組」
鳥取県鳥取市
鳥取市総務部人権政策局
中央人権福祉センター所長　川口 寿弘 氏

講義➤➤➤➤➤➤➤「事例報告からの学び」
稲城市高齢福祉課高齢福祉係係長　荒井 崇宏 氏

グループ
ディスカッション➤「食のアクションプランを考える」
ファシリテーター
日本大学文理学部教授/本事業研究委員会委員長　内藤 佳津雄 氏

主催：一般社団法人 全国食支援活動協力会　TEL　03-5426-2547

## 事例報告

◆三豊市「小学校での朝ごはん提供『下小モーニング』」

下高瀬小の生徒を対象に今年9月に始まった朝ごはんの提供。
早朝から始まる調理・提供には様々なグループのシニアボランティアが担っており、地域でこどもを見守る活動になっている。

◆善通寺市「つながる食事会 『ここめし』＆『ここめし女子会』」

善通寺市地域支え合いセンターここ家を拠点に、ボランティアスタッフによる手作り料理や地元のスイーツを提供。大人数の集まりが苦手な方や福祉サービスを受けたくないといった方も参加しやすく、ゆるやかにつながれる・相談できる居場所。

◆鳥取市「鳥取市地域食堂ネットワークの取組」

子どもから高齢者まで様々な方が集い地域共生社会につながる活動である地域食堂の安定した運営を目的とし、寄付や食材の共同管理、情報提供、人材育成等の支援を行うネットワーク。

## グループディスカッション「食のアクションプランを考える」

✔食支援サービスの立上げ・継続に対する支援の構想へ向け
テーマごとのグループで情報交換、意見交換をします

【ディスカッションテーマ】

◆食 × 出番づくり
◆食 × 世代間交流
◆食 × 孤立孤独／生活困窮
◆食 × 地域資源をつなぐ



【目　的】全国で取り組まれている多様な食支援サービスとその立上げ・活動継続の手法について学ぶ
地域コミュニティ・地域福祉において食支援サービスがもたらす価値について知る

【対象者】生活支援コーディネーター/コミュニティソーシャルワーカー
自治体職員/社協、NPO担当者　等

【参加費】無料

【お申込】下記リンクまたはＱＲコードよりにアクセスください。
申込フォーム：https://forms.gle/7kJiNhUz5L9dRsCd8
※主催者HPのリンクからもお申込みいただけます。

一般社団法人　全国食支援活動協力会（担当：小泉・伊藤）
TEL：03-5426-2547　Eメール：infomow@mow.jp

# 令和４年度第２回生活支援コーディネーター研修会 開催要項

１　目　　的

生活支援コーディネーターの役割には、「住民主体の多様なサービスの充実」「ボランティア活動との有機的な連携」「高齢者が地域で社会参加できる機会の増加」「共生社会の推進」の機能を有しながら、支え合い・助け合いによる生活支援サービスを広め創り出すことが期待されています。

この研修会では、特に「食」に関連した生活支援サービスの活動立ち上げや展開・持続の方策について、意見を交わし、アフターコロナを見据えた地域づくりについて学びます。

**※本研修会は「令和4年度老人保健健康増進等事業「生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開」に関する調査研究」の対象研修に位置付けて開催します。**

２　主　　催　　石川県／社会福祉法人石川県社会福祉協議会
　　協　　力　　一般社団法人 全国食支援活動協力会

３　開催方法　　ＺＯＯＭミーティングによるオンライン配信（ライブのみ）

４　開催日時　　令和４年１２月９日(金)　１３時３０分～１６時００分

５　対 象 者　　第２層生活支援コーディネーター、第３層生活支援コーディネーター
（地域サロン運営者、「食」関連の生活支援サービス活動者等）

６　プログラム

| 時間 | 内容（予定） |
|---|---|
| 13:30～<br>16:00<br>(適宜休憩) | **「食のちからで地域を豊かに　事例から考える「食」のアクションプラン」**<br>〇事例報告<br>(1)「小学校での朝ごはん提供『下小モーニング』」<br>香川県三豊市下高瀬地区社会福祉協議会理事/みの元気塾塾長　関 博 氏<br>三豊市社会福祉協議会　上村 早紀子 氏<br>(2)「地域サロンへの食事作りボランティア派遣サービス」<br>鹿児島県鹿屋市社会福祉法人隣の会代表　齋藤 鈴子 氏<br>鹿屋市地域包括支援センター 松元 真由美 氏<br>〇講義<br>「事例報告からの学び」<br>群馬県高崎市第１層生活支援コーディネーター<br>目﨑 智恵子 氏（主管課：高崎市長寿社会課）<br>〇グループディスカッション<br>「食のアクションプランを考える」<br>ファシリテーター<br>日本大学文理学部教授／本事業研究委員会委員長　内藤 佳津雄 氏 |

７　申込・問い合わせ先

石川県社会福祉協議会・地域福祉課　担当/村田　TEL 076（224）1212

Google フォームまたは様式により１１月３０日（水）までにお申し込みください。

https://forms.gle/aEaKtDnTkJJf3T8SA

令和４年度老人保健健康増進等事業
「生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの
開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究」

オンライン
開催

生活支援コーディネーター研修

# 食のちからで地域を豊かに
# 事例から考える「食」のアクションプラン

＜日時＞ 2023年1月20日(金)　13：00～16：20
＜形式＞ Ｚｏｏｍを使用したオンライン開催

講義➤➤➤➤➤「食支援活動における必要な支援とは」
全国食支援活動協力会 専務理事 平野覚治 氏
「多様な食支援サービスとその可能性」
千葉大学人文科学研究院教授 清水 洋行 氏

事例報告➤➤➤①多目的拠点『いこい』での食を通した見守り活動と買物支援
神奈川県横浜市
特定非営利活動法人 お互いさまねっと公田町団地代表 有友フユミ 氏
社会福祉法人訪問の家 横浜市桂台地域ケアプラザ 矢澤美穂 氏

②日替わりカフェオーナーのしくみがつくる地域の新たな繋がり
大阪府富田林市
一般社団法人わっく金剛理事 岡本聡子氏

③農家の女性たちがつくるふるさとの料理で地域活性
高知県四万十町
株式会社十和おかみさん市代表取締役 居長原信子 氏
一般社団法人いなかパイプ代表理事 佐々倉玲於 氏

講義➤➤➤➤➤「事例報告からの学び」
高崎市第１層ＳＣ/主管課：高崎市長寿社会課 目﨑智恵子 氏
グループディス
カッション➤「食のアクションプランを考える」
ファシリテーター
日本大学文理学部教授/本事業研究委員会委員長　内藤 佳津雄 氏

## 事例報告

◆「多目的拠点『いこい』での食を通した見守り活動と買い物支援」

大規模団地でスーパーやコンビニが撤退し、坂の多い地形もあり買い物が不便になる中、団地のひとり暮らし高齢者の見守りも課題になっていた。そんな中開催されたタウンミーティングをきっかけに、空き店舗を活用した青空市や食品日用品販売・コミュニティレストランが始まり、団地住民の憩いの場となっている。

◆「日替わりカフェオーナー」のしくみがつくる地域の新たな繋がり

1960年代に開発された金剛ニュータウンの地区再生の動きから生まれた常設の居場所「わっくカフェ」。さまざまな人の得意を活かして運営する日替わりオーナーのしくみで、世代を超えた地域の新たなつながりを作り出している。

◆「農家の女性たちがつくるふるさとの料理で地域活性」

「株式会社おかみさん市」は四万十町流域の山あいにある旧十和村地域で、生産・加工を行う女性メンバーによって立ち上げられた。農家の女性達がつくる地元産品を使った惣菜や弁当は地域の食を支え、道の駅で行う農家バイキングは観光客にも好評で地域を盛り上げている。

## グループディスカッション「食のアクションプランを考える」

✔食支援サービスの立上げ・継続に対する支援の構想へ向け
テーマごとのグループで情報交換をします

【ディスカッションテーマ】

◆食 × 見守り・つながりづくり
◆食 × 買い物支援
◆食 × 地域活性
◆食 × 出番づくり



【目　的】全国で取り組まれている多様な食支援サービスとその立上げ・活動継続の手法について学ぶ
地域コミュニティ・地域福祉において食支援サービスがもたらす価値について知る

【対象者】生活支援コーディネーター/コミュニティソーシャルワーカー
自治体職員/社協、NPO担当者　等

【参加費】無料

【お申込】下記リンクまたはＱＲコードよりにアクセスください。
申込フォーム：https://forms.gle/dMg6b62GNVCz361LA
※主催者HPのリンクからもお申込みいただけます。

主催：一般社団法人　全国食支援活動協力会（担当：小泉・伊藤）
TEL：03-5426-2547　Eメール：infomow@mow.jp

生活支援コーディネーター研修

# 食のちからで地域を豊かに
# 事例から考える「食」のアクションプラン

＜日時＞ 2022 年 12 月 6 日(火) 13:00～16:20

＜場所＞ ふらっと仏生山 高松市仏生山交流センター 2 階会議室

住所:香川県高松市仏生山町甲 218 番地 1

アクセス:ことでん仏生山駅下車徒歩 約 4 分

| 時間 | 内容 | ご登壇 |
|---|---|---|
| 13:00～13:10 | 事務局アナウンス<br>●ご挨拶・この研修のねらい | <br>内藤 佳津雄 氏<br>(日本大学文理学部教授) |
| 13:10～13:30 | ●講義<br>「多様な食支援サービスとその可能性」 | 清水 洋行 氏<br>(千葉大学人文科学研究院教授) |
| 13:30～14:20<br>各 15 分程 | ●事例報告①香川県三豊市<br>小学校での朝ごはん提供『下小モーニング』 | 上村 早紀子さん<br>(三豊市社会福祉協議会)<br>関 博さん<br>(下高瀬地区社会福祉協議会 理事) |
| | ●事例報告②香川県善通寺市<br>つながる食事会 ここめし&ここめし女子会 | 大藤千津さん<br>(善通寺市社会福祉協議会) |
| | ●事例報告③鳥取県鳥取市<br>鳥取市地域食堂ネットワークの取組 | 川口寿弘さん<br>(鳥取市中央人権福祉センター所長) |
| 14:20～14:35 | ●解説<br>「事例報告からの学び」 | 荒井 崇宏 氏<br>(稲城市福祉部高齢福祉課高齢福祉係係長) |
| 14:35～14:45 | ＝休憩＝ | |
| 14:45～16:15 | ●グループディスカッション | ファシリテーター 内藤 佳津雄 氏 |
| 16:15～16:20 | ●総括コメント／アンケート | |

本研修は下記事業として実施するものです。

令和4年度老人保健健康増進等事業「生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究」

生活支援コーディネーター研修
**食のちからで地域を豊かに**
**事例から考える「食」のアクションプラン**

# 多様な食支援サービスとその可能性

2022年12月6日(火)

清水　洋行
(千葉大学 人文科学研究院)

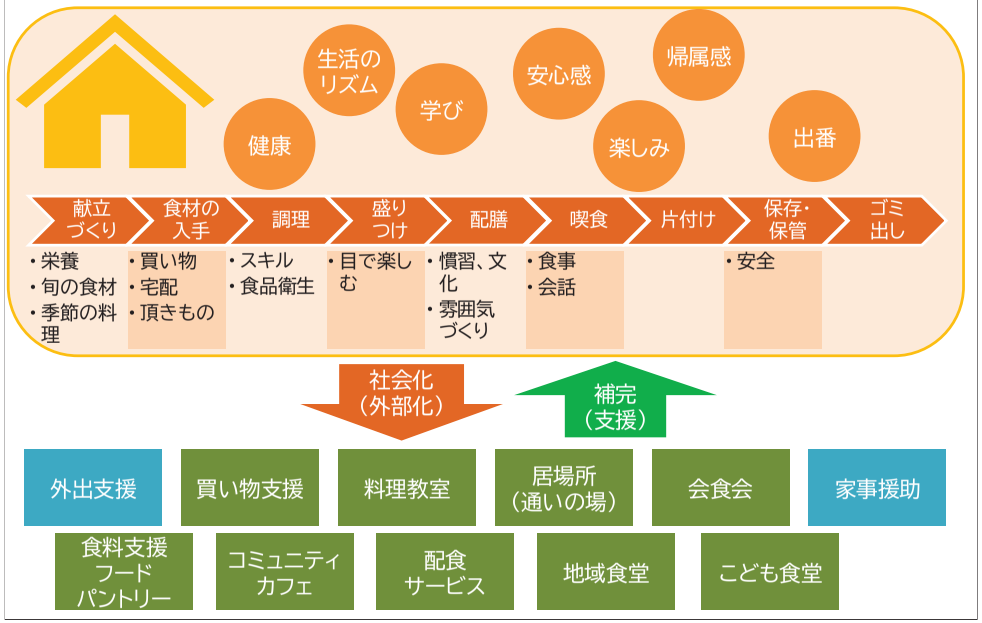


## 食支援活動(サービス)の種類

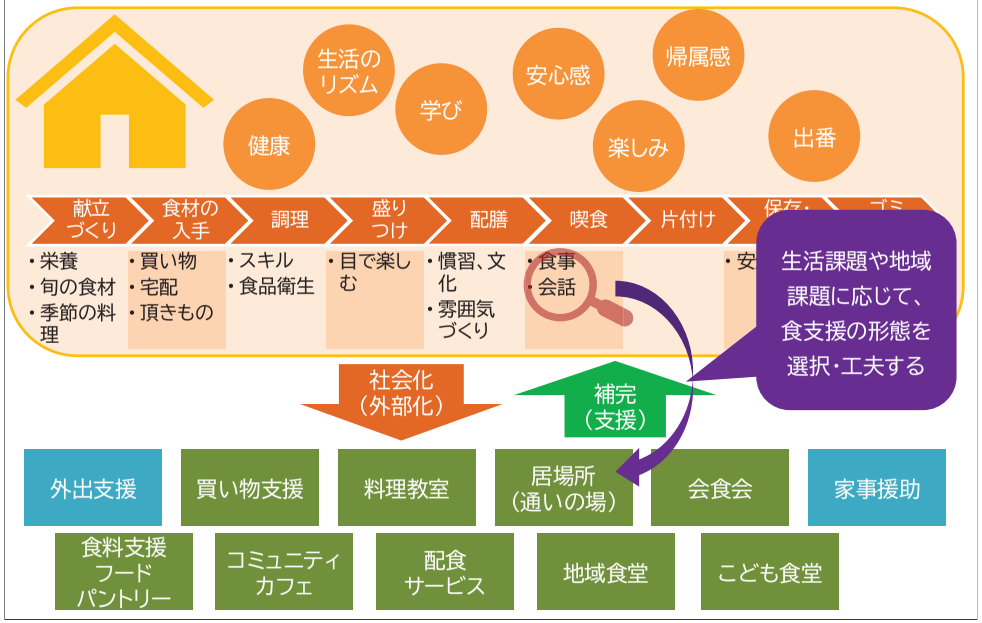



(資料)一般社団法人全国食支援活動協力会のホームページより

## 食支援活動(サービス)とは




## 食支援活動(サービス)とは



## 食支援活動(サービス)がつくる〈つながり〉




## 食支援活動(サービス)づくりに向けて
## :ニーズ重視とアセット重視

| | ニーズ重視 | アセット重視 |
|---|---|---|
| 着眼点 | ないもの | あるもの |
| 対応の仕方 | 不足を補う | 強みを伸ばす |
| 住民との関係 | 住民に向けて | 住民とともに |
| 住民参加の度合い | 低い | 高い |
| 時間幅 | 短い | 長い |
| 主な対象 | 個人 | コミュニティ |
| 評価の重点 | 客観性 | 主観性 |
| 基本的な問い | 「なぜ病気になるのか?」 | 「なぜ健康になるのか?」 |

(資料)一般社団法人 全国食支援活動協力会編集・発行『住民のやる気を支える支援の手引き』(2019年)p.49

## 地域資源マップ

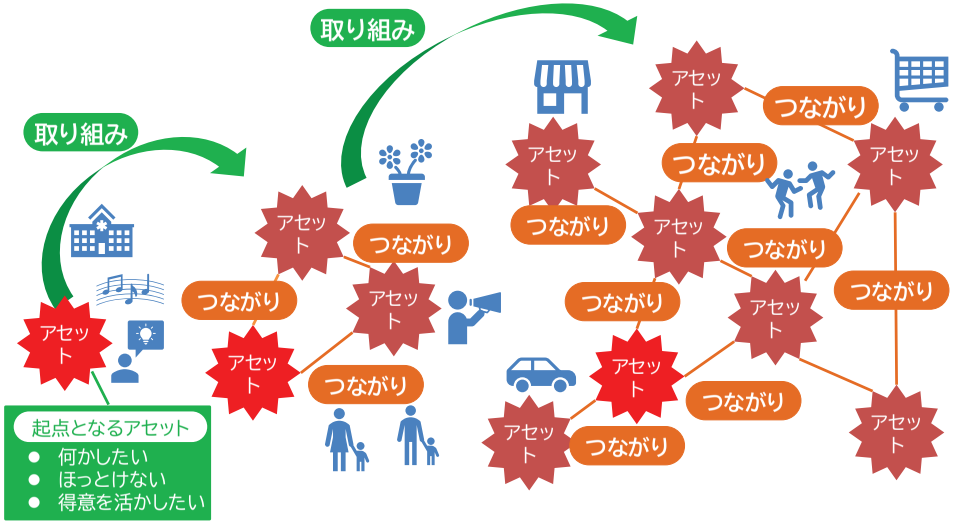
地域で眠っている／他の目的で使われている地域資源
➡ 取り組みに役立つ可能性を持つ資産(アセット)




(資料)一般社団法人 全国食支援活動協力会編集・発行『生活支援コーディネーターが住民のやる気を支える支援の手引き』2020年、pp.70-71。当団体のホームページの「資料ページ」(https://mow.jp/archive/index.html)よりダウンロード可(pdfファイル)

## アセット重視の「活動(サービス)」づくりのプロセス

雪だるま式に、少しずつアセットの輪を大きくしていく



# 事例紹介(1):こども食堂コスモス(福島県本宮市)
# 百歳体操のメンバーで始めたこども食堂

■概要
- 本宮市は古くから交通網が充実して宿場町として栄えた内陸の工業地帯。
- コスモスグループの拠点「お休み処コスモス」は、ＪＲ本宮駅近くの旧市街の中心部にある浦井代表が持っている店舗物件。健康体操（百歳体操）の講習会修了者で百歳体操コスモスを立ち上げ（2016年）。

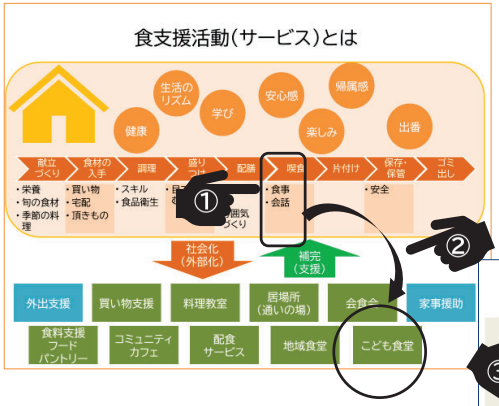
・百歳体操…隔週金曜日　10:00-10:30 体操、10:30-11:30 軽食とおしゃべり。参加費200円
・子ども食堂…隔週土曜日　11:00-14:00　18歳以下無料、大人300円。現在は弁当の配布となっている

■活動が立ち上がるきっかけ
- 得意を活かして地域に貢献したい
  - 保育園の給食調理の経験もある浦井さんは、得意を生かして子どものための活動（こども食堂）を始めたいと考えた。「元気なうちは地域の子どもたちのためにできることをしたい」
  - 百歳体操の仲間に相談したら賛成してくれた。「役立ちながらみんなで集まれる居場所にしたい」。

■この活動を成立させている資源と支援（SCや中間支援の関与）

**場**｜お休み処コスモス（代表所有の店舗物件）
**モノ・資金**｜本宮市子ども食堂運営補助金、企業・団体・個人からの食材の支援
**人**｜百歳体操のメンバー、古くから地域のつながりがある人たち
**情報・ネットワーク**｜社会福祉協議会、本宮市子ども福祉課、ふくしまこども食堂ネットワーク
**ＳＣや中間支援の関与**｜チラシ作りや広報の協力（ＳＣ）、様子を見に行く、事あるごとの声掛け（社協）、民間助成金申請の手伝いや推薦（子ども福祉課、ふくしま子ども食堂ネットワーク）

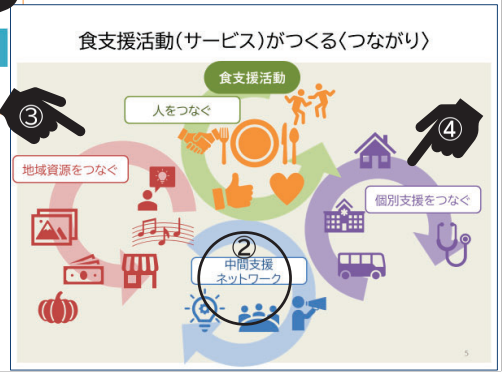
事例紹介(1):こども食堂コスモス(福島県本宮市)
百歳体操のメンバーで始めたこども食堂




①「子どもたちのために、得意を活かして食事を出したい」（でも、どのようなかたちがよいか。。。）

②A)県域の中間支援組織(一般型)が他市の活動を紹介する

②B)県域の中間支援組織(テーマ型)が、具体的な活動方法を伝える




③課題1):百歳体操の仲間で始めたが、自動車の運転ができるメンバーがいなくなった

④課題2):百歳体操はメンバー同士の助け合い(互助)を大切している活動だが、活動の主旨が十分に伝えられずに、新しい“利用者”が紹介されることがある

# 事例紹介(2):横浜市栄区社協+上郷東連合自治会
# 移動販売が来る公園で広がる地域交流

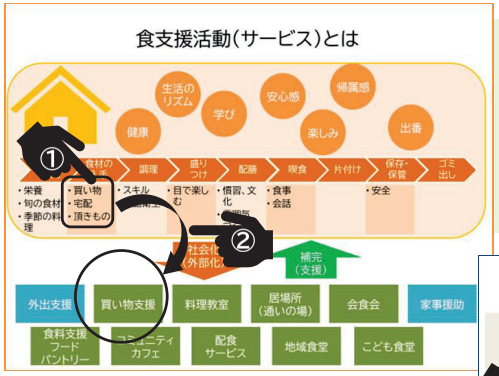
■概要
- 栄区上郷東地区は1970年代に開発された丘の上の住宅地。丘の下の商店街まで距離があり、車を運転しない高齢者には不便な地域。75歳以上が7割を超し、高齢者世帯または独居が多い。
- ダイエーからの打診をきっかけに、社協が〈見守り／コミュニティの創出／買い物支援／健康支援〉を目的とする仕組みとして設計し、各区の自治会や民生委員・児童委員等に説明。手を挙げた連合自治会単位で取り組む。当地域が最初で、2019年より、丘の下にあるダイエーの店舗から移動販売車を運行。
  - 運行日：毎週火曜日　10:30-11:00
  - 参加店舗：ダイエーの店舗（食品・日用品）。福祉作業所（パンなど）
  - 住民の役割：商品を並べる机の用意、声掛けと交流、重い荷物は自宅まで運ぶなど。毎回10名以上参加。
  - 商品の種類や値段：港南台店と同じ商品を扱い、値段は変わらない。肉魚、野菜などの生鮮品も多品目。手数料が5点55円（55円が上限）。2層ＳＣも必ず参加し、見守りや地域理解の機会となっている。

■活動が立ち上がるきっかけ
- 地域の高齢化、買い物の困難。

■この活動を成立させている資源と支援

**場**｜**近隣**公園（公園内に車を乗り入れるには区の許可が必要）
**モノ・資金**｜防災備品の長机など。
**人**｜自治会のメンバー、民生委員・児童委員、高齢者クラブほか
**情報・ネットワーク**｜栄区社協、ケアプラザ（区の福祉拠点）、ダイエー
**ＳＣや中間支援の関与**｜社協の重点事業でもあり、チラシのポスティング、回覧板などでの広報。防災や保健師の参加など情報のキャッチと発信に有効だと考えている。

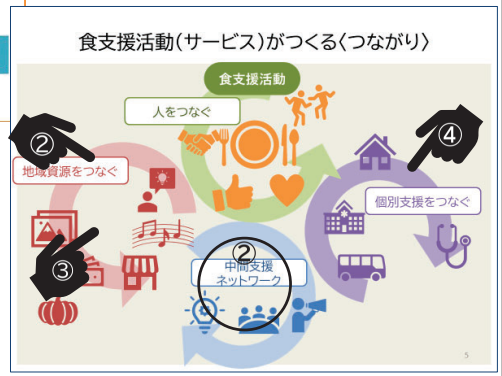
事例紹介(2):横浜市栄区社協+上郷東連合自治会
移動販売が来る公園で広がる地域交流




①丘の上の団地で、車を運転しないと買い物が不便

②A)丘の下のダイエー店舗から、団地内の公園に移動販売車が来る

②B)区社協が地域福祉活動(「見守り」「コミュニティの創出」「健康支援」)に位置づけることで、各地区での実施が可能となる




②C)当地区の連合自治会が手を挙げて開始。当日は、住民が商品の陳列用に公園内の防災倉庫から机や椅子を出してレイアウトする。

③可能性)現在、障がい者施設もパン等を販売しており、マルシェへの広がりも期待される。

④当日、SCのほか、民生委員、社協職員も参加し、交流を通じた見守りの場となっている

# 参考


- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『住民のやる気を支える支援の手引き』（2019年）
- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『生活支援コーディネーターが住民のやる気を支える支援の手引き』(2020年)
- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『ここがあることで地域が豊かになる住民主体の居場所ガイドブック』(2021年)
- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『事例でわかる 地域アセット活用ガイドブック 生活支援コーディネーターの居場所づくり・つながりづくりを応援』(2022年)
- Kretzmann, John P. and McKnight, John. Building Communities from the Inside Out: A Path toward Finding and Mobilizing a Community’s Asset.(1993)
- Snow, Luther K. The Power of Asset Mapping: How your Congregation Can Act on Its Gifts. (2004)

事例報告①
香川県三豊市

# 小学校での朝ごはん提供「下小モーニング」




下高瀬地区社会福祉協議会 理事/みの元気塾塾長
関 博氏
三豊市社会福祉協議会 地域福祉推進課
上村 早紀子氏

## 基本情報

**活動メンバー**
- PASボランティアみの
- 食生活改善推進員
- 民生委員児童委員

**開催場所**
開催：下高瀬小学校家庭科室
調理：太陽の家／みの元気塾

**活動内容**
- 下高瀬小の生徒を対象に
今年9月から朝ごはんを提供。
事前申込制で、１回で50食ほど
無料提供。




## 活動を始めたきっかけ

1 「みの元気塾」のコンセプト
→ひとり暮らしのお年寄りの元気には
〝食〟と〝多世代交流〟がカギ

2 地域の集まりの場で「早寝早起き朝ごはん」について話題に

→

## 活用したアセット/地域資源

1
・PASボランティア
・食生活改善推進員
・民生委員児童委員
＜人＞

2
・三野町保健センター
太陽の家
・小学校(家庭科室)
＜場所＞

3
・地区社協の助成
＜カネ＞

4
・小学校、校長
＜人＞




# 常設サロン「みの元気塾」

令和4年12月

## みの元気塾の内容

・設置地域 ： 三豊市三野町、平均的農村
　　人口1万弱、ひとり暮らし高齢者150人
・場　　所 ： 町中心の三野町保健センター
・規　　模 ： 建坪121㎡、独立平屋ワンルーム
・開 塾 日 ： 月、水、金、10時～15時
・利用料　 ： 無料
・使用制約 ： 特になし、誰でも、自由に、予約なし
・イベント開催 ： 4～5回/月開催、高齢者、こども
・食事提供 ： 定食30～50食/日、400円、飲み物



保健センター内　太陽の家

## みの元気塾の事業内容

▪イベントの企画、実行 ： 4～5回/月、展示会、
▪昼食の提供 ： 日替定食400円/食
・介護予防事業 ： 地域包括支援センタ委託事業
▪オレンジかふぇ ： 地域包括支援センタ委託事業
・配食サービス ： 高齢者に昼食20人程度（2回/週）
・高齢者見守り ： 1～2回/週見守り訪問
・こども寺子屋 ： 夏休み10日程度寺子屋開催
・こども食堂、親子食堂： 25回/年、100日/年
・学用品リユース ： 町内幼稚園、小、中学校用品

## 設立までの経緯

・トリガー　：　孤独死、高齢者の増加
　　民生委員、社協で常設サロン必要性痛感
・検討メンバー　：　民生委員、社協の3名
　　審議組織は社協連絡会、福祉活動実行委
・コンセプト　：　ひとり暮らしの居場所をベース、
　　こども、若い母親、身障者だれでも利用
　　組織の自立のため、食事、物品販売可
・検討内容　：　経営母体、運営メンバー場所の選定
・開塾　　：　平成25年2月スタート

## 運営組織

・運営組織「みの元気塾」立ち上げ
　地区社会福祉協議会と地元PASボランティアで
　現在メンバー17名、70代女性主体
・運営　　3～4名／日の当番制
　　清掃、食事の提供、イベント開催
・広報　　毎月チラシ配布、防災無線、カレンダー
・支援　　三豊市健康福祉部、市社協、まちづくり推進
　　隊みの、公民館、子どもゆめ基金、各福祉
　　財団、地域の企業や個人

## 運営状況（令和3年度実績）

・開塾日　：　134日
・イベント回数　：　35回
　コロナの第四波、第五波、第六波で活動制限される。
　昼食の提供が出来ず、弁当方式で配食サービス、こども食堂は継続、こども寺子屋、こどもイベントは実施
・利用者　：　5200人（最盛期の7割程度）
　配食サービス　：　26人、1，320食
　子ども寺子屋　：　9日、参加者350人
　こども食堂　：　24回、560人
　親子食堂　：　100回、200組
・新規事業　：　学用品リユース（福祉のまちづくり会みの/市社協事務局）

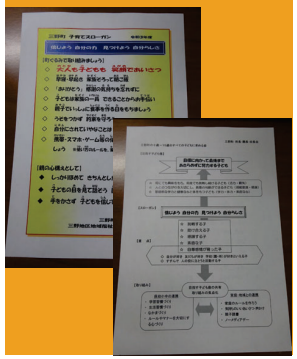

夏休みこども寺子屋


親子食堂


手まり教室


弁当

## 実施経緯



- 従来より『三野町子育てスローガン』で朝ごはんの重要性認識
  （社協/三野地区地域福祉活動計画に盛り込み、毎年スローガン町内全戸配布）
- 令和3年 地域の集まりの場で朝ごはんを食べない子がいることが話題になる
- 令和4年2月朝ごはん提供の先進事例勉強（社協と共同）
- 令和4年3月学校運営協議会で検討 キックオフ
- 実施グループの選定と検討会（3グループ合同）
- 令和4年7月学校長と打合せ　基本了解
- 令和4年9月具体的実施打合せ




## 実施要領

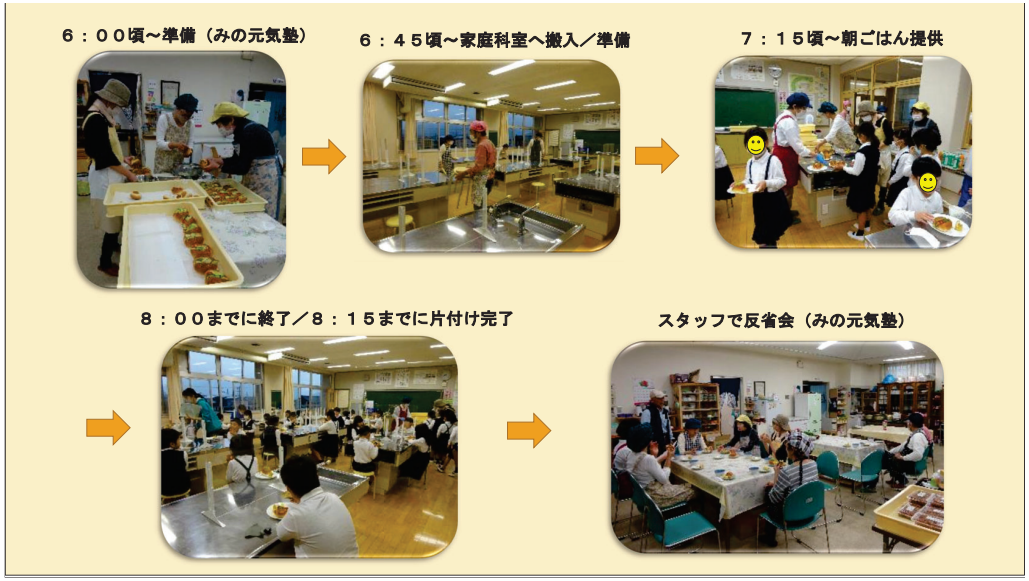


- 対象者：下小全校生
- 場所：小学校家庭科室
- 時間：７：１５～７：４５
- 頻度：毎週月曜日　3回／月程度
- 内容：おにぎりorパン+汁物+1品
- スタッフ：3グループ持ちまわり
  （PASﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、民生委員、食改）

## 実施工程

- メニューは各グループで事前決定
- 1か月前に申込で予定数決定
- 木、金曜日は材料準備

【当日】
- ６：００～　調理開始（みの元気塾）
- ６：４５～７：００　学校へ搬入
- ７：１５～７：４５　朝ごはん提供
- ８：１５　片付け完了
- ８：１５～９：００　スタッフ食事しながら反省会（みの元気塾）



## 実施状況

- 9月1回、10月2回、11月3回　実施
- 参加者　４０～５０名／回 程度（全児童数184名）
- 内容は　「おにぎり、一品、みそ汁」
  「サンドイッチ、スープ」　　等
- 食事量は選択制を採用
- 概ね好評に推移
- スタッフは６～８名で実施（各グループ）

## 参加者及び保護者意見

おにぎりやサンドイッチの数や大きさを自分で選べるようにしました。

- 友だちと一緒に美味しい朝ご
- ごはんは美味しいが量が多い。
- 朝ごはんは食べていますが少食です。しっかり食べたようで良いです。
- 時間が短い様で、もう少しゆっくり食べられるといいです。
- 朝ごはんを食べる日
  いきました。

友達を待って来ていた子もいましたが、徐々に登校順に一人でも来れるようになってきました。

- 家では野菜を食べないけど、
  と食べているようでうれしいです。
- いつも美味しかったと喜んでいます。地域の人と会えるのも嬉し
- っているので、一度

最初は恥ずかしそうにしていた子も、徐々に挨拶の声が大きくなり、「今日のごはん何～！？」と声も聞かれるようになりました。



色々な学年が交ざります



おかわりは個別に・・







「この後マラソンやから！」と少し控えめに食べたり・・



食べ終わったら教室へ・・「頑張っておいで」と見送られます

事例報告②
香川県善通寺市



# つながる食事会
# 『ここめし』&『ここめし女子会』

善通寺市社会福祉協議会
大藤 千津 氏

## 基本情報

**活動メンバー**
実施主体：善通寺市社会福祉協議会
調理など：地域のボランティア

**開催場所**
善通寺市地域支え合いセンターここ家

**活動内容**
- ワンデイキッチンの運営
- 食を通じた交流『ここめし』『ここめし女子会』
  ⇒参加費２００円
- 居場所事業『ゆるゆるカフェ』

## 活動を始めたきっかけ

1 拠点「ここ家」

2 相談に来ていた方と
継続してつながれる場が必要

→

## 活用したアセット/地域資源

1
・拠点「ここ家」

2
・相談員
・地域のボランティア
・近隣の学生

3
・思いやりネットワーク
（助成）
・フードバンク
（食材）

## 善通寺市地域支え合いセンターここ家

「ここ家(や)」は…
- 地域（community）で
  交流（communication）できる場
- 心地いい場所
- 「co-」協働で、共に、
  という想いを込めて名付けられました。



平成28年4月にオープンしました
(^^♪　今年で6年目

気軽に寄れる場 / 支え合える場 / 参加、参画できる場 / つながりをつくる場

## ここ家を拠点に

**世代や分野を越えた　住民の主体的な生きがいづくり、支え合いを目指して**

ここ家
- ① 生きがいひろば
- ② 日替わりシェフの店ないろ（ワンデイキッチン）
- ③ ここ家あったか子ども食堂
- ④ ゆるゆるカフェ（発達障がい者居場所事業）
- ⑤ ここめし、ここめし女子会
- ⑥ ここ寄席
- ⑦ 通所サービス事業（介護予防・日常生活支援総合事業）【市受託事業】
- ⑧ 通所型一般介護予防事業（くすの木脳トレコース事業）【市受託事業】

地域
- ⑨ 居場所づくり講座、居場所づくりカフェ
- ⑩ ひきこもりに関する研修会
- ⑪ ひきこもりプチ勉強会
- ⑫ ひきこもりの家族の居場所づくり

ここ家の食でつながる取り組み②

## ここめし＆ここめし女子会

生活のしづらさを抱えた方や
地域とのつながりが薄い方等が
食を通じて地域住民とゆるやかにつながり、
その方自身の得意なことを活かし、
役割を持って、
地域住民と一緒に活躍する場をつくることを
目的に実施しました。







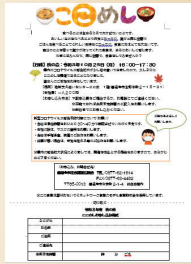
ここめし開催日：不定期　16時頃～17時30分頃
参加者：10～20名
内　容：スタッフ（ボランティア）が調理した
料理をいただき、支援者やスタッフと
会話を楽しんだり、
思い思いに時間を過ごしました。
中には、一人で来るのが苦手な方は、
支援者と一緒に参加してくれる方もいます。

昨年度はコロナ対策をして1回実施しました。
今年度は4～5回実施の予定です。（6月、9月）

## ここめしをやってみて・・・

★相談の担当者からは～
- 相談に来なくなった人とも繋がっておくことができる。ここめしに来てくれることで、頑張っている様子や困りごとなどの話ができる。
- 地域に顔見知りの人が増える。
  参加者がボランティアさんとおしゃべりをする姿が見られた。

★参加者の声
- 誰かと同じ空間でご飯を食べることで嬉しい気持ちになれた。
- 人が作ってくれた出来立ての温かい食事は、さらにおいしく感じる。




**ゆるくつながり続けることで、安心できる、**
**なんとなく居心地が良い居場所だと思ってもらえれば・・・**

# ここめし女子会　も始めてみました




・ここめしに来られる方は、男性が多かった。
・脳梗塞の後遺症で、おしゃべりや、人との交流が苦手で、デイサービスに行けない人がいた。
・性同一性障害もあり、男性が苦手だったり大人数の人がいる場所が苦手。
・家族との時間が長く、精神的にもしんどい人・・・福祉サービスを受けたくない人



少人数で、ゆったり、まったり
スイーツを食べながら
女性限定の集まりで茶話会を企画。
市内のお店のスイーツめぐりも楽しいかも★



2022.12.6
生活支援コーディネーター研修
**食のちからで地域を豊かに**
**事例から考える「食」のアクションプラン**

# 鳥取市地域食堂ネットワークの取組

鳥取市中央人権福祉センター　川口　寿弘

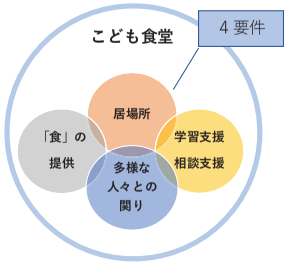



1　地域食堂の推進
2　地域食堂ネットワークへの支援
3　行政の包括的支援体制の構築と地域食堂
4　圏域での地域食堂の推進と広域での拠点整備




## 地域食堂（こども食堂）の推進

○２０１５年　９月　「寄り添い型学習・相談支援事業」
○２０１５年１２月　鳥取発の子ども食堂「とっとり・こども食堂」を開始
○２０１６年　３月　「子どもの未来応援計画」策定　５年間で全ての中学校区で実施することを掲げる




①サードプレイスとして子どもが安心して居られる「居場所」であること

②食育・食文化の観点をもって「『食』を提供すること」

③進路保障の取組として「学習支援を行うこと」
子どもの“つぶやき”を相談支援に引き上げること

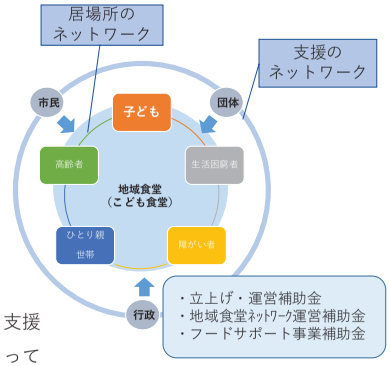
④受け手＝子ども、支え手＝スタッフという一方向の閉じた取り組みとしない地域の「地域の多様な人々が関わること」



## 地域食堂の推進と地域食堂ネットワークへの支援

鳥取市のこども食堂は、経済的に困窮している子どもだけを対象にしているのではなく、高齢者、障がい者、子育て中の保護者、外国人等々を受け入れており、地域の多様かつ多世代の交流拠点となっています。

課題を抱える子どもや世帯に関わっていくことを基本としながら地域の誰もが気軽に行ける「だれでも食堂」＝「地域食堂」となっています。

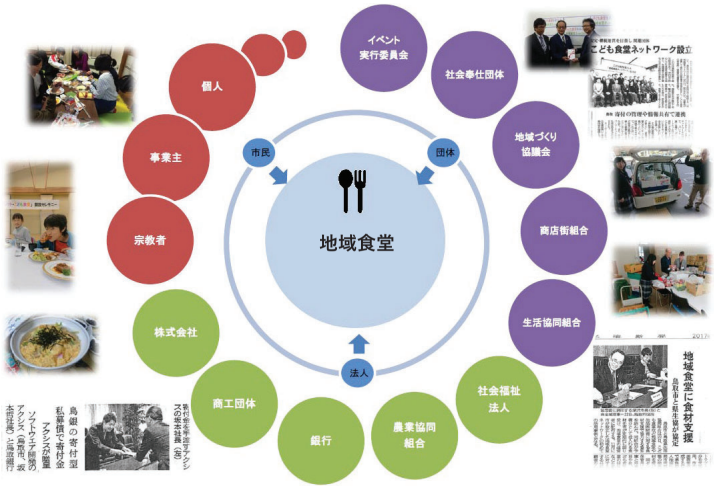



**「鳥取市地域食堂ネットワーク」設立（2017年11月）**

目的：地域食堂が継続的・安定的に運営を行うため、運営団体、支援団体、行政が連携し、互いに支え合う仕組みを構築し、もって地域共生社会をめざす取り組みに資する

運営団体：２２＋８食堂、支援団体：３７団体・法人

## 支援の広がりから地域づくりへ






## 包括的支援体制の構築と「地域食堂」

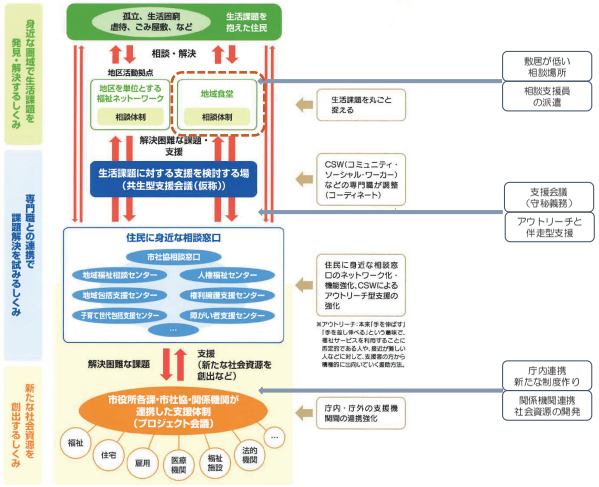
鳥取市では、地域共生社会の実現に向けた取組の推進と体制づくりについて定めた「地域福祉推進計画」において、包括的支援体制の構築を重点取組に規定しています。

社会的孤立の広がりの背景に、高齢者、障がい者、ひとり親世帯、生活困窮世帯、ひきこもりなどに関する生活課題が複雑化、深刻化するとともに潜在化する傾向が強まっており、今後こうした生活課題を積極的に把握し包括的に支援していくために、住民との協働による課題発見機能の強化と、縦割りを排した相談窓口と包括的な支援体制づくりを進めています。

この包括的支援体制構築にあたって、住民に身近な圏域で生活課題を発見・解決する仕組みとして、「地域食堂」を位置付け、生活課題を抱えた住民にとって敷居が高くなく気軽に相談できる場として活用していくこととしています。

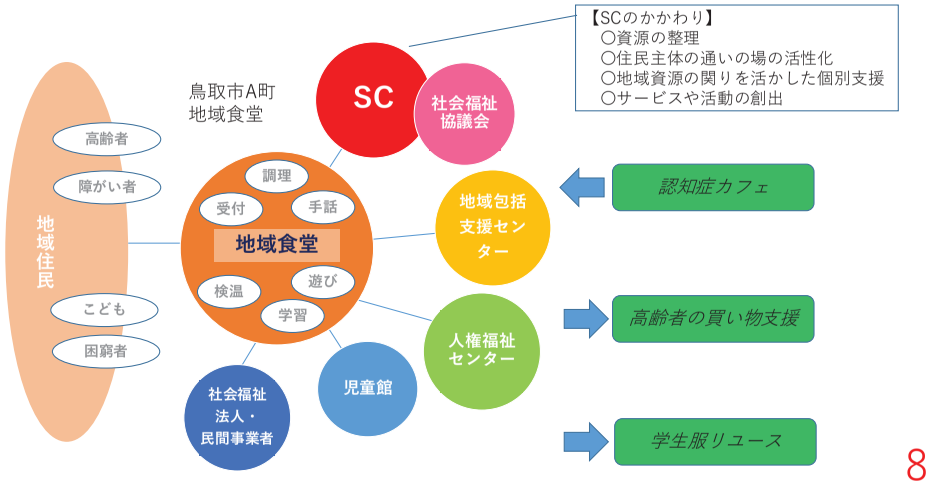


## 包括的支援体制の構築と「地域食堂」






## 地域食堂をプラットフォームにした地域課題解決の取組



## 地域課題解決のプラットフォーム

①地域食堂を利用するお母さんの「子どもの学生服が高価で困っている」との声がもとになりはじまった「学生服リユース事業」

②地域食堂に参加する高齢者の「交通手段がなく買い物に行くのが難しい、スーパーの棚から商品をとるのも大変」とのつぶやきがきっかけにはじまった「中学生がサポートする高齢者の買物支援」

③「就労やハラスメントの相談の背景に性的マイノリティにかかわる課題があることが多い」という声を受けてはじまったセクシュアルマイノリティの人や「そうかも…」と思っている人、家族や友人のための「コミュニティスペース」

④地域食堂に関わる生活支援コーディネーターの「認知症の本人の地域社会への参画を促したい」との要望から、さまざまな地域住民とのつながりをつくるための「認知症カフェ連携事業」

⑤高齢者等の孤立状態が心身に悪影響を及ぼすと考えられる場合、居場所やつながりを確保するために、医療・保健関係者等が処方＝具体的な居場所への参加を促し、地域における役割・出番、人間関係をつくる支援を行う「孤立防止処方事業」

9

## コミュニティースペースによる当事者支援




10

## 〈包括的支援体制の構築〉重層的層支援体制整備事業

**地域食堂拠点・困りごと解決支援**

地域食堂を拠点にした地域の支え合いと多様な主体の参画により、
住民が主体的に地域課題の解決を試みる活動を創出するための支援を実施（委託事業）

**きりん こども食堂**

地域食堂 → 制服リユース
・「制服が高価で困っている」とのお母さんの声をきっかけにして始まった取組

地域食堂 → 集会所マルシェ
・「近所にお店もなく、買い物が大変だ」との高齢者の声をきっかけにして始まった取組

**こども・若者食堂**

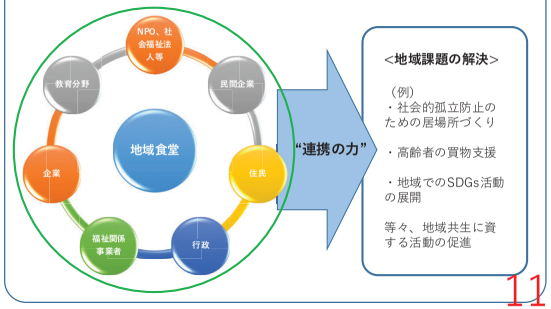
地域食堂 → フードパントリー → SNS活用宅食便

・地域食堂に寄付された食材を生活困窮者など支援に活用

・支援に繋がっていない生活困窮者へ支援を届けるための新たな取組

**河原 ふれあい食堂 【包括的モデル】**

『すごい！地域食堂　地域包括連携協定』




“連携の力”

<地域課題の解決>

（例）
・社会的孤立防止のための居場所づくり
・高齢者の買物支援
・地域でのSDGs活動の展開
等々、地域共生に資する活動の促進

11

## ベーシック・サービスとしての地域食堂へ

地域食堂

・子どもの貧困対策
・高齢者の孤立防止
・障がい者の参加支援
・マイノリティの尊厳の確保

人間の尊厳と生活の保障を体現

地域のコンパクトなベーシック・サービスの基盤

12

## 圏域における地域食堂の推進

鳥取市と周辺４町、隣接の兵庫県２町で「麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成し、圏域における地方創生の一層の充実・発展を図り、圏域全体の活性化・持続的発展を目指した取組を進めています。

鳥取市地域食堂ネットワークは、この麒麟のまちづくりの取組と連動し、様々な機能をもつ「地域食堂」の取組を住民の生活圏域において展開することで、子ども・高齢者・障がい者をはじめ多様な人たちが住みやすい魅力のあるまちづくりを目指しています。




**麒麟のまち創生戦略会議(首長会議)**
・令和元年11月5日　地域食堂の推進
・令和４年 2月8日　拠点整備



「麒麟獅子舞」は、この地域に伝播している重要な民俗文化財であり、霊獣麒麟が息づくこの地域を「麒麟のまち」圏域と呼称しています。




**魅力あるまちづくり**
さまざまな機能をもつ地域食堂の取り組みを住民の生活圏域において展開することで、高齢者・障がい者・子どもをはじめ多様な人たちが住みやすい魅力あるまちづくりへ！

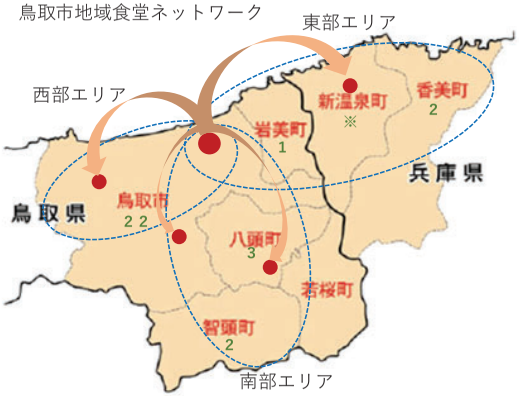



**効果的な仕組みづくり**
中枢中核都市に集中する企業をはじめとする社会資源により得られる支援等を広域的に活用し、さらに、近隣町のそれぞれの強みを生かした効果的な支援の仕組みをづくりへ！



## 地域食堂の推進と拠点の整備

**麒麟のまち**
鳥取市地域食堂ネットワーク




**「地域食堂」とは**
・子どもを中心に地域の様々な人が集う居場所
・多様な人や社会資源が繋がる場

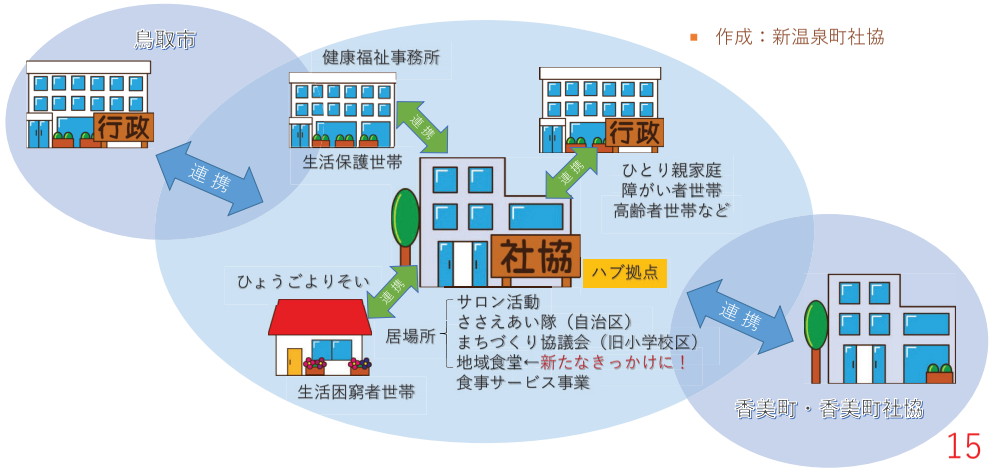
**「地域食堂」箇所数**
・鳥取市22、智頭町2、八頭町3、岩美町1、香美町2

**食材等保管拠点**
・鳥取市　中央人権福祉センター
　河原人権福祉センター
　気高人権福祉センター
・八頭町　中央人権啓発センター
・新温泉町　社会福祉協議会

**ロジ・ハブ拠点の特徴**
・ロジ及びハブ拠点は、いずれも市町設置の施設内
・拠点設置後の冷凍庫等の経費(電気代等)は市町負担
・ロジ⇔ハブ間、ハブ⇔配分先団体間の車移動時間は３０分以内



## 【例】活用のイメージ




■ 作成：新温泉町社協



## 県全域での拠点整備

とっとり子どもの居場所ネットワーク“えんたく”

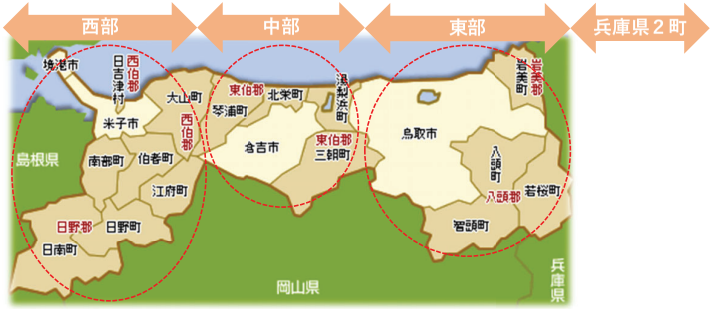
麒麟のまち・鳥取市地域食堂ネットワーク

県ネットワーク　活動エリア

市ネットワーク 活動エリア
ロジ・ハブ拠点整備

人権センター(隣保館)のロジ・ハブ拠点整備

鳥取県隣保館連絡協議会・地域食堂推進委員会

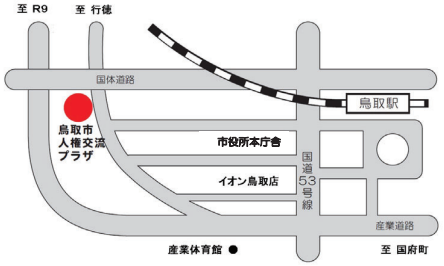


## 麒麟のまち から 出雲の国へ

鳥取県内(中・西部)＋島根県(松江市)までのハブ拠点と食料配送ルートの構築






鳥取市中央人権福祉センター
〒680-0823　鳥取市幸町151　人権交流プラザ内
TEL/0857-24-8241　FAX/0857-24-8067
Email：jin-chuo@city.tottori.lg.jp

生活支援コーディネーター研修

# 食のちからで地域を豊かに
# 事例から考える「食」のアクションプラン

＜日時＞ 2022 年 12 月 9 日(金) 13:30～16:00
＜形式＞ Zoomを使用したオンライン開催
ZoomURL:https://us02web.zoom.us/j/85991080846?pwd=UHh4T0FqOFJUSlZ6eTFRR0pWWVd2QT09
ミーティング ID: 859 9108 0846
パスコード: 384299

研修内容

**【第 1 部】(13:30～14:50)**

●ご挨拶・この研修のねらい : 内藤 佳津雄 氏 (日本大学文理学部教授)

●事例報告:

＜事例 1＞

香川県三豊市 : 小学校での朝ごはん提供「下小モーニング」

関 博さん (下高瀬地区社会福祉協議会 理事)／上村 早紀子さん(三豊市社会福祉協議会)

＜事例 2＞

鹿児島県鹿屋市 :配食サービス「コロナ禍で影響を受けサロン活動から配食弁当による見守り活動へ」

齋藤 鈴子さん(社会福祉法人隣の会 理事長)／松元真由美さん(鹿屋市地域包括支援センター)

●解説:「事例報告からの学び」目﨑 智恵子 氏 (高崎市第1層 SC／主管課:高崎市長寿社会課)

休憩(14:50～15:00)

**【第 2 部】(15:00～16:00)**

●質疑応答と意見交換会

進行 内藤 佳津雄 氏(日本大学文理学部教授)
荒井 崇宏 氏(稲城市福祉部高齢福祉課高齢福祉係係長)
目﨑 智恵子 氏 (高崎市第1層 SC／主管課:高崎市長寿社会課)

●研修の最後に:アンケートへのご協力のお願い

以上

# 事例紹介(1):こども食堂コスモス(福島県本宮市)
# 百歳体操のメンバーで始めたこども食堂

■概要
- 本宮市は古くから交通網が充実して宿場町として栄えた内陸の工業地帯。
- コスモスグループの拠点「お休み処コスモス」は、ＪＲ本宮駅近くの旧市街の中心部にある浦井代表が持っている店舗物件。健康体操（百歳体操）の講習会修了者で百歳体操コスモスを立ち上げ（2016年）。

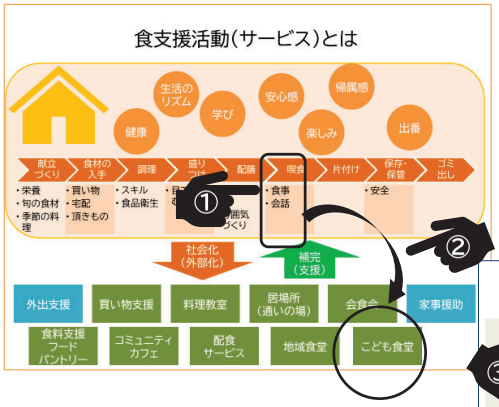
・百歳体操…隔週金曜日　10:00-10:30 体操、10:30-11:30 軽食とおしゃべり。参加費200円
・子ども食堂…隔週土曜日　11:00-14:00　18歳以下無料、大人300円。現在は弁当の配布となっている

■活動が立ち上がるきっかけ
- 得意を活かして地域に貢献したい
  - 保育園の給食調理の経験もある浦井さんは、得意を生かして子どものための活動（こども食堂）を始めたいと考えた。「元気なうちは地域の子どもたちのためにできることをしたい」
  - 百歳体操の仲間に相談したら賛成してくれた。「役立ちながらみんなで集まれる居場所にしたい」。

■この活動を成立させている資源と支援（SCや中間支援の関与）

**場**｜お休み処コスモス（代表所有の店舗物件）
**モノ・資金**｜本宮市子ども食堂運営補助金、企業・団体・個人からの食材の支援
**人**｜百歳体操のメンバー、古くから地域のつながりがある人たち
**情報・ネットワーク**｜社会福祉協議会、本宮市子ども福祉課、ふくしまこども食堂ネットワーク
**ＳＣや中間支援の関与**｜チラシ作りや広報の協力（ＳＣ）、様子を見に行く、事あるごとの声掛け（社協）、民間助成金申請の手伝いや推薦（子ども福祉課、ふくしま子ども食堂ネットワーク）

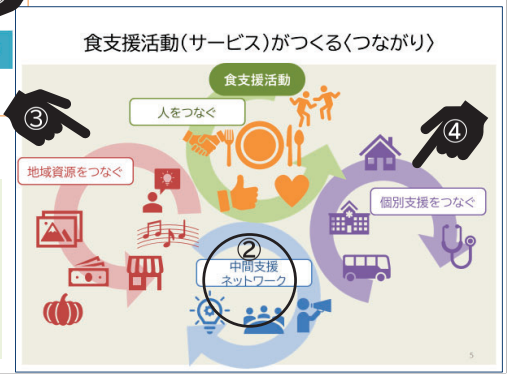
事例紹介(1):こども食堂コスモス(福島県本宮市)
百歳体操のメンバーで始めたこども食堂




①「子どもたちのために、得意を活かして食事を出したい」（でも、どのようなかたちがよいか。。。）

②A)県域の中間支援組織(一般型)が他市の活動を紹介する

②B)県域の中間支援組織(テーマ型)が、具体的な活動方法を伝える




③課題1):百歳体操の仲間で始めたが、自動車の運転ができるメンバーがいなくなった

④課題2):百歳体操はメンバー同士の助け合い（互助）を大切している活動だが、活動の主旨が十分に伝えられずに、新しい“利用者”が紹介されることがある

# 事例紹介(2):横浜市栄区社協+上郷東連合自治会
# 移動販売が来る公園で広がる地域交流

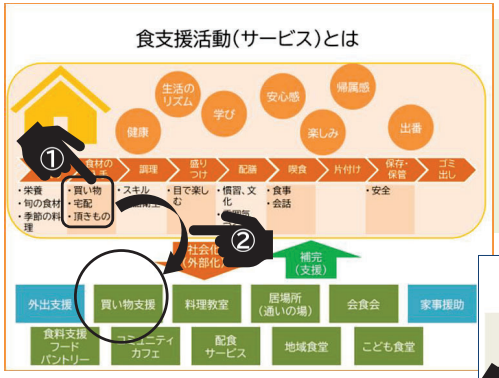
■概要
- 栄区上郷東地区は1970年代に開発された丘の上の住宅地。丘の下の商店街まで距離があり、車を運転しない高齢者には不便な地域。75歳以上が7割を超し、高齢者世帯または独居が多い。
- ダイエーからの打診をきっかけに、社協が〈見守り／コミュニティの創出／買い物支援／健康支援〉を目的とする仕組みとして設計し、各区の自治会や民生委員・児童委員等に説明。手を挙げた連合自治会単位で取り組む。当地域が最初で、2019年より、丘の下にあるダイエーの店舗から移動販売車を運行。
  - 運行日：毎週火曜日　10:30-11:00
  - 参加店舗：ダイエーの店舗（食品・日用品）。福祉作業所（パンなど）
  - 住民の役割：商品を並べる机の用意、声掛けと交流、重い荷物は自宅まで運ぶなど。毎回10名以上参加。
  - 商品の種類や値段：港南台店と同じ商品を扱い、値段は変わらない。肉魚、野菜などの生鮮品も多品目。手数料が5点55円（55円が上限）。2層ＳＣも必ず参加し、見守りや地域理解の機会となっている。

■活動が立ち上がるきっかけ
- 地域の高齢化、買い物の困難。

■この活動を成立させている資源と支援

**場**｜**近隣**公園（公園内に車を乗り入れるには区の許可が必要）
**モノ・資金**｜防災備品の長机など。
**人**｜自治会のメンバー、民生委員・児童委員、高齢者クラブほか
**情報・ネットワーク**｜栄区社協、ケアプラザ（区の福祉拠点）、ダイエー
**ＳＣや中間支援の関与**｜社協の重点事業でもあり、チラシのポスティング、回覧板などでの広報。防災や保健師の参加など情報のキャッチと発信に有効だと考えている。

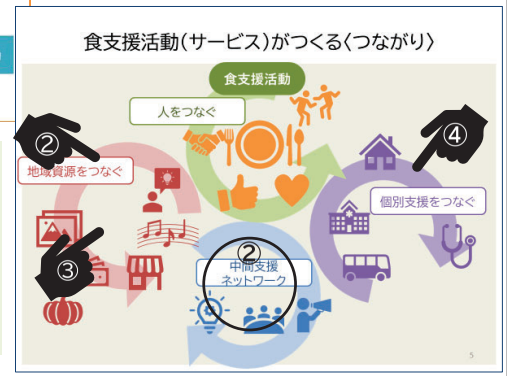
事例紹介(2):横浜市栄区社協+上郷東連合自治会
移動販売が来る公園で広がる地域交流




①丘の上の団地で、車を運転しないと買い物が不便

②A)丘の下のダイエー店舗から、団地内の公園に移動販売車が来る

②B)区社協が地域福祉活動(「見守り」「コミュニティの創出」「健康支援」)に位置づけることで、各地区での実施が可能となる




②C)当地区の連合自治会が手を挙げて開始。当日は、住民が商品の陳列用に公園内の防災倉庫から机や椅子を出してレイアウトする。

③可能性)現在、障がい者施設もパン等を販売しており、マルシェへの広がりも期待される。

④当日、SCのほか、民生委員、社協職員も参加し、交流を通じた見守りの場となっている

事例報告①
香川県三豊市

# 小学校での朝ごはん提供「下小モーニング」




下高瀬地区社会福祉協議会 理事/みの元気塾塾長
関 博氏
三豊市社会福祉協議会 地域福祉推進課
上村 早紀子氏

## 基本情報

**活動メンバー**
- PASボランティアみの
- 食生活改善推進員
- 民生委員児童委員

**開催場所**
開催：下高瀬小学校家庭科室
調理：太陽の家／みの元気塾

**活動内容**
- 下高瀬小の生徒を対象に
今年9月から朝ごはんを提供。
事前申込制で、１回で50食ほど
無料提供。




## 活動を始めたきっかけ

1 「みの元気塾」のコンセプト
→ひとり暮らしのお年寄りの元気には
〝食〟と〝多世代交流〟がカギ

2 地域の集まりの場で「早寝早起き朝ごはん」について話題に

→

## 活用したアセット/地域資源

1
・PASボランティア
・食生活改善推進員
・民生委員児童委員
＜人＞

2
・三野町保健センター
太陽の家
・小学校(家庭科室)
＜場所＞

3
・地区社協の助成
＜カネ＞

4
・小学校、校長
＜人＞




# 常設サロン「みの元気塾」

令和4年12月

## みの元気塾の内容

・設置地域 ： 三豊市三野町、平均的農村
　　人口1万弱、ひとり暮らし高齢者150人
・場　　所 ： 町中心の三野町保健センター
・規　　模 ： 建坪121㎡、独立平屋ワンルーム
・開 塾 日 ： 月、水、金、10時～15時
・利用料　 ： 無料
・使用制約 ： 特になし、誰でも、自由に、予約なし
・イベント開催 ： 4～5回/月開催、高齢者、こども
・食事提供 ： 定食30～50食/日、400円、飲み物



保健センター内　太陽の家

## みの元気塾の事業内容

▪イベントの企画、実行 ： 4～5回/月、展示会、
▪昼食の提供 ： 日替定食400円/食
・介護予防事業 ： 地域包括支援センタ委託事業
▪オレンジかふぇ ： 地域包括支援センタ委託事業
・配食サービス ： 高齢者に昼食20人程度（2回/週）
・高齢者見守り ： 1～2回/週見守り訪問
・こども寺子屋 ： 夏休み10日程度寺子屋開催
・こども食堂、親子食堂： 25回/年、100日/年
・学用品リユース ： 町内幼稚園、小、中学校用品

## 設立までの経緯

・トリガー　：　孤独死、高齢者の増加
　　民生委員、社協で常設サロン必要性痛感
・検討メンバー　：　民生委員、社協の3名
　　審議組織は社協連絡会、福祉活動実行委
・コンセプト　：　ひとり暮らしの居場所をベース、
　　こども、若い母親、身障者だれでも利用
　　組織の自立のため、食事、物品販売可
・検討内容　：　経営母体、運営メンバー場所の選定
・開塾　　：　平成25年2月スタート

## 運営組織

・運営組織「みの元気塾」立ち上げ
　地区社会福祉協議会と地元PASボランティアで
　現在メンバー17名、70代女性主体
・運営　　3～4名／日の当番制
　　清掃、食事の提供、イベント開催
・広報　　毎月チラシ配布、防災無線、カレンダー
・支援　　三豊市健康福祉部、市社協、まちづくり推進
　　隊みの、公民館、子どもゆめ基金、各福祉
　　財団、地域の企業や個人

## 運営状況（令和3年度実績）

・開塾日　：　134日
・イベント回数　：　35回
　コロナの第四波、第五波、第六波で活動制限される。
　昼食の提供が出来ず、弁当方式で配食サービス、こども食堂は継続、こども寺子屋、こどもイベントは実施
・利用者　：　5200人（最盛期の7割程度）
　配食サービス　：　26人、1，320食
　子ども寺子屋　：　9日、参加者350人
　こども食堂　：　24回、560人
　親子食堂　：　100回、200組
・新規事業　：　学用品リユース（福祉のまちづくり会みの/市社協事務局）

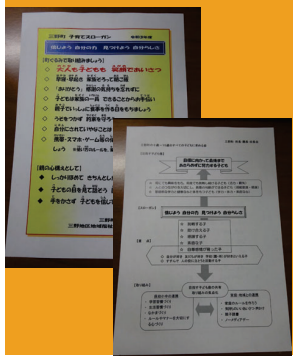

夏休みこども寺子屋


親子食堂


手まり教室


弁当

## 実施経緯



- 従来より『三野町子育てスローガン』で朝ごはんの重要性認識
  （社協/三野地区地域福祉活動計画に盛り込み、毎年スローガン町内全戸配布）
- 令和3年 地域の集まりの場で朝ごはんを食べない子がいることが話題になる
- 令和4年2月朝ごはん提供の先進事例勉強（社協と共同）
- 令和4年3月学校運営協議会で検討 キックオフ
- 実施グループの選定と検討会（3グループ合同）
- 令和4年7月学校長と打合せ　基本了解
- 令和4年9月具体的実施打合せ




## 実施要領



- 対象者：下小全校生
- 場所：小学校家庭科室
- 時間：７：１５～７：４５
- 頻度：毎週月曜日　3回／月程度
- 内容：おにぎりorパン+汁物+1品
- スタッフ：3グループ持ちまわり
  （PASﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ、民生委員、食改）

## 実施工程

- メニューは各グループで事前決定
- 1か月前に申込で予定数決定
- 木、金曜日は材料準備

【当日】
- ６：００～　調理開始（みの元気塾）
- ６：４５～７：００　学校へ搬入
- ７：１５～７：４５　朝ごはん提供
- ８：１５　片付け完了
- ８：１５～９：００　スタッフ食事しながら反省会（みの元気塾）



## 実施状況

- 9月1回、10月2回、11月3回　実施
- 参加者　４０～５０名／回 程度（全児童数184名）
- 内容は　「おにぎり、一品、みそ汁」
  「サンドイッチ、スープ」　　等
- 食事量は選択制を採用
- 概ね好評に推移
- スタッフは６～８名で実施（各グループ）

## 参加者及び保護者意見

おにぎりやサンドイッチの数や大きさを自分で選べるようにしました。

- 友だちと一緒に美味しい朝ご
- ごはんは美味しいが量が多い。
- 朝ごはんは食べていますが少食です。しっかり食べたようで良いです。
- 時間が短い様で、もう少しゆっくり食べられるといいです。
- 朝ごはんを食べる日 ていきました。

友達を待って来ていた子もいましたが、徐々に登校順に一人でも来れるようになってきました。

- 家では野菜を食べないけど、学校の朝ごはんではちゃんと食べているようでうれしいです。
- いつも美味しかったと喜んでいます。地域の人と会えるのも嬉しいようです。
- っているので、一度

最初は恥ずかしそうにしていた子も、徐々に挨拶の声が大きくなり、「今日のごはん何～！？」と声も聞かれるようになりました。



色々な学年が交ざります



おかわりは個別に・・







「この後マラソンやから！」と少し控えめに食べたり・・



食べ終わったら教室へ・・「頑張っておいで」と見送られます

# コロナ禍で影響を受け
# サロン活動から
# 配食弁当による見守り活動へ

～地域の助け合い活動団体の活動を応援する～

鹿児島県
社会福祉法人　隣の会　理事長　齋藤　鈴子
鹿屋市地域包括支援センター　2層SC　松元まゆみ

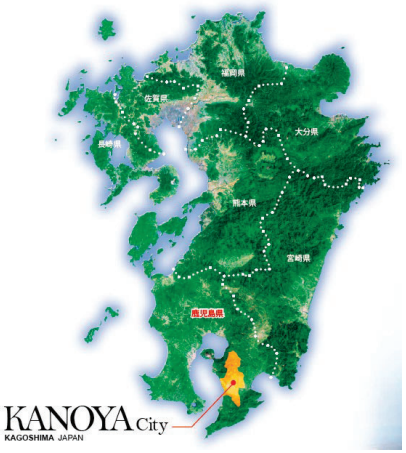
## 鹿屋市の概要

【位置】鹿屋市は、本土最南端へと伸びる大隅半島のほぼ中央に位置し、大隅地域の交通・産業・経済・文化の拠点となっています。

【地勢】市域北部には、日本の自然百選にも選ばれている壮大な高隈山系が連なり、市域北東部は山林地帯となっています。また、その南側には、国営第1号の畑地かんがい施設をもつ笠野原台地や肝属平野が広がり、市域中央部にかけて平坦地が続いています。
市域西部は、錦江湾に面しており、美しい海岸線が見られ、さらに、市域南部は、神代三山陵の一つである吾平山上陵を有する山林地帯となっています。

【面積】総面積：448．33㎢

【人口】総人口：約10万人








## 団体の紹介

社会福祉法人 隣の会（以下、隣の会）は、鹿児島県鹿屋市笠之原町で活動する団体です。鹿屋市は大隅半島のほぼ中心地に位置し、人口約10万人、高齢化率30%です。平成11年に任意団体として活動を開始し、平成13年にNPO法人格を取得、令和4年2月に社会福祉法人へ移行しました。

「困った時はお互いさま。助けられたり、助けたり」を理念にし、当初より助け合い活動を軸として、有償ボランティア、平成24年から高齢者向けサロン、平成26年からにじいろ喫茶をオープンして地域づくりに取り組んできました。

現在、鹿屋市生活支援体制整備アドバイザーの委嘱を受けて、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターと会議を重ねて、助け合い活動を進めるお手伝いをしています。



## 高齢者サロン（ふれあいサロン川西）の紹介

平成24年から始めたふれあいサロン川西は、隣の会のボランティアによりランチを提供する事、地域の方が歩いて参加ができる高齢者を対象にすること、参加料300円、米1合と決め開始しました。

当初から、町内会の協力をいただき、サロンがある日に、町内会放送でお知らせを流して頂くことや、民生委員が必ず自主的に参加していただくなど、協力して15名～20名の高齢者が楽しく笑い、美味しい食事の提供を行っていました。

しかし、コロナ禍での影響を受け、毎月1回のサロン活動もままならず、活動が出来なくなりました。少し感染が下火になっても、感染の不安が残り活動再開状況が続く中で、「いつから始まるの」と高齢者の声に、活動が難しいなら見守りを兼ねて、弁当を配達できたら安心して会うことができ、会話もできる事を話し合いました。

令和3年に、新型コロナウイルスの影響を受ける住民参加型在宅福祉サービス支援助成に、応募したところ、日本NPOセンターから助成金をいただくことができて、冷蔵庫、ガスコンロなど必要な設備、備品が整い配食弁当を、開始することができました。

## 「結」 配達弁当

・利用される方：在宅で生活されている高齢者や障害者。
・配達日：毎週火曜日に夕食弁当をお届けします。
・配達はボランティアシニアがお届けします。

利用方法について、
1，登録申し込み　登録代100円
2，助け合いチケットの購入(前払いになります)
　配食弁当代500円
　1ヶ月4回分×2000円






## 配達弁当事業成果

【事業の実績（令和3年12月から令和4年11月までの1年間）】

■ 事業参加者：延べ1,571人　■ 1回あたりの配食数：約30食
■ 隣の会シニアスタッフ・ボランティアの人数：延べ188人　■ 1回あたりのスタッフ・ボランティア数：4～6人
■ 実施回数：50回（毎週火曜日）

**【事業の成果】**

・当初は 配食が本当にできるか、不安な部分も見られたが、備品が揃い準備が整ったことで、スタッフが配食弁当の意識を持つことができ、毎週欠かさず楽しく食事作りができている。
・ 弁当を開けた時に、喜んで美味しく食べてほしいと、盛り付けを丁寧にするよう気をつけており、配食の利用者も楽しみにしている。
・配達のスタッフ・知り合いの方が弁当配達をしていることへの安心感も、高齢者の家族から寄せられている。

## 活動を始めたきっかけ

新たに始めた弁当配達「結」の活動で得たノウハウを生かしたい

1，食事を通じて交流をする「サロンで調理ボランティア」を提案する。
　・ランチを提供することで、サロンに来る楽しみがあり、サロン活動が継続できる。
　・食事作りに必要な調味料などの提供の提案、調理ボランティアの派遣。

2　市内のサロンで食を提供する活動が少ない。
　コロナの影響・担い手高齢化による食の活動の停滞。

　1，毎月SC会議に参加してSCから聞いた内容で感じていたこと。
　　地域でサロン活動をされているが、食事の提供ができていないサロンが多い。
　2，理由
　　サロン参加者より、「みんな同じ高齢者の集まりなのに、食事を作ると負担が大きい。」
　3、食事を作る仕組みがあれば
　　「みんなで集まって食事ができれば嬉しい、楽しいと思っている。」
　　「参加者は女性の高齢者が多いが、食事があれば男性が参加しやすく人数が増える。」

## サロンで調理ボランティア

**あなたのサロンで美味しい料理を調理します。**

サロン活動をしている高齢者グループに、調理ボランティアで美味しい食事を提供したい隣の会と、地域サロンの様子を知っている、生活支援コーディネーターと、社会福祉協議会、行政担当者と共同で活動を進めています。



## 調理ボランティア事例①

### ■末次サロン





日　時：令和3年12月17日（金）10:30 － 13:30

場　所：下名東ふれあいセンター

参加者：サロン参加者12名

**作ってもらいたい食事：豚汁、混ぜご飯、から揚げ、酢の物**

・初めての試みのため、サロン参加者1人1品づつ食材を持ち寄りする。

・調理ボランティアも設備等に不安があり、料理を作ってサロンに届ける。

・初めての出会いの中で、サロンの皆さんに料理を喜んで頂き、盛り付けしながら会話が弾み、美味しい食事を提供することができた。

## 調理ボランティア事例②

### ■池久保サロン





日　時：令和4年9月29日（木） 9:30 － 12:00

場　所：池久保集会所

参加者：サロン参加者9名

**作ってもらいたい食事：八宝菜、かき玉汁**

**・材料はサロン参加者で準備、調味料は持参する。**

・池久保サロンは独居の高齢者（男性）が多い為に、通常はサロンの代表者が簡単な食事を提供している。

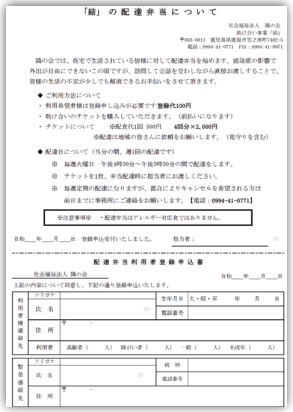
・代表者よりたまには人に作ってもらった料理を食べたいとの依頼がある。

・家庭では作らない中華料理の希望があり、調理ボランティアが調理を担当。

・食事風景では、皆さんが美味しそうに食べる場面や 笑顔が沢山見られました。

※当日、行政職員はじめ担当者が活動参加あり。

## 参考資料



「結」の配達弁当について

社会福祉法人 隣の会

隣の会では、在宅で生活されている皆様に対して配達弁当を始めます。感染症の影響で外出が自由にできないこの頃ですが、訪問して会話を交わしながら直接お渡しすることで、皆様の生活の不安が少しでも解消できるお手伝いをさせて頂きます。

◆ ご利用方法について
・ 利用者登録様は登録申し込みが必要です 登録代100円
・ 格子合いのチケットを購入していただきます。（値引いになります）
・ チケットについて　①配食代1回 500円　4回分×2, 000円
②配達は地域の皆さんに依頼をお願いします。（見守りを含む）

◆ 配達日について（当分の間、週1回の配達です）
※ 毎週火曜日　午後1時30分～午後3時30分の間で配達をします。
※ チケットを1枚、弁当配達時に担当者にお渡しください。
※ 毎週定期の配達になりますが、都合によりキャンセルを希望される方は前日までに事務所にご連絡をお願いします。【電話：0994-41-0771】

※注意事項※　・配達弁当はアレルギー対応食ではありません。

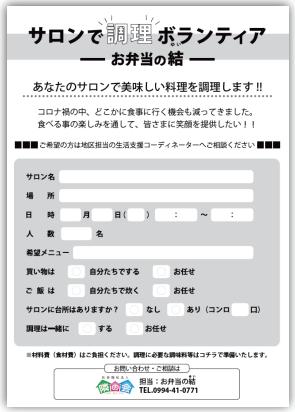
令和　年　月　日　登録申込受付いたしました。　担当者：

配達弁当利用者登録申込書

社会福祉法人 隣の会　　令和　年　月　日

上記の内容について同意し、下記の通り登録申込いたします。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 利用者連絡先 | フリガナ | | 生年月日 大・昭・平　年　月　日 |
| | 氏名 | ㊞ | 電話番号 |
| | 住所 | 〒 - | |
| | 利用者 | 高齢者（　人）障がい者（　人）一般（　人）未成年（　人） | |
| 弁当配達先 | フリガナ | | 続柄 |
| | 氏名 | ㊞ | 電話番号 |
| | 住所 | 〒 - | |



サロンで調理ボランティア
── お弁当の結 ──

あなたのサロンで美味しい料理を調理します!!

コロナ禍の中、どこかに食事に行く機会も減ってきました。
食べる事の楽しみを通して、皆さまに笑顔を提供したい！！

■■■ご希望の方は地区担当の生活支援コーディネーターへご相談ください■■■

サロン名
場　所
日　時　月　日（　）　：　～　：
人　数　名
希望メニュー
買い物は　自分たちでする　お任せ
ご 飯 は　自分たちで炊く　お任せ
サロンに台所はありますか？　なし　あり（コンロ　口）
調理は一緒に　する　お任せ

※材料費（食材費）はご負担ください。調理に必要な調味料等はコチラで準備いたします。

〈お問い合わせ・ご相談は〉
隣の会 お弁当の結
TEL.0994-41-0771

配達弁当利用者登録申込書　　調理ボランティア申込書

## ご清聴ありがとうございました

社会福祉法人
隣の会
RIN NO KAI

生活支援コーディネーター研修

**食のちからで地域を豊かに**

**事例から考える「食」のアクションプラン**

＜日時＞ 2023 年 1 月 20 日(金) 13:00～16:20

＜方法＞ Zoomによるオンライン開催

https://us02web.zoom.us/j/86896456718?pwd=OUp3My9LcEMvSHVTaVE4NUlXb09zdz09

ミーティング ID: 868 9645 6718　　パスコード: 493326

| 時間 | 内容 | ご登壇 |
|---|---|---|
| 13:00～13:10 | 事務局アナウンス<br>●ご挨拶・この研修のねらい | **内藤 佳津雄 氏**<br>（日本大学文理学部教授） |
| 13:10～13:35 | ●講義①<br>「食支援活動における必要な支援とは」 | **平野 覚治 氏**<br>（全国食支援活動協力会専務理事） |
| | ●講義②<br>「多様な食支援サービスとその可能性」 | **清水 洋行 氏**<br>（千葉大学人文科学研究院教授） |
| 13:35～14:30<br>各 15～20 分程 | ●事例①神奈川県横浜市<br>「お互いさまねっと公田町団地『食』と『見守り』の取り組みについて」 | **有友フユミ 氏**<br>（NPO 法人お互いさまねっと公田町団地理事長）<br>**矢澤美穂 氏**<br>（横浜市桂台地域ケアプラザ 生活支援コーディネーター） |
| | ●事例②大阪府富田林市<br>「『わっくCafé』の取り組み」 | **岡本聡子 氏**<br>（一般社団法人わっく金剛理事 ） |
| | ●事例③高知県高岡郡四万十町<br>「十和おかみさん市」 | **居長原信子 氏**<br>（株式会社十和おかみさん市代表取締役）<br>**佐々倉玲於 氏**<br>（一般社団法人いなかパイプ代表理事） |
| 14:30～14:45 | ●解説<br>「事例報告からの学び」 | **目﨑 智恵子 氏**<br>（群馬県高崎市第 1 層生活支援コーディネーター主管課：高崎市長寿社会課） |
| 14:45～14:55 | ＝休憩＝ | |
| 14:55～16:15 | ●質疑応答・意見交換<br>※ブレイクアウトルームに分かれます | 進行　**内藤 佳津雄 氏** |
| 16:15～16:20 | 事務局アナウンス | |

本研修は下記事業として実施するものです。

令和4年度老人保健健康増進等事業「生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究」

# 「食支援活動における必要な支援とは」

2022年度　食支援活動をめぐる
中間支援の現状と課題に関する調査より

一般社団法人 MEALS ON WHEELS JAPAN
全国食支援活動協力会

## 全国食支援活動協力会とは



1986年高齢者配食サービス・会食会の
連絡組織として設立しました。

全国各地で食支援活動を展開する市民活動団体の自主性と相互扶助を尊重し、活動団体のサポートを通じてあらゆる世代の豊かな食環境の整備をめざします。

地域福祉と健康の増進に向けて、横断的で学術的な視点をもって産官学民のネットワークを推進し、豊かな地域福祉社会づくりに貢献します。



## 私達が全国への食料支援を通じて支援する地域の居場所

食を通じたコミュニティを生み出しています。



**配食サービス**
利用者の自宅まで食事を配達し、安否確認を行います。家事の負担軽減や栄養バランスの改善を目的としています。



**コミュニティカフェ**
来たい人が自由に出入りできて、食事のできる地域の居場所。コミュニティレストランとなっているところもあります。



**会食会**
集まって一緒に食事と会話を楽しむスタイル。住民が主体的に食を通じたコミュニケーションの場をつくっています。



**子ども食堂**
孤食の解消、共食体験の提供、学習支援等テーマは様々。食を通し地域で子どもの成長を見守る取組みです。



**料理教室**
高齢者や男性を対象にした料理教室。介護予防の観点から元気なうちに調理技術と知識を身につけることが狙いです。



**食育活動**
食文化の継承や介護予防、子どもの健やかな成長に向けて、食べ物と栄養についての知識を深める取組みです。



ほか母子生活福祉施設や
養護施設など、
食を通した居場所づくり
活動に取り組む団体を
支援しています

## はじめに：調査概要

**実施主体**

一般社団法人 全国食支援活動協力会
千葉大学人文科学研究院 清水洋行研究室

**アンケートの背景**

昨年から続くコロナ禍において、各地の食支援活動が、活動方法の見直しなどのさまざまな影響を受けていること。
地域によって、活動団体が活用している社会資源や中間支援団体との関わりに異なりがみられること。

**アンケートの目的**

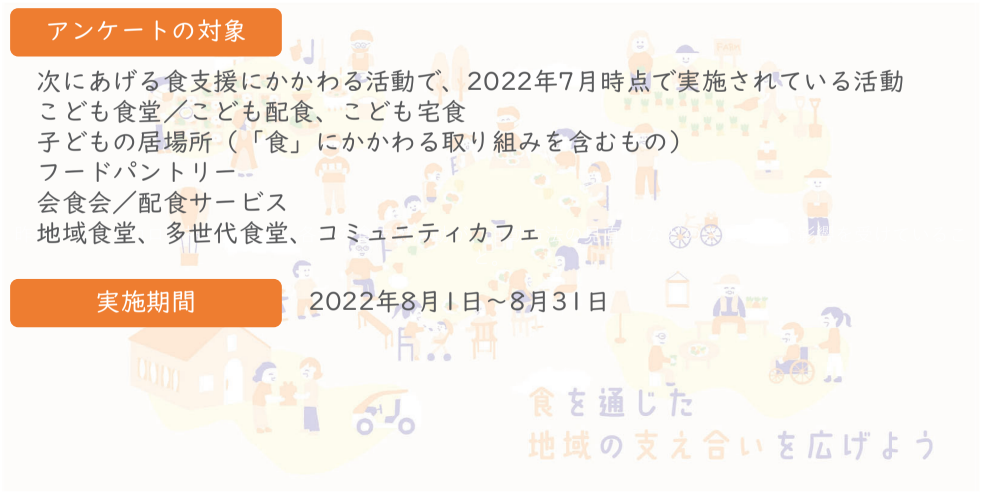
食支援活動をめぐる中間支援の現状と課題を把握し、団体支援に生かす中間支援のあり方を検討するための資料とすること。

## はじめに：調査対象

**アンケートの対象**

次にあげる食支援にかかわる活動で、2022年7月時点で実施されている活動
こども食堂／こども配食、こども宅食
子どもの居場所（「食」にかかわる取り組みを含むもの）
フードパントリー
会食会／配食サービス
地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ

**実施期間**　2022年8月1日～8月31日




## 本アンケートへの回答活動

こども食堂が約4割（42.3%）、フードパントリーが約2割（21.1%）、子どもの居場所（「食」に関わる取り組み）が1割強（13.6%）で、合計するとこれらが約4分の3（77.0%）を占める

| **回答団体が実施している活動**（複数回答） | | N＝758 |
|---|---|---|
| | 団体数 | 割合（%） |
| こども食堂 | 515 | 67.9 |
| こども配食、こども宅食 | 227 | 29.9 |
| 子どもの居場所（「食」にかかわる取り組みを含むもの） | 412 | 54.4 |
| フードパントリー | 498 | 65.7 |
| 会食会 | 88 | 11.6 |
| 配食サービス | 115 | 15.2 |
| 地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ | 245 | 32.3 |
| 合計 | 758 | 100.0 |

## 回答活動のプロフィール

**活動の経緯**　コロナ禍で開始されたものが約3分の1（33.2%）。「コロナ禍前と別のかたちで実施している活動」（25.1%）とあわせると、**コロナ禍後に開始された活動が約6割（58.3%）**

**活動対象地域**　「市町村の全域」と「市町村の一部」を合わせた**約4分の3（76.2%）が市町村内で活動している。**

**活動頻度**　**月に1日程度～数日**が約6割（64.3%）を占める。

**提供食数**　約半数（50.9%）が50食未満

## 活動の年間支出額（2021年度）

・支出が50万円未満の活動が約半数（52.0%）
・支出が100万円未満の活動が約7割（68.5%）

| | 度数 | パーセント |
|---|---|---|
| なし | 69 | 9.1 |
| 10万円未満 | 118 | 15.6 |
| 10万円以上30万円未満 | 158 | 20.8 |
| 30万円以上50万円未満 | 118 | 15.6 |
| 50万円以上100万円未満 | 125 | 16.5 |
| 100万円以上500万円未満 | 134 | 17.7 |
| 500万円以上1000万円未満 | 17 | 2.2 |
| 1000万円以上 | 19 | 2.5 |
| 合計 | 758 | 100.0 |

## 65歳以上の人の割合

・約６割（59.5%)の活動が高齢者にも食事・食品を提供している
・多くの元気高齢者が担い手として参画しやすい活動である

**利用者として**

| | 度数 | % |
|---|---|---|
| なし | 307 | 40.5 |
| 2割未満 | 301 | 39.7 |
| 2～4割程度 | 71 | 9.4 |
| 半数程度 | 26 | 3.4 |
| 6割以上 | 53 | 7.0 |
| 合計 | 758 | 100.0 |

**ボランティアとして**

| | 度数 | % |
|---|---|---|
| なし | 157 | 22.1 |
| 2割未満 | 200 | 28.2 |
| 2～4割程度 | 75 | 10.6 |
| 半数程度 | 64 | 9.0 |
| 6割～8割程度 | 89 | 12.5 |
| 8割以上 | 102 | 14.4 |
| すべて | 23 | 3.2 |
| 合計 | 710 | |

※非該当、不明･無回答を除く

## 利用者の紹介や利用者への支援について、相談したり連絡を取った地域団体や機関等

| | 回答数 | パーセント(%) |
|---|---|---|
| 教育委員会 | 111 | 14.8 |
| 児童相談所 | 69 | 9.2 |
| 要保護児童対策地域協議会 | 52 | 6.9 |
| 母子・父子福祉団体 | 71 | 9.5 |
| 民生委員児童委員協議会 | 104 | 13.8 |
| 民生委員・児童委員 | 283 | 37.7 |
| スクールソーシャルワーカー | 139 | 18.5 |
| PTA | 81 | 10.8 |
| 小学校、中学校、高校 | 304 | 40.5 |
| 自治会・町内会 | 231 | 30.8 |
| 地域包括支援センター | 160 | 21.3 |
| 介護保険サービス事業所 | 58 | 7.8 |
| 生活支援コーディネーター | 82 | 10.9 |
| その他 | 59 | 7.9 |
| 相談・連絡した団体等はない | 180 | 24 |

## 中間支援との関わりにかんして

回答活動に関して連絡・登録している中間支援団体・ネットワーク

今回の回答活動は、社協(73.1%)、何らかの食支援活動の中間支援団体やネットワーク(66.4%)、フードバンク等の食材・食品を仲介する団体やネットワーク（58.8%）と日頃つながりのある活動の割合が高い。

| | 回答数 | 割合 |
|---|---|---|
| 社会福祉協議会 | 554 | 73.1 |
| 食支援関連の中間支援団体・ネットワーク※ | 503 | 66.4 |
| フードバンク等、食材・食品を仲介する団体やネットワーク | 446 | 58.8 |
| NPO支援センター、市民活動センター | 176 | 23.2 |
| その他のネットワーク・連絡会・中間支援団体 | 9 | 1.2 |
| 特にない | 21 | 2.8 |

※こども食堂サポートセンター（全国・福島・大阪・北九州・那覇）、全国食支援活動協力会を含む、食支援団体を支援する中間支援団体・ネットワーク。

## 中間支援との関わりにかんして

| | 全体 | 複数の市町村 | 市町村の全域 | 市町村の一部 |
|---|---|---|---|---|
| 社会福祉協議会 | 72.7% | 73.7% | 71.1% | 73.3% |
| NPO支援センター、市民活動センター | 23.3% | 29.8% | 22.1% | 20.8% |
| こども食堂サポートセンター（全国・福島・大阪・北九州・那覇） | 25.7% | 19.3% | 19.6% | 33.1% |
| 全国食支援活動協力会 | 30.0% | 34.5% | 31.1% | 27.0% |
| フードバンク | 58.6% | 64.9% | 62.1% | 53.1% |
| 上記以外の食支援に関わる中間支援団体・ネットワーク | 36.7% | 36.8% | 40.0% | 34.3% |
| その他の中間支援団体・ネットワーク | 1.2% | 0.6% | 0.0% | 2.3% |

※「全体」は合計より「その他」を引いた割合

## 中間支援団体・行政からの支援・助言を受けた活動

| | 4位 団体・活動の立ち上げ・持続 | | 3位 食品・食材の衛生・安全 | | | | 1位 食材・食品の寄付関係 | 5位 地域資源とのつながり | | 2位 助成、補助、委託関係 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 場所・施設・道具 | | 活動のスキル | 利用者の募集・受入 | ボランティア募集・受入 | | | 職員の採用・労務管理 | | 法律、規制、制度・政策 | 行政への要望 |
| 特に必要なし | 19.1 | 31.3 | 18.2 | 26.0 | 27.4 | 33.3 | 7.3 | 21.6 | 53.7 | 10.8 | 28.7 | 27.1 |
| 社会福祉協議会 | 48.0 | 33.5 | 32.1 | 31.6 | 40.6 | 47.3 | 54.1 | 52.4 | 11.5 | 51.5 | 25.1 | 24.6 |
| NPO支援センター、市民活動センター | 12.0 | 7.9 | 7.9 | 10.2 | 8.8 | 10.9 | 15.4 | 12.0 | 5.5 | 13.2 | 8.2 | 6.2 |
| こども食堂サポートセンター（全国・福島・大阪・北九州・那覇） | 13.5 | 6.8 | 15.2 | 14.7 | 7.9 | 6.0 | 23.2 | 7.6 | 3.7 | 14.5 | 8.6 | 6.9 |
| 全国食支援活動協力会 | 6.7 | 5.4 | 8.8 | 4.8 | 1.8 | 1.4 | 19.9 | 4.0 | 0.9 | 10.8 | 3.5 | 2.9 |
| その他のネットワーク・連絡会・中間支援団体 | 26.3 | 17.6 | 28.0 | 34.5 | 22.4 | 17.3 | 45.2 | 26.3 | 7.5 | 28.0 | 19.6 | 16.8 |
| 都道府県や市町村 | 30.9 | 33.5 | 34.4 | 17.1 | 33.9 | 16.9 | 23.2 | 32.8 | 9.8 | 42.3 | 29.1 | 36.2 |
| 2～7のいずれもなし | 14.5 | 26.9 | 13.9 | 24.1 | 25.9 | 30.4 | 7.5 | 20.2 | 73.6 | 14.1 | 34.5 | 36.2 |
| 「特になし」の有効回答数 | 752 | 751 | 754 | 753 | 751 | 754 | 757 | 756 | 752 | 756 | 753 | 753 |
| 上記以外の選択肢の有効回答数 | 608 | 516 | **617** | 557 | 545 | 503 | **702** | 594 | 348 | **674** | 537 | 549 |

## 活動継続にむけての課題

| 活動の継続にむけての課題（3つまで選択） | N＝746 |
|---|---|
| 団体・活動の立ち上げ・維持 | 24.7 |
| 活動場所、施設・道具 | 22.0 |
| 食材・食品の安全・衛生 | 12.9 |
| 活動のやり方・スキル | 13.3 |
| 利用者の募集・受入れ | 19.8 |
| ボランティアの募集・受入れ | 20.2 |
| 食材・食品の寄付 | 41.7 |
| 地域資源とのつながり | 31.4 |
| 職員の募集・労務管理 | 6.2 |
| 助成・補助・委託 | 33.9 |
| 法律、規制、制度・政策関係 | 3.5 |
| 要望・政策提言 | 9.9 |
| 特にない | 5.1 |

**活動の継続に向けての課題**

一位　食材・食品の寄付に関すること
二位　行政、社協、助成団体等からの助成・補助・委託に関すること
三位　地域資源とのつながりに関すること

**食材・食品の寄付に関することと、行政、社協、助成団体等からの助成・補助・委託に関することは、必要性も高い**ことがわかる。また、支援を受けている傾向が強かった「食材・食品の衛生・安全関係」と「団体・活動の立ち上げ支援」の代わりに「**地域資源とのつながり**」が三位になっており、より必要性が高い。

## まとめ　地域の「食」活動が継続するために

**食の居場所を通じた「誰もが参加者、誰もが主体者」となる地域社会を目指して**

・担い手の高齢化
・配食・フードパントリーを通した困難ケースへの対応の増加
・物価高騰による経費（食材・包材・水光熱費他）の増加
に対応し地域の生活支援サービスを豊かにするために

⇒多様な機関からなるネットワークを形成し、
専門機関との連携を促進するための
コーディネート機能が重要

全国食支援活動協力会では
各種研修の開催や
環境整備へ向け行政との
連携を推進しています

一般社団法人全国食支援活動協力会
専務理事　平野　覚治

電話：03-5426-2547
kakuzi@mow.jp

生活支援コーディネーター研修
**食のちからで地域を豊かに**
**事例から考える「食」のアクションプラン**

# 多様な食支援サービスとその可能性

2023年1月20日(金)

清水　洋行
(千葉大学 人文科学研究院)

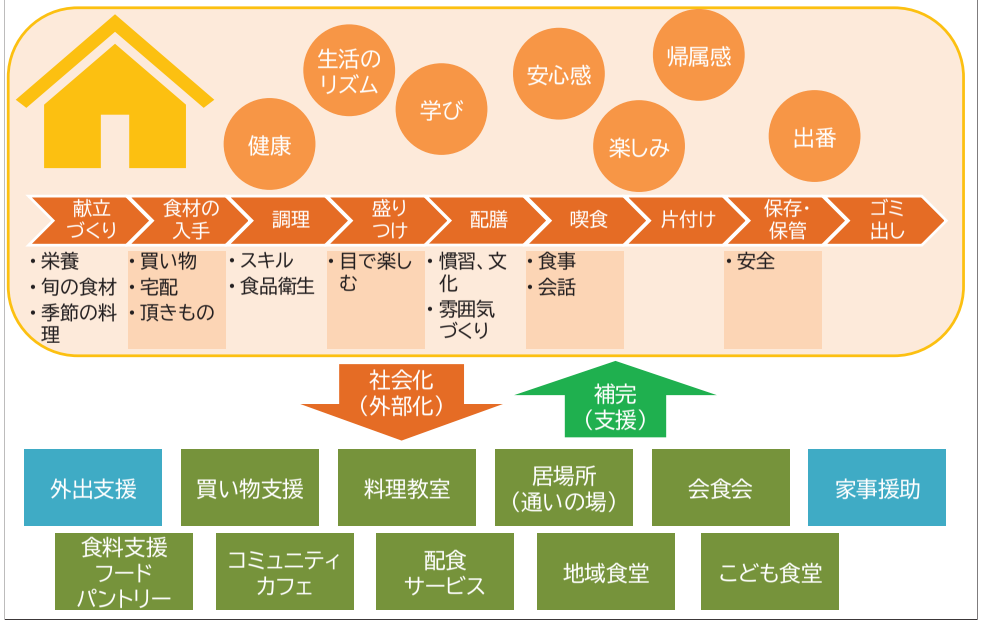


## 食支援活動(サービス)の種類

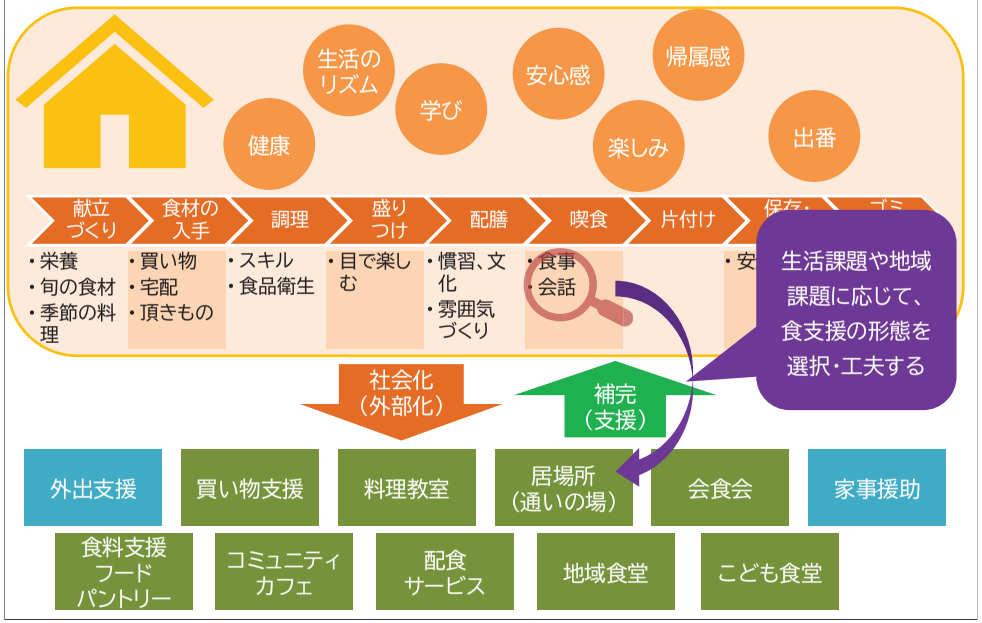



(資料)一般社団法人全国食支援活動協力会のホームページより

## 食支援活動(サービス)とは




## 食支援活動(サービス)とは



## 食支援活動(サービス)がつくる〈つながり〉




## 食支援活動(サービス)づくりに向けて
## :ニーズ重視とアセット重視

| | ニーズ重視 | アセット重視 |
|---|---|---|
| 着眼点 | ないもの | あるもの |
| 対応の仕方 | 不足を補う | 強みを伸ばす |
| 住民との関係 | 住民に向けて | 住民とともに |
| 住民参加の度合い | 低い | 高い |
| 時間幅 | 短い | 長い |
| 主な対象 | 個人 | コミュニティ |
| 評価の重点 | 客観性 | 主観性 |
| 基本的な問い | 「なぜ病気になるのか?」 | 「なぜ健康になるのか?」 |

(資料)一般社団法人 全国食支援活動協力会編集・発行『住民のやる気を支える支援の手引き』(2019年)p.49

## 地域資源マップ

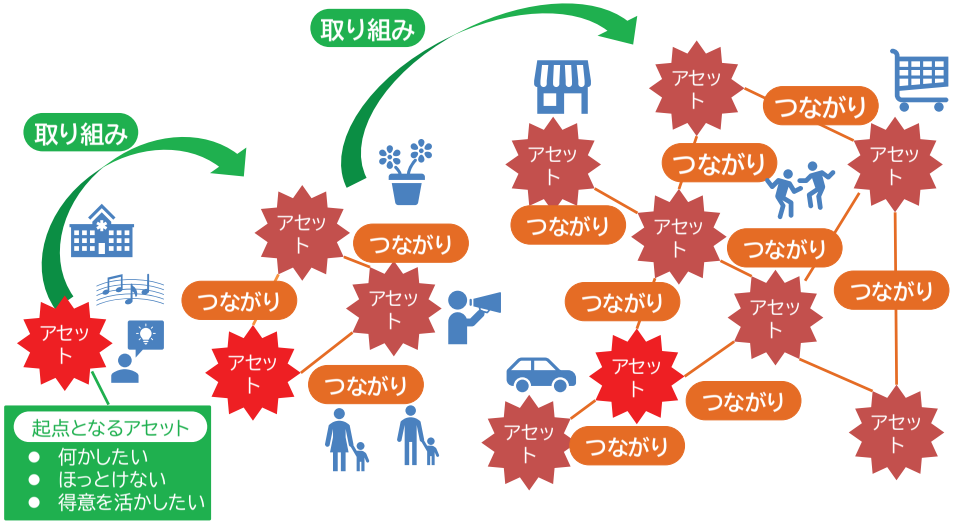
地域で眠っている／他の目的で使われている地域資源
➡ 取り組みに役立つ可能性を持つ資産(アセット)




(資料)一般社団法人 全国食支援活動協力会編集・発行『生活支援コーディネーターが住民のやる気を支える支援の手引き』2020年、pp.70-71。当団体のホームページの「資料ページ」(https://mow.jp/archive/index.html)よりダウンロード可(pdfファイル)

## アセット重視の「活動(サービス)」づくりのプロセス

雪だるま式に、少しずつアセットの輪を大きくしていく



# 事例紹介(1):こども食堂コスモス(福島県本宮市)
# 百歳体操のメンバーで始めたこども食堂

■概要
- 本宮市は古くから交通網が充実して宿場町として栄えた内陸の工業地帯。
- コスモスグループの拠点「お休み処コスモス」は、ＪＲ本宮駅近くの旧市街の中心部にある浦井代表が持っている店舗物件。健康体操（百歳体操）の講習会修了者で百歳体操コスモスを立ち上げ（2016年）。

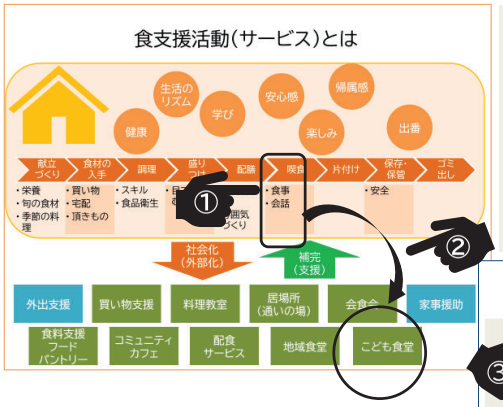
・百歳体操…隔週金曜日　10:00-10:30 体操、10:30-11:30 軽食とおしゃべり。参加費200円
・子ども食堂…隔週土曜日　11:00-14:00　18歳以下無料、大人300円。現在は弁当の配布となっている

■活動が立ち上がるきっかけ
- 得意を活かして地域に貢献したい
  - 保育園の給食調理の経験もある浦井さんは、得意を生かして子どものための活動（こども食堂）を始めたいと考えた。「元気なうちは地域の子どもたちのためにできることをしたい」
  - 百歳体操の仲間に相談したら賛成してくれた。「役立ちながらみんなで集まれる居場所にしたい」。

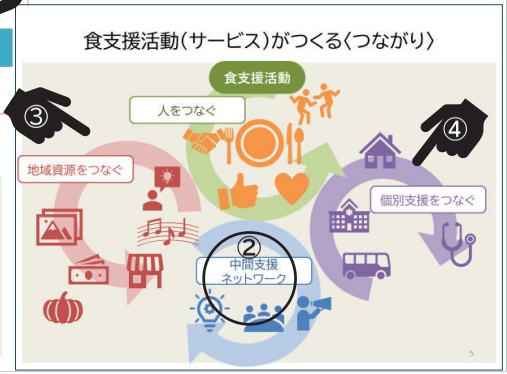
■この活動を成立させている資源と支援（SCや中間支援の関与）

**場**｜お休み処コスモス（代表所有の店舗物件）
**モノ・資金**｜本宮市子ども食堂運営補助金、企業・団体・個人からの食材の支援
**人**｜百歳体操のメンバー、古くから地域のつながりがある人たち
**情報・ネットワーク**｜社会福祉協議会、本宮市子ども福祉課、ふくしまこども食堂ネットワーク
**ＳＣや中間支援の関与**｜チラシ作りや広報の協力（ＳＣ）、様子を見に行く、事あるごとの声掛け（社協）、民間助成金申請の手伝いや推薦（子ども福祉課、ふくしま子ども食堂ネットワーク）

事例紹介(1):こども食堂コスモス(福島県本宮市)
百歳体操のメンバーで始めたこども食堂




①「子どもたちのために、得意を活かして食事を出したい」（でも、どのようなかたちがよいか。。。）
②A)県域の中間支援組織(一般型)が他市の活動を紹介する
②B)県域の中間支援組織(テーマ型)が、具体的な活動方法を伝える




③課題1):百歳体操の仲間で始めたが、自動車の運転ができるメンバーがいなくなった
④課題2):百歳体操はメンバー同士の助け合い(互助)を大切している活動だが、活動の主旨が十分に伝えられずに、新しい“利用者”が紹介されることがある

# 事例紹介(2):横浜市栄区社協+上郷東連合自治会
# 移動販売が来る公園で広がる地域交流

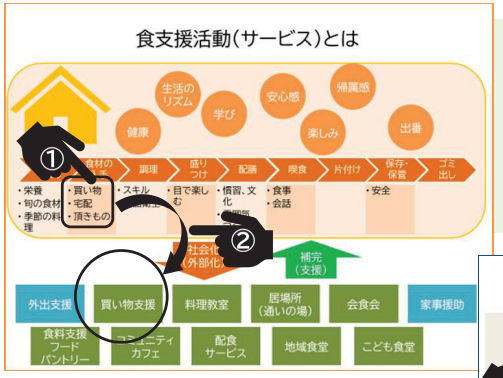
■概要
- 栄区上郷東地区は1970年代に開発された丘の上の住宅地。丘の下の商店街まで距離があり、車を運転しない高齢者には不便な地域。75歳以上が7割を超し、高齢者世帯または独居が多い。
- ダイエーからの打診をきっかけに、社協が〈見守り／コミュニティの創出／買い物支援／健康支援〉を目的とする仕組みとして設計し、各区の自治会や民生委員・児童委員等に説明。手を挙げた連合自治会単位で取り組む。当地域が最初で、2019年より、丘の下にあるダイエーの店舗から移動販売車を運行。
  - 運行日：毎週火曜日　10:30-11:00
  - 参加店舗：ダイエーの店舗（食品・日用品）。福祉作業所（パンなど）
  - 住民の役割：商品を並べる机の用意、声掛けと交流、重い荷物は自宅まで運ぶなど。毎回10名以上参加。
  - 商品の種類や値段：港南台店と同じ商品を扱い、値段は変わらない。肉魚、野菜などの生鮮品も多品目。手数料が5点55円（55円が上限）。2層ＳＣも必ず参加し、見守りや地域理解の機会となっている。

■活動が立ち上がるきっかけ
- 地域の高齢化、買い物の困難。

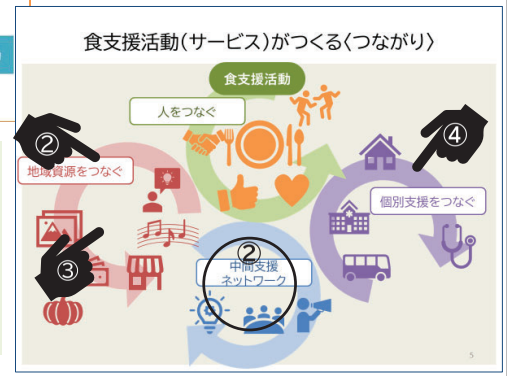
■この活動を成立させている資源と支援

**場**｜**近隣**公園（公園内に車を乗り入れるには区の許可が必要）
**モノ・資金**｜防災備品の長机など。
**人**｜自治会のメンバー、民生委員・児童委員、高齢者クラブほか
**情報・ネットワーク**｜栄区社協、ケアプラザ（区の福祉拠点）、ダイエー
**ＳＣや中間支援の関与**｜社協の重点事業でもあり、チラシのポスティング、回覧板などでの広報。防災や保健師の参加など情報のキャッチと発信に有効だと考えている。

事例紹介(2):横浜市栄区社協+上郷東連合自治会
移動販売が来る公園で広がる地域交流




①丘の上の団地で、車を運転しないと買い物が不便
②A)丘の下のダイエー店舗から、団地内の公園に移動販売車が来る
②B)区社協が地域福祉活動(「見守り」「コミュニティの創出」「健康支援」)に位置づけることで、各地区での実施が可能となる




②C)当地区の連合自治会が手を挙げて開始。当日は、住民が商品の陳列用に公園内の防災倉庫から机や椅子を出してレイアウトする。
③可能性)現在、障がい者施設もパン等を販売しており、マルシェへの広がりも期待される。
④当日、SCのほか、民生委員、社協職員も参加し、交流を通じた見守りの場となっている

# 参考


- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『住民のやる気を支える支援の手引き』（2019年）
- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『生活支援コーディネーターが住民のやる気を支える支援の手引き』(2020年)
- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『ここがあることで地域が豊かになる住民主体の居場所ガイドブック』(2021年)
- 一般社団法人全国食支援活動協力会編集・発行『事例でわかる 地域アセット活用ガイドブック 生活支援コーディネーターの居場所づくり・つながりづくりを応援』(2022年)
- Kretzmann, John P. and McKnight, John. Building Communities from the Inside Out: A Path toward Finding and Mobilizing a Community's Asset.(1993)
- Snow, Luther K. The Power of Asset Mapping: How your Congregation Can Act on Its Gifts. (2004)

2022年1月20日令和4年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
生活支援コーディネーター研修
食のちからで地域を豊かに事例から考える『食』のアクションプラン

# NPO法人
# お互いさまねっと公田町団地
# 「食」と「見守り」の取り組みについて

お互いさまねっと

NPO法人お互いさまねっと公田町団地
理事長　有友 フユミ

横浜市桂台地域ケアプラザ
生活支援コーディネーター　矢澤 美穂



## 公田町団地の概況

- 立地　JR大船駅よりバス15分のところにあり
  団地全体が小高い丘の上に建っているため
  団地内は坂が多い。

昭和39年から入居開始　（築59年）
規模　全33棟・1160戸
（内訳　1DK＝260戸 2DK＝590戸　3K＝310戸）

- 人口　約1,900人　所帯数　1,100世帯
- 高齢化率　約50%超



## 住棟　配置図




団地中央に立地
坂の上、バスの終点近く



## 急勾配の坂が続く





# 小高い丘の上



5

# 住棟・階段側





# 住棟・ベランダ側

6

## お互いさまねっと公田町団地 ができるまで

### ◆ 公田町団地が抱えていた課題

① 団地内のコンビニが撤退して買い物が不便に！
② 地域(団地内)、人のつながり、人の関わりが希薄になってきた
③ お互いの顔が見えなくなってきた
④ ちょっとした心配はどこに相談したら良いの？

| | | |
|---|---|---|
| 平成 8年6月 | スーパー | 閉店 |
| 平成 9年6月 | コンビニ | 開店 |
| 平成19年5月 | 〃 | 閉店 |

7

# 栄区孤独死予防モデル事業の地域に指定される

平成20年7月　お互いさまねっと公田町団地
事務局(運営)体制立上げ

◆ 平成20年8月　広く住民に呼びかけた
◆ タウンミーティングを開催

8

- 8/2・8/5・8/6・8/7 （昼・夜/日を含め）
- 5回 ＝連続開催

- 平成20年9月　運営協力者研修会 開催

※　お話し相手ボランテア研修講座
（75名の参加。29名が協力者登録

※　事務局会議
タウンミーテングの声を踏まえ
相談事業及びあおぞら市の開催を決定



- 平成20年10月1日　社会福祉士による
- 相談事業開始
- 毎週　火曜日・土曜日　集会所和室　10:00～16:00
- 平成21年9月30日で終了

- 平成20年10月7日
- あおぞら市　スタート
- 毎週火曜日　10:00～15:00

- 10月21日
お互いさまねっと公田町団地「通信」創刊



# 拠点開設前のあおぞら市





## 活動拠点がほしい

- 平成21年2月11日　自治会臨時総会
- NPO法人 お互いさまねっと公田町団地
- 団地内に新たな組織の誕生　＝　設立の承認

平成21年6月　読売新聞 全国版にて団地住民
- 自ら「あおぞら市」と紹介 ～**買物難民**
- **平成21年**
- **6月22日　NPO法人　お互いさまねっと**
- **公田町団地　設立総会**

## 神奈川県にNPO法人の申請書を提出

平成21年9月11日　神奈川県に認証され
平成21年9月14日　登記、法人成立

団地内空き店舗の利用のため厚生労働省、
国土交通省のモデル事業助成を受ける。

「安心住空間創出協議会」を設立

（都市再生機構、健康福祉局、まちづくり調整局、栄区の協議体）

13

- 平成22年2月1日
- 多目的拠点（仮称）改修　工事着工
- 平成22年2月25日
- 施設名を「いこい」に決定
- 平成22年3月26日
- お互いさまねっと
- 「いこい」　開所式

14

## 平成22年4月1日　NPO法人 お互いさまねっと公田町団地 多目的施設 「いこい」開館

- みんな！
- 元気！
- 気軽に！
- ふれあう場所に
- しよう　♪♪



15

## 拠点「いこい」の活動-あおぞら市







近隣の農家さんの野菜や障害施設のお弁当などを届けてもらっている。肉や魚などは地元スーパーで購入し、配達してもらっている。

16

# 街の雑貨屋さん



住民の出身地の
お米や野菜、
旬の果物など



日用品（かさばって持ち運びが大変な
トイレットペーパーや洗剤など）

わずかなリベートをのせて販売している。



# 街の雑貨屋さん



調理しないで
食べられるもの
（ラーメンなど、
インスタント食品）

パン

お菓子

牛乳

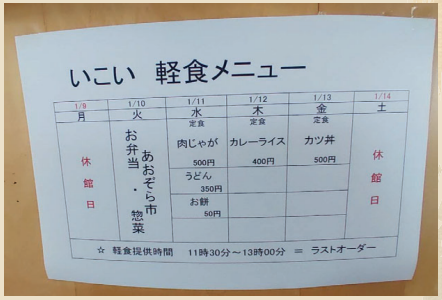
飲料

土日に安いところを探して
買い出しに行ったり



# 美味しい食事メニュー

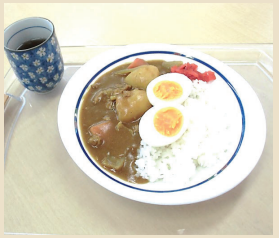
- 昼食の提供は独立採算制（光熱費除く）
- 火曜日にまとめて買い物をしている
- 5名の有償ボランティアスタッフ（ローテンションで対応）
- 月・水・金曜日は日替わり定食
- 木曜日はカレーの日






# 美味しい食事メニュー









平均して25食前後を提供しています

# サロンのみなさん



食事のあとのコーヒータイム



友人との待ち合わせ

21

# イベントで仲間づくり









22

# 見守り活動＝顔見知りを増やす活動

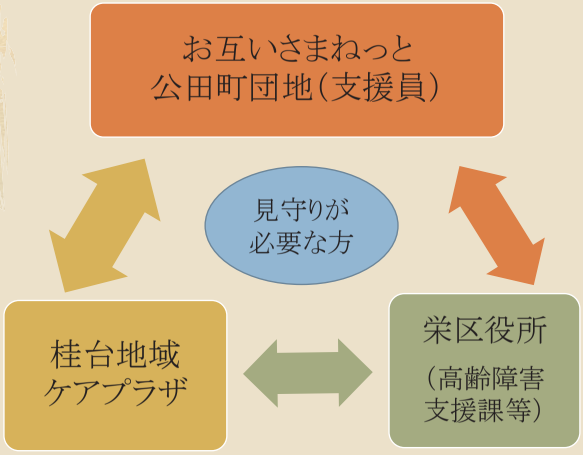
- 来所された方に「お元気ですか？」と声掛け
- 見守り支援員の平均居住年数は30年
- ⇒団地の人をよく知っている、知られている関係　（見守りのベースは顔の見える関係）



私たちの強み！

23

# 見守りの連携




- 緊急対応
- 照明、洗濯物、郵便物などの確認
- いこいに届いたSOSを見逃さず、伝える

24　24

# 桂台地域ケアプラザと
# いこいの関わり

地域包括支援センター、居宅介護支援、通所介護、地域活動交流CO、生活支援COの5部門があり、それぞれ連携しながら、関わらせて頂いています。

・1ヶ月に1回の見守りミーティング（地域包括支援センターと生活支援COが参加。区役所の高齢障害支援課や生活支援課も参加。）

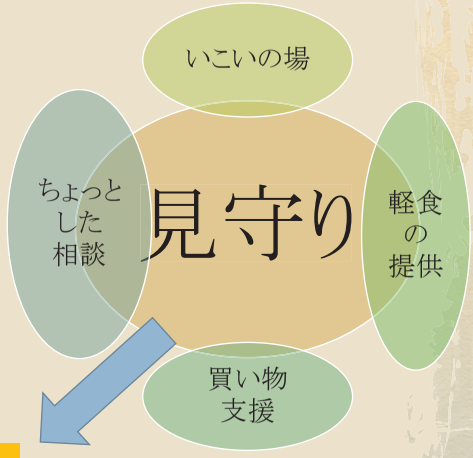
・何かあれば、随時訪問。こちらに寄せられた相談に対し、いこいに相談し、把握している情報を教えて頂いたり、訪問して頂くことも。

・ケアプラザのデイサービスを利用、ケアマネジャーが担当している方がいこいに通っていることも。情報共有を行っている。



# 2層SCから見た
# お互いさまねっと公田町団地

・民生委員からの情報、地域住民からの情報がいこいに集まる
・公田町団地はケアプラザまでは行きにくい立地。困っている方が相談に行くハードルが高い。
・身近な場所で「食」をやっているからこそ、人が集まる。困っているという自覚のない方も見守ることができる。
・買い物支援も行っているため、外のイスやテーブルもいこいの場になっている。
⇒地域になくてはならない存在！




桂台地域ケアプラザ



# 2層SCとしての関わり

地域ケアプラザという強みをいかし、個別支援（相談対応）・参加・地域づくりを一体的、重層的に支援している。

★出前講座の企画など
・コロナ禍で控えめになっている活動の支援
・いこいのフリースペースの活用
・ケアプラザに来れない方に情報を届ける
・地域の皆さんがいこいの存在や役割を再認識することにつなげる

⇒様々な課題について、これからも一緒に考えていきたい





# 課題や今後の取り組み

★継続していくための課題
・自主財源の確保
・担い手不足

誰もが安心して暮らせる街づくり
できることをできる範囲で！

★今後の取り組み
・イベント等の再開（全国フェアやビアガーデン）

# 夜明け





今日も頑張ろう！

29

【生活支援コーディネーター研修】

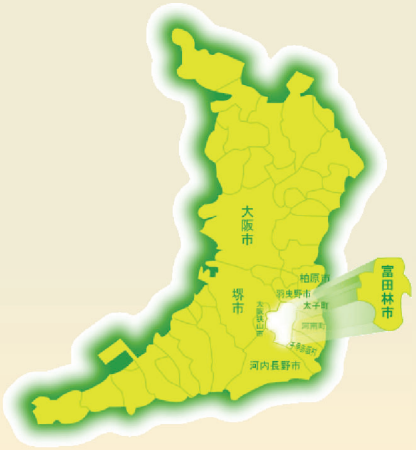
2023. 1. 20

食のちからで地域を豊かに
～事例から考える「食」のアクションプラン

# 「わっくCafé」の取り組み

一般社団法人わっく金剛 理事
岡本　聡子

## 富田林市の概要




面積：39．72㎢
（江東区や鎌倉市とほぼ同じ）

人口：109,976人（19年12月）

高齢化率：27.1%（2015年）

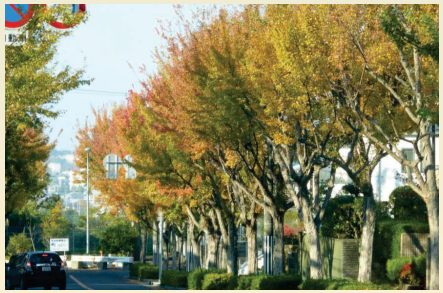
出生数：716人（2017年度）

旧市街地、ニュータウン、農村部に分かれ、大阪市・堺市などに通勤する住民が多い。
重要伝統的建造物地区に指定された寺内町がある。

## 金剛ニュータウンの概要



1965～69年に街開き。南海高野線金剛駅を最寄り駅に、公団が団地5000戸を建設



人口：16,226人（19年3月）

世帯数：8,295世帯（同）

小学校4校、中学校2校

高齢化が進行している



わっくCafé



# 新しい地域拠点、2021年スタート
## ～日替わり店主の店　わっくcafé～

- まちのなかに、だれもが集える常設拠点を
- 関わる人を自主的なプレーヤーに
- 多世代の、まちの内外の人が、得意なことを生かして、新たな可能性をつくりだす
- 自主的、自律的、持続可能的な活動

**市役所とＵＲ都市機構のバックアップで実現！**

## いつも開いている拠点、居場所をつくろう！
## 三つの目標･方法

目標Ⅰ・方法
たくさんの人が主役となり関われる仕掛け･工夫
⬇
BOXショップオーナー
日替わりcaféオーナー

目標Ⅱ・方法
だれでも気軽に立ち寄れる場所の仕掛け・工夫
⬇
お客さんとして
カレー食堂

目標Ⅲ・方法
進化し続ける柔軟な工夫
⬇
いつまでも未完成

## わっくｃａｆé

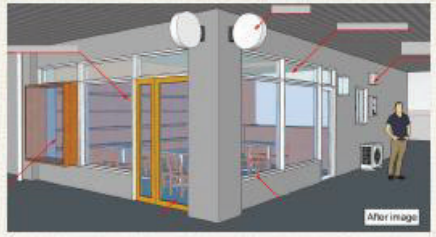
つながる気持ちが
ワイ(湧い)てきて
みんなの思いが
ワキ(沸き)あがる

わっくCafé
日替わりオーナーの店



## 金剛に常設拠点をつくる 参加型プロジェクト！

金剛銀座街商店会に多世代、そして金剛内外の人たち誰もが集える常設拠点をつくり、その拠点から新たな発展や、可能性がある自由な空間を参加型プロジェクトで創り出します。あなたにできる形でプロジェクトに関わりませんか？







池田泉州銀行金剛支店さんのお隣です

## その1 カフェまたはショップのオーナーとして参加！

自分の作ったパンを誰かに食べてもらいたい、こだわりの音楽をかけたい、週に1回くらいならCaféを開いてみたい…などなど。様々なオーナーたちが日替わりでいるCaféです。共通のドリンクメニュー以外は、オーナーのアイデアと工夫によって自由に展開できます。ハンドメイドが得意な人は、ボックスショップのオーナーに。
あなたの得意をいかして、誰もが集える居場所・空間づくりをしませんか？

詳しくは裏面へ

## その2 活動の運営を資金面で応援！

だれでも、いつでも、気ままに立ち寄れるみんなの居場所づくりに、1口3,000円の寄付で運営を応援。寄付1口につきコーヒーチケットを1枚プレゼント。また、HP・わっくCaféにお名前を掲載させていただきます。

## その3 ボランティアとして参加！

法人主催の企画のお手伝い、DIYやメンテナンスのお助けメンバーとして参加。

オーナー登録やボランティアなどのお問い合わせはこちら

**わっくCafé**

MAIL：wakkucafe@gmail.com
住所：大阪府富田林市寺池台１丁目９
（金剛銀座商店街内）

MAIL　HP　LINE公式アカウント（連絡も可）



いつでも、だれでも、気ままに立ち寄れる。
おしゃべりを楽しんだり、ほっと一息お茶の時間。
多彩な日替わりカフェオーナーの自慢のメニューやイベントも♫
見るのも自由！やるのも自由！

# ちょっとオシャレな わっくCafé

わっくCaféとは・・・
日替わりのカフェオーナーがいることで、多種多様なカフェになり、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の居場所をつくります。基本メニューがあるので、誰でも気軽にカフェとして利用できます。

### ●日替わりカフェオーナー

1枠（8時~14時or15時~21時）を3,000円で利用できます。
共通のドリンクメニュー以外は、店主のアイディアと工夫によって自由に展開できます。月に1回ペースから週に1回ペースでも、また仕事の休みの時に連続3日間だけオーナーをしてみるなど・・・生活スタイルにあわせてカフェオーナー活動をしてもらえます。カフェ以外にも、作品展の展示会などにも利用できます。

### ●ボックスショップオーナー

ご自身のショップとして、自由に作品の入れ替えやディスプレイができます。
1箱1か月1,000円で利用できます。

3ヶ月に1回オーナー交流会を開催しますので、他のオーナーと交流を深めてもらえます。

## 日替わりカフェオーナーやボックスショップのオーナーになってみたい！という方は

説明会に参加

**日替わりカフェオーナー**

趣旨に賛同したら「わっくカフェ」オーナー会員に登録！登録料3000円
※利用頻度に関わらず登録料は一律です

店主になる日を決めたらネットから予約

カフェ使用料とともに、共通ドリンクメニューの売り上げのうち50%を支払う。

**ボックスショップオーナー**

ボックスを選んで、ディスプレイ。商品のレイアウトに必要なものはオーナーが用意。

ドリンクの売り上げ1杯につき50円を支払う

**変更**

## 場所　銀座街商店街　空き店舗　中庭東南隅













オープンまで二日、
間に合うだろうか？



ひとが集う







## オープニング
## カレー食堂（こども食堂）スタート





趣味を楽しむ







立ち話や
BOXショップを
楽しむ









集ってワイワイ
家族でお出かけ

ひとりでのんびり





親子でゆっくり









おとなも
子どもも
いっしょに
カレーづくり





コロナ禍でも、
居場所を求めて
人はやってくる






ほっとかへん気持ちを形に！
願いが叶うクルスの海
（宮崎・日向）
ご清聴ありがとうございました




# 十和おかみさん市

高知県高岡郡四万十町十和

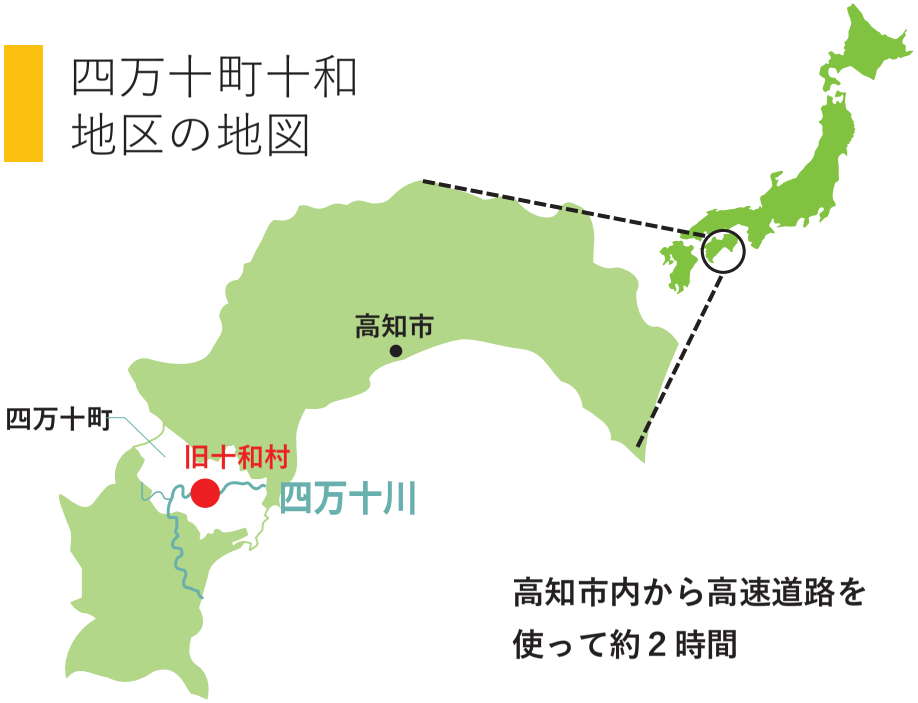
## 四万十川と沈下橋



元祖　鯉のぼりの川渡し



## 四万十町十和地区の地図




高知市内から高速道路を使って約２時間

## おかみさん市の成り立ち

| | |
|---|---|
| 1960年代 | 旧十和村集落単位の女性加工グループが産直活動開始 |
| 1997年 | 「ふるさと産品協議会」設立 |
| 1999年 | 「十和村女性ネットワーク」発足 |
| 2001年 | 「十和村地産地消（産直活動）運営協議会」発足 |
| 2003年 | 「おかみさん市」へ名称変更 |
| 2006年 | 四万十町へと合併<br>→行政的支援が厳しくなる |
| 2011年 | 「株式会社十和おかみさん市」設立 |
| 2015年 | 直販所「十和の台所」 開設 |

## おかみさん市の取り組み



**①野菜の直販・イベント販売**

**②おもてなしツアー**

**③おもてなしバイキング**

**④加工品の開発・販売**

**⑤学校と連携した伝承野菜の取り組み**

**⑥直販所における地域や生産者達とのつながり**





### ①野菜の直販・イベント販売

主に四万十町内、高知市内のスーパーを中心として、
月に数回、イベント実演販売を行っています。






### ②おもてなしツアー

市内のお客様を中心に十和に来ていただいて、お食事、
体験企画、お買い物などを
楽しんで帰っていただきます。
年2～３回、季節ごとの開催を予定しております。









### ②おもてなしツアー





元気いっぱい！　笑顔満開！
おかみさんたちと「おもてなしツアー」のお客様



おかみさん市の取り組み

## ③おもてなしバイキング

毎週木曜日、道の駅四万十とおわと連携して
おかみさん市バイキングを開催しています。
季節の食材をたくさん活かしたメニューが大人気！
新聞、テレビでも度々紹介されています！





おかみさん市の取り組み

## ③おもてなしバイキング



おかみさん市の取り組み

## ③おもてなしバイキング



しいたけのたたき

おかみさん市の取り組み

## ③おもてなしバイキング




いたどりの炒め煮

おかみさん市の取り組み

## ③おもてなしバイキング





りゅうきゅうの和物



おかみさん市の取り組み

## ③おもてなしバイキング



たけのこ寿司

おかみさん市の取り組み

## ③おもてなしバイキング



かき揚げ

おかみさん市の取り組み

## ④加工品の開発・販売

おかみさん市独自の加工品を開発し、
道の駅などで販売しています。













手作り味噌



豆腐の味噌漬

おかみさん市の取り組み

## ⑤学校と連携した伝承野菜の取り組み

地元の小学校の給食で、地元の野菜を使ってもらっています。

また食育の一環として、伝統野菜の栽培と料理を地元学校の子ども達と一緒に実施しています。





地元野菜の伝承/調理

おかみさん市の取り組み

## ⑤学校と連携した伝承野菜の取り組み






地元野菜の伝承/販売

おかみさん市の取り組み

## ⑥直販所における地域や生産者達とのつながり

2015年(平成27年)5月1日
念願の直販所「十和の台所」
リニューアルOPEN！




おかみさん市の取り組み

## ⑥直販所における地域や生産者達とのつながり



十和の台所・店内

## おかみさん市の取り組み

### ⑥直販所における地域や生産者達とのつながり





お弁当　１個４５０円（税込）
川エビ・鮎もたまに入ります。

## おかみさん市の取り組み

### ⑥直販所における地域や生産者達とのつながり





郷土料理体験教室
こんにゃくづくり体験

## 地域の連携と活動









地域の
生産者

野菜等の
出荷・協力

道の駅
四万十とおわ

おかみさん市の
料理を伝承

週に１度の
バイキング

連携

おかみさん市

栗の渋皮剥き
栗きんとんの製造
地域のコンビニ的役割
手作りのお弁当製造販売
地域のお野菜など販売

連携

連携

四万十ドラマ

栗・芋菓子を製造
全国に販売
新聞ばっぐの取組

地域の教育機関

学校給食と連携
伝統野菜の伝承

## これからやりたいこと

- **地元のおかみさん市後継者育成として交流の場づくり（田舎料理講習会等）に取り組む。**
- **おかみさん市の郷土料理レシピ集の作成**
- **視察研修などの積極的な受け入れ**
- **道の駅四万十とおわと連携し、若い世代におかみさん市の料理を伝承してもらう**






これからも
がんばるけん、
おかみさん市を
応援してよ～！

令和４年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究事業　　報告書

令和５（２０２３）年３月　発行

内容照会先　　一般社団法人　全国食支援活動協力会
〒158-0098　東京都世田谷区上用賀 6-19-21
TEL　03-5426-2547　　FAX　03-5426-2548
E-mail　infomow@mow.jp
URL　https://www.mow.jp